



つながりで  
支え輝く村づくり  
S A M E G A W A

〔 第4次鮫川村振興計画 〕

後期基本計画



福島県鮫川村

## ごあいさつ

本村では、行政活動の基本となります、第4次振興計画を平成27年度から令和6年度までの10年とする長期計画を策定し、「つながりで支え輝く村づくり」をテーマとして村民参加の村づくりを推進してまいりました。振興計画の策定に当たりましては、地域懇談会や村民アンケート、さらには村づくり委員からの貴重なご意見などを踏まえて策定しているものであります。

振興計画が策定されてから4年が経過した平成31年度には、年号が平成から令和となり新しい時代の幕開けとなりましたが、急激な人口減少や少子高齢化など、本村を取り巻く社会環境は年々変化しつつあります。さらには、令和元年度に発生した「台風19号」による自然災害や全世界で猛威を振るっている「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大など、私たちが近年経験したことがない規模での社会不安に直面しております。

こうした社会不安を払しょくしていくためにも、人と人との深い交流から生まれる「つながり」、昔ながら本村に息づく『お互い様』『結の精神』といった村民性である「支え(る)」、そして、村民の幸福度を高めるための「自助・共助・公助」を全村民が認識しながら、新たな時代に直面する課題に果敢に挑戦していく必要があります。

こうした中、第4次振興計画の折り返しの年度となる令和2年度におきまして、各施策の業績評価となる「KPI」（重要業績指標）の達成度や、業務の継続的な改善を促す「PDCAサイクル」により実施した前期の施策の評価検証を踏まえながら、各事業の公正性と透明性の向上に努め、令和6年度までを計画期間とした「後期基本計画」を策定いたしました。

この後期基本計画は、「心安らぐ美しい鮫川村」を次世代に残すための大切な計画となるとともに、次期長期計画であります「第5次振興計画」につなぎ合わせることで、新しい時代に挑戦していくための礎となるものであります。

苦しく困難な時であるからこそ、村民が一丸となって「村民主体の村づくり」を構築し、夢や希望を次世代につなぎ渡すことを願い、ごあいさついたします。

鮫川村長

周 松 政 雄



## 目 次

<b>第1部</b>	<b>総 論</b>	4
<b>第1章</b>	<b>計画の概要</b>	5
1	計画策定の目的	5
2	計画の役割と構成	5
<b>第2章</b>	<b>鮫川村の概況</b>	7
1	位置と地勢	7
2	村の歩み	8
3	人口の状況	8
<b>第3章</b>	<b>新たな村づくりに向けて</b>	11
1	鮫川村の特性・資源	11
2	鮫川村を取り巻く時代の流れ	13
3	村民が求める鮫川村の姿	16
4	村づくりの主要課題	22
<b>第2部</b>	<b>基本構想</b>	24
<b>第1章</b>	<b>鮫川村の将来像</b>	25
1	村づくりの理念	25
2	2024鮫川の将来像	28
<b>第2章</b>	<b>人口の目標と計画の体系</b>	30
1	人口の目標	30
2	計画の体系	31
<b>第3章</b>	<b>施策の方針</b>	32
1	きれいで安全なふるさと鮫川	32
2	健やかで安心なふるさと鮫川	34
3	活力と交流に満ちたふるさと鮫川	36
4	人と文化が輝くふるさと鮫川	38
5	生活基盤が整ったふるさと鮫川	39
6	ともにつくるふるさと鮫川	41
<b>第4章</b>	<b>重点構想</b>	43
1.	つながりでさめがわ回帰	44
2.	中心市街地・空き家・集落対策	45
3.	子ども・若者・女性の定住	46
4.	多様な働き方	48
5.	つながりで顔の見える交流	50
6.	新しい農業観による農業振興	51
7.	地域自給自足の理念	53
8.	観光資源の整備充実による賑わい創出	54



## 目次

<b>第3部</b>	<b>後期基本計画</b>	56
<b>第1章</b>	<b>きれいで安全なふるさと鮫川</b>	58
1	環境・景観、エネルギー	58
2	ごみ処理等環境衛生	61
3	上・下水道	64
4	公園・緑地、緑化	67
5	消防・防災体制の強化	69
6	防犯・交通安全	72
<b>第2章</b>	<b>健やかで安心なふるさと鮫川</b>	75
1	保健・医療	75
2	子育て支援	80
3	高齢者支援	83
4	障がい者支援	87
5	地域福祉	90
6	社会保障	93
<b>第3章</b>	<b>活力と交流に満ちたふるさと鮫川</b>	95
1	農林畜産業	95
2	観光・交流	99
3	商工業	102
4	雇用対策	105
5	消費者対策	107
<b>第4章</b>	<b>人と文化が輝くふるさと鮫川</b>	109
1	生涯学習	109
2	学校教育	111
3	文化芸術・文化財	116
4	スポーツ	119
5	幼児教育	121
6	教育行政	122
<b>第5章</b>	<b>生活基盤が整ったふるさと鮫川</b>	124
1	土地利用	124
2	住宅施策、定住・移住	126
3	道路・公共交通	128
4	情報化	131
<b>第6章</b>	<b>ともにつくるふるさと鮫川</b>	135
1	男女共同参画	135
2	コミュニティ	136
3	協働の村づくり	138
4	自治体経営	141
<b>第7章</b>	<b>計画の達成状況の点検及び評価</b>	146
1	点検及び評価の基本的な考え方	146
2	点検及び評価体制	146

# 第1部

# 総論

<b>第1章</b>	<b>計画の概要</b>
<b>第2章</b>	<b>鮫川村の概況</b>
<b>第3章</b>	<b>新たな村づくりに向けて</b>

# 第1章 計画の概要

## 1 計画策定の目的

本村では、これまで第3次鮫川村振興計画（平成17年度～平成26年度）に基づき、基本理念として掲げた「まめな暮らしが育む環境を生かした やすらぎとふれあいの村の実現」に向け、各種施策を村民とともに積極的に推進し、着実に成果を上げてきました。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災と、これに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故は、本村にも大きな被害をもたらしました。とりわけ原子力発電所の事故による放射性物質による環境汚染や風評被害は、かつて経験したことのない災害となりました。

全国的な安全・安心への意識の高まり、少子高齢化・人口減少の急速な進行、地球規模での環境保全の重要性の高まり、さらには地方分権<sup>\*1</sup>の進展など、本村を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきています。

また、村内においては、人口減少や少子高齢化が急速に進み、これらへの対応が大きな課題となっているほか、村民ニーズは、“快適で安全な居住環境の整備”や“保健・医療・福祉の充実”を重視する傾向が強まっています。

今後、厳しい財政状況が続くことが見込まれる中で、こうした内外の動向に的確に対応しながら、自立・持続可能な鮫川村をつくっていくためには、住民力の結集や行財政運営の効率化を一層進めながら、新しい自治体経営を進めていく必要があります。

このため、村民の村づくりの共通目標として、また、村の新たな経営指針として、「第4次鮫川村振興計画」を策定します。

## 2 計画の役割と構成

### (1) 計画の役割

振興計画とは、自治体が行うあらゆる行政活動の基本となるものであり、自治体の計画の中で最も上位に位置する「最上位計画」です。

本計画は、こうした位置づけを踏まえ、次のような役割を持つ計画として策定したものです。

鮫川村民にとっては

**村づくりに参画・協働するための共通目標**

今後の村づくりの方向性や必要な取り組みを行政と共有し、村づくりに主体的に参画・協働していくための共通目標となるものです。

鮫川村行政においては

**自立・持続可能な村づくりのための経営指針**

地方分権時代にふさわしい個性的で自立した村を創造し、将来にわたって持続していくための総合的な経営指針となるものです。

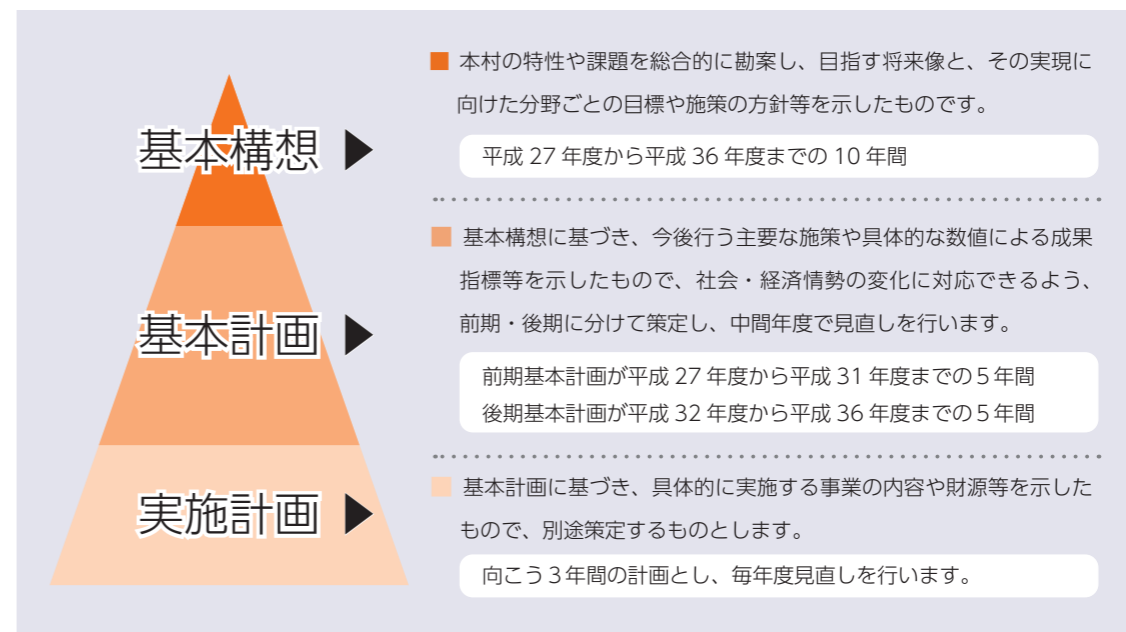
国・福島県・周辺自治体に対しては

**必要な施策を要請するための村の主張**

国や福島県、周辺自治体に対しては、必要な施策や事業を村として主体的に要請していくためのわが村・鮫川村の主張を示すものです。

### (2) 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。それぞれの構成と期間は、次のとおりです。



### (3) 計画の特徴

本計画は、近年の本村をめぐる情勢の変化を踏まえ、従来の振興計画の要素に、新たな視点を加えた“新しい振興計画”を目指すものであり、次のような特徴を持つ計画として策定したものです。

#### ■ すべての村民が共感・共有できる、わかりやすい計画

村づくりへの村民の参画・協働を一層促進するため、計画策定段階における村民参画、村民ニーズの反映を重視するとともに、計画の構成や内容、表現等についても、わかりやすく親しみやすいものとし、すべての村民が共感・共有できる計画として策定しました。

#### ■ “鮫川流”を追求する、明るく積極的な村づくり計画

村を取り巻く情勢が厳しさを増す中でも、選択と集中の視点に立ち、本村ならではの個性と魅力をさらに高めることに重点を置き、本村の特性・資源を最大限に生かして“鮫川流”を追求する、明るく積極的な村づくり計画として策定したものです。

5 <sup>\*8</sup> 国主導型行政から住民主導型・地域主導型行政への転換に向けた国と地方との関係や役割分担の改革

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の進捗  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整った  
ふるさと鮫川  
ともに歩む  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 第2章 鮫川村の概況

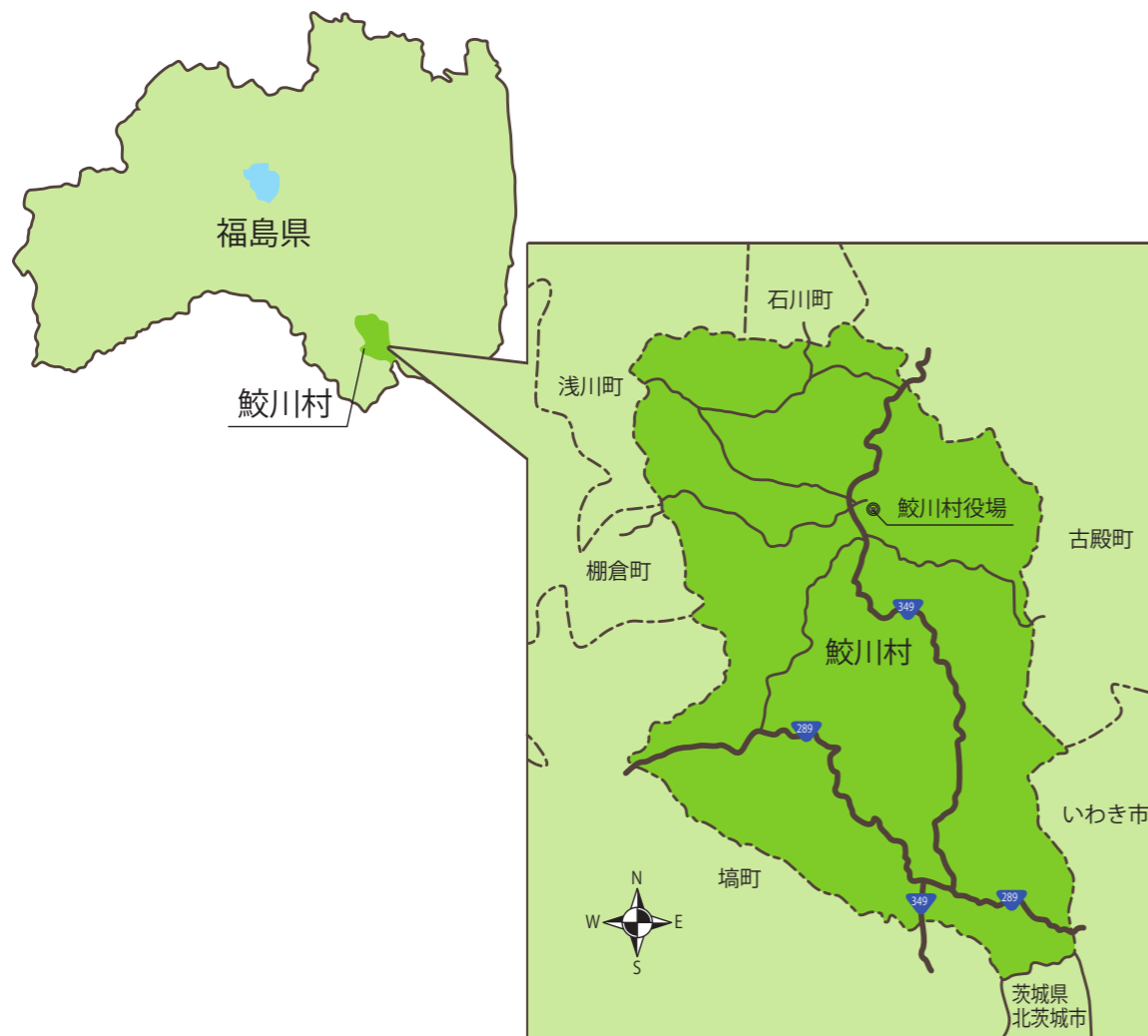
### 1 位置と地勢

本村は、福島県の南端、東白川郡の北東部に位置し、東は古殿町といわき市、南は茨城県北茨城市と塙町、西は棚倉町と浅川町、北は石川町に接しています。

阿武隈高原南部の頂上部にあたるため、山脈・丘陵が重なり、大部分が標高 400 m から 650 m の範囲にあります。

総面積は 131.34km<sup>2</sup> で、そのうち山林が 7 割以上を占めています。

気候は概ね表日本型であり、年平均気温は 10℃、年間降水量は 1,200 ～ 1,500 mm 程度となっています。



### 2 村の歩み

本村に人が住みついたのは、村に残る高敷遺跡と姿平西遺跡から、縄文時代前期と推定されます。また、縄文時代中期から弥生時代後期に及ぶ数々の遺跡も発掘されています。

この地方一帯は、上古は「陸奥」、中世は「赤坂の郷」と呼ばれ、中世以降は、芦名氏、上杉氏、赤坂氏の所領、幕府直轄、さらに小見川藩、棚倉藩の所領と、次々に領主の交代がありました。

明治 4 年の廃藩置県により棚倉県と小見川県の所管となり、同年の合併により平県に所属、すぐに平県は磐前県と改称され、明治 9 年には福島県が成立し、町村制が実施されました。

そして明治 22 年に赤坂西野村、西山村、赤坂中野村、赤坂東野村、石井草村、富田村、渡瀬村の 7 か村が合併し、現在の鮫川村を構成しました。赤坂東野と石井草をあわせて 1 行政区とし、他は旧村を 1 行政区として、6 行政区で村政が行われました。

昭和 22 年には地方自治法の施行により、町村制の村から地方自治法に基づく地方自治体になり、昭和 24 年には渡瀬区から青生野を 1 区に独立させ、7 行政区となりました。

そして平成の大合併の時代を迎えますが、鮫川村、棚倉町、塙町の 3 町村の合併案に対し、平成 15 年の住民投票において村民の 70% が反対の意思を示し、本村の自立・存続が決定し、現在に至っています。

### 3 人口の状況

#### (1) 人口と世帯

平成 22 年の国勢調査によると、本村の総人口は 3,989 人で、平成 17 年の 4,322 人から 333 人の減少がみられ、減少率は 7.7% となっています。

福島県下 59 自治体のうち、この 5 年間で人口が増加したのは 7 自治体、減少したのは 52 自治体ですが、本村は 13 番目に高い減少率となっています。

また、福島県南地域（白河市及び西白河郡・東白川郡町村の計 9 自治体）でみると、この 5 年間で人口が増加したのは 2 自治体（西郷村・泉崎村）、減少したのは 7 自治体ですが、本村は減少率が最も高くなっています。

年齢 3 区分別にみると、15 歳未満の年少人口は 487 人（12.2%）、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は 2,249 人（56.4%）、65 歳以上の高齢者人口は 1,253 人（31.4%）となっています。

これを全国及び福島県との比較でみると、年少人口比率（12.2%）は全国平均（13.1%）や県平均（13.6%）を下回り、高齢者人口比率（31.4%）は全国平均（22.8%）や県平均（24.9%）を大幅に上回り、少子高齢化、特に高齢化が進んでいることがうかがえます。

また、本村の総世帯数は 1,106 世帯となっており、横這い傾向で推移しています。

1 世帯当たり人員は 3.61 人となっており、比較的多くなっていますが、一貫して減少を続けており、核家族化や世帯の多様化が進んでいることを示しています。



計画の概要  
鮫川村の概況  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
鮫川  
健康で安心な  
鮫川  
活力と交流に  
満ちた鮫川  
人と文化が輝く  
鮫川  
生活基盤が整っ  
た鮫川  
ともに歩む  
鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

■ 総人口・年齢3区分別人口・総世帯数・1世帯当たり人員 (単位：人、%、世帯)

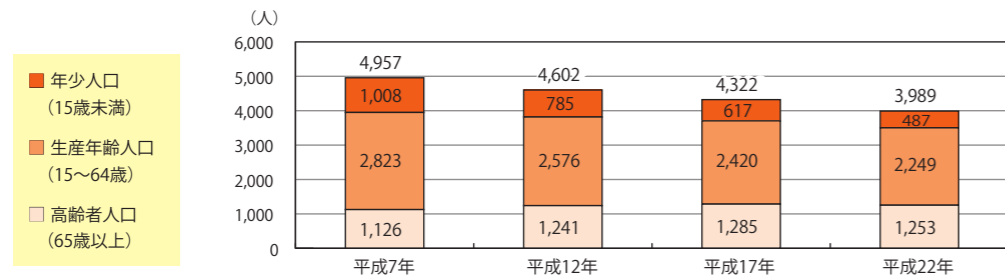
項目	年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総人口		4,957	4,602	4,322	3,989
年少人口 (15歳未満)		1,008 (20.3)	785 (17.1)	617 (14.3)	487 (12.2)
生産年齢人口 (15～64歳)		2,823 (56.9)	2,576 (56.0)	2,420 (56.0)	2,249 (56.4)
高齢者人口 (65歳以上)		1,126 (22.7)	1,241 (27.0)	1,285 (29.7)	1,253 (31.4)
総世帯数		1,107	1,092	1,110	1,106
1世帯当たり人員		4.48	4.21	3.89	3.61

■ 年齢3区分別人口比率の国・県との比較 (平成22年) (単位：%)

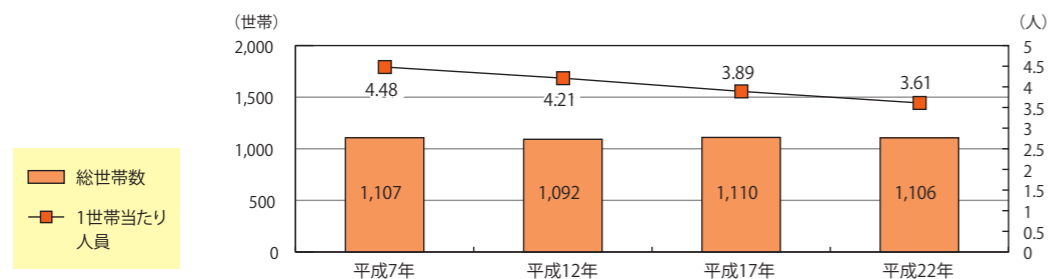
項目	区分	全国	福島県	鮫川村
年少人口		13.1	13.6	12.2
生産年齢人口		63.3	60.9	56.4
高齢者人口		22.8	24.9	31.4

注) 年齢不詳を除く。

■ 総人口・年齢3区分別人口 (単位：人)



■ 総世帯数・1世帯当たり人員 (単位：世帯、人)



資料：国勢調査

(2) 就業構造

平成22年の国勢調査によると、本村の就業者総数は1,897人で、平成17年の2,219人から322人の減少がみられ、減少率は14.5%と、総人口の減少率(7.7%)の2倍近くの割合を示しており、特に急速に減少していることがうかがえます。

産業3部門別にみると、農業、林業、漁業などの第1次産業は385人(20.3%)、建設業、製造業などの第2次産業は755人(39.8%)、これら以外の第3次産業は712人(37.5%)となっています。

これを全国及び福島県との比較でみると、第1次産業の構成比率(20.3%)は全国平均(4.0%)や県平均(7.6%)を大幅に上回り、第2次産業の構成比率(39.8%)も全国平均(23.7%)や県平均(29.2%)を大幅に上回り、第3次産業の構成比率(37.5%)は全国平均(66.5%)や県平均(60.0%)を大幅に下回り、第1次産業及び第2次産業の構成比率が非常に高いことが特徴となっています。

しかし、これまでの状況を見ると、その第1次産業と第2次産業が人数、構成比率ともに大幅に減少し、就業構造が大きく変化してきています。

■ 就業者総数・産業3部門別就業者数・就業率 (単位：人、%)

項目	年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
就業者総数		2,549	2,409	2,219	1,897
第1次産業		664 (26.0)	582 (24.2)	551 (24.8)	385 (20.3)
第2次産業		1,159 (45.5)	1,104 (45.8)	909 (41.0)	755 (39.8)
第3次産業		723 (28.4)	717 (29.8)	759 (34.2)	712 (37.5)
就業率		51.4	52.3	51.3	47.6

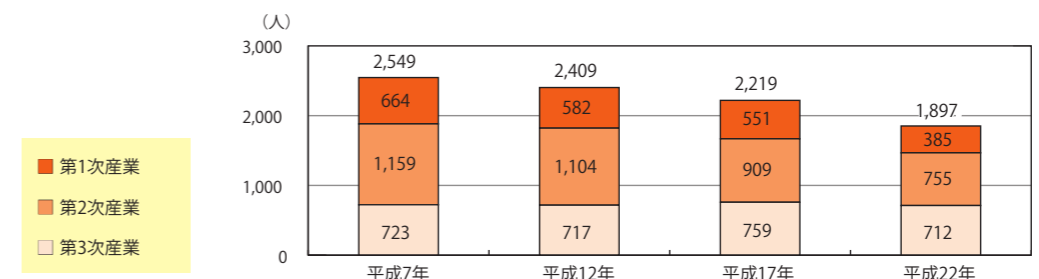
注) 就業者総数には、平成7年に3人、平成12年に6人、平成22年に45人の分類不能を含む。

■ 産業3部門別就業者数比率の国・県との比較 (平成22年) (単位：%)

項目	区分	全国	福島県	鮫川村
第1次産業		4.0	7.6	20.3
第2次産業		23.7	29.2	39.8
第3次産業		66.5	60.0	37.5

注) 分類不能を除く。

■ 就業者総数・産業3部門別就業者数 (単位：人)



資料：国勢調査

## 第3章 新たな村づくりに向けて

### 1 鮫川村の特性・資源

本村は、特色ある農業の村としての特性をはじめ、様々な特性・資源を持つ村です。個性と魅力をさらに高める視点に立ち、今後の村づくりに生かすべき代表的な特性・資源を整理すると、次のとおりです。

#### 1 「まめで達者な村づくり」や「有機の里づくり」を積極的に進める、特色ある農業の村

本村は、農業を基幹産業として発展してきた村であり、水稲作を中心に、畜産や夏秋野菜の生産などの複合経営が行われてきたほか、農業資源等を生かし、都市との交流に積極的に取り組むなど、特色ある農村づくりを進めてきました。

これまで、農業就業者の高齢化や後継者不足に対応し、高齢者の健康・生きがいづくりと農業の振興、特産品の開発、就業人口の増加等を同時に目指す「まめで達者な村づくり事業」に取り組んできました。

この事業では、大豆やエゴマなどの生産、豆腐や味噌、納豆などの大豆加工品を生産・販売する農産物加工・直売所「手・まめ・館」の整備等を行い、農産物の加工・直売はもとより、地産地消や食農教育の場、都市との交流の情報発信基地として活用しています。

また、家畜排せつ物の有効利用と農産物生産における化学肥料や農薬の低減化、雇用の創出等を目的とした鮫川村土づくりセンター「ゆうきの郷土」を整備し、安全・安心で環境にやさしい「有機の里づくり」にも力を入れています。

#### 2 阿武隈山系の雄大な自然と、農業に育まれた心癒される農村環境・里山景観を誇る村

本村は、阿武隈高原南部の頂上部に位置する高原の村であり、美しい山並みや緑輝く森林に囲まれるとともに、阿武隈川、鮫川、久慈川の源流部にあたり、ヤマメが生息する清流が流れ、豊かな緑ときれいな水、そしてさわやかな空気に包まれた雄大な自然が息づいています。

また、古くからの農業の営みによって育まれ、維持されてきた農村環境・里山景観は、昔も今も村内外の多くの人々に癒し・やすらぎを与える本村ならではのかけがえのない財産であり、これからの村づくりに生かすべき貴重な資源となっています。

### 3 「鹿角平観光牧場」や「館山公園」をはじめ、魅力ある観光・交流資源を有する村

本村には、これまでみてきた農業資源や自然資源、農村環境・里山景観のほかにも、標高 700 m にあって 360 度の眺望を誇り、天文台やバーベキューハウス、コテージ、バンガロー、クロスカントリーコースが整備された「鹿角平観光牧場」、村民の参画・協働によって整備を進めている「館山公園」、体験型の宿泊施設である「ほっとはうす・さめがわ」や「山王の里」、村民保養施設「さざり荘」、さらにはしだれ桜や紅葉の名所、「鮫川ふるさと春まつり」や「高原の鮫川うまいもの祭り」などの祭り・イベント等々、魅力ある観光・交流資源を有しています。

### 4 保健・福祉・子育て環境が充実した、安心して暮らせる村

本村には、保健センターや国民健康保険診療所、歯科診療所を 1 か所に集めた保健・医療の拠点があり、特に、保健面では、きめ細かな保健サービスを提供し、着実に成果を上げており、アンケート調査の結果（村民）において、「保健サービス提供体制」に関する村民の満足度が 46 項目のうちで最も高くなっています。

また、福祉・子育て面においても、高齢者関連施設である「ひだまり荘」や、保育所と子育て支援センター、幼稚園の 3 つの機能を持つ「さめがわ子どもセンター」を有するほか、社会福祉協議会等との連携のもと、充実した福祉・介護施策や子育て支援施策を推進しており、安心して暮らせる村としての特性を持ちます。

### 5 人口規模が比較的小さく、村民との距離が近く、一人ひとりの顔がみえる村

本村は、平成の大合併の流れの中で、村民の意思により、自立・存続の道を選択した村であり、総人口は約 4,000 人（平成 22 年国勢調査・3,989 人）となっています。

規模の大きな自治体に比べ、村民と行政との距離が近く、一人ひとりの顔がみえ、村民ニーズへのきめ細かな対応や住民力の結集、そして村一体となった特色ある村づくりを行いやすい村といえます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整った  
ふるさと鮫川  
ともに  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の将来  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健康で安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ともしび  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 6 村を愛する心やさしい人が住み、参画・協働の村づくりが行われている村民パワーの村

雄大な自然や特色ある農業の村としての歩みなどによって古くから培われ、受け継がれてきた村民の村への愛着心やさしさ、地域連帯感の強さは、これからの村づくりに生かすべき本村の優れた特性といえます。

アンケート調査の結果（村民）においても、“愛着を感じている”という人が85.6%と9割弱にのぼっています。

また、こうした村民気質などを背景に、「まめで達人な村づくり事業」をはじめ、ごみのないきれいな村づくりや館山公園の整備、子育て支援の取り組み、さらには行政区や組による地域活動など、幅広い分野で村民の参画・協働による村づくりが活発に行われています。

## 2 鮫川村を取り巻く時代の流れ

本村を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化し、様々な分野において新たな時代が到来しています。今後の村づくりにおいて踏まえるべき代表的な時代の流れは、次のとおりです。

### 1 安全・安心の時代

未曾有の被害をもたらした東日本大震災をはじめ、全国各地で地震災害や大雨災害が発生し、地域の防災・減災体制や原子力施設の安全性に関する人々の意識がさらに高まってきています。

また、凶悪犯罪や悪質商法による被害の発生、食の安全・安心をゆるがす様々な問題の発生、国境を越えた感染症の発生、さらには身近な医療・福祉への関心の高まりなどを背景に、安全に安心して暮らせる社会づくりが強く求められています。

このため、今後の村づくりにおいては、大地震への備えや地域ぐるみの防犯体制の整備はもとより、あらゆる分野で安全・安心の視点を重視した取り組みを進めていくことが求められます。

### 2 少子高齢・人口減少の時代

わが国では、未婚化・晩婚化などを背景に、出生数が一貫して減少し、少子化がさらに深刻化しつつあり、これに伴い、総人口も急速に減少してきています。

また、高齢化も世界一のスピードで進んでおり、今後も、団塊の世代がすべて高齢期に入ることにより、高齢者人口がさらに急激に増加することが予想されています。

このため、今後の村づくりにおいては、あらゆる分野において、少子化対策や超高齢社会に即した環境づくりを一層積極的に進めていくことが求められます。

### 3 環境保全・再生可能エネルギーの時代

地球温暖化が進み、気候変動や生態系に大きな影響を及ぼし、世界的に深刻な脅威となっています。

また、国内においても、自然の減少や水質汚濁等の身近な環境問題の発生をはじめ、東日本大震災に伴う原子力事故の発生等を背景に、環境保全やエネルギーのあり方に対する関心がさらに高まってきています。

このため、今後の村づくりにおいては、自然環境の保全や廃棄物の減量化・資源化、再生可能エネルギーの利活用をはじめ、環境負荷の少ない持続可能な社会の形成に向けた取り組みを一層積極的に進めていくことが求められます。

### 4 地域産業再生の時代

近年、地方の産業・経済は、一部で持ち直しの動きもみられるものの、総体的には依然として厳しい状況が続いています。

古くからわが国を支えてきた第1次産業の低迷、商店街の空洞化、企業の撤退等の状況がみられ、これらに伴う雇用情勢の悪化や地域全体の活力低下が大きな問題となっており、地域産業の再生が求められる時代が到来しています。

このため、今後の村づくりにおいては、こうした動向を十分に踏まえながら、地域産業の再生を促す取り組みを模索していくことが求められます。



## 5 質的価値重視の時代

社会・経済情勢の変化に伴い、人々の価値観も、物の豊かさから心の豊かさへ、量の拡大から質の向上へと大きく変化し、美しさや快適さ、個性や感性など、生活の質を重視する傾向を強めています。

このため、今後の村づくりにおいては、こうした動向に対応し、精神的な豊かさや感動、自己実現、そして地域活性化につながる特色ある学習・文化・スポーツ活動の促進に努めるとともに、生活環境・基盤の整備にあたって、生活の質的向上を重視した取り組みを進めていくことが求められます。

## 6 国際化・情報化の時代

高速交通網や情報通信網の発達を背景に、人・物・資本・情報の地球規模での交流がさらに活発化し、あらゆる分野で国際化が一層進展しています。

また、インターネットの普及により、世界中の情報を手軽にかつ瞬時に入手し、自らの情報を発信することができる環境が実現したほか、これを活用して行政サービスの提供等を行う電子自治体の構築が進んでいます。

このため、今後の村づくりにおいては、こうした国際化や情報化を地域活性化のための社会基盤として認識し、一層積極的に取り組んでいくことが求められます。

## 7 コミュニティ再生の時代

全国的に限界集落<sup>\*2</sup>の増加や高齢者の孤独死の発生が社会問題となっているほか、多くの地域において住民同士の交流の減少や地域連帯意識の希薄化がみられ、コミュニティの弱体化や崩壊が懸念されています。

しかし、近年、身近な地域での防災・防犯活動や、高齢者や子どもの見守りなどの必要性が高まっているほか、東日本大震災の発生等を背景に、地域で支え合い助け合いながら地域の課題を自ら解決していくことの重要性が再認識されるようになってきており、コミュニティの再生と創造が強く求められています。

このため、今後の村づくりにおいては、あらゆる分野において、人と人とが支え合い助け合う村づくり、コミュニティ機能の強化を促す環境整備を進めていくことが求められます。

## 8 地方分権、住民協働の時代

わが国では、国主導型行政から住民主導型・地域主導型行政への転換が進められ、国の権限や財源を地方へ移譲する動きがさらに本格化しています。

これに伴い、自治体には、住民とともに自らの未来を自らで決め、具体的な施策を自ら実行できる能力が一層強く求められます。

このため、これからの村づくりにおいては、住民と行政との協働の村づくり、住民団体やNPO<sup>\*3</sup>、民間企業等の多様な主体がともに公共を担う取り組みを進めながら、自治体経営の効率化をさらに進め、自立・持続可能な経営体制を確立していくことが求められます。

### 3 村民が求める鮫川村の姿

本村では、本計画の策定にあたって、村民の意識やニーズを反映させるため、村民及び中学生を対象としたアンケート調査を行いました。その結果の中から、代表的な設問結果を抜粋すると、次のとおりです。

なお、本調査は、平成25年12月に、18歳以上の村民2,000人（無作為抽出）と中学生102人（全員）を対象に実施したもので、村民の有効回収数は833、有効回収率は41.7%、中学生の有効回収数は99、有効回収率は97.1%となっています。

#### ① 村への愛着度と定住意向（村民・中学生）

村民：“愛着を感じている”が85.6%、  
中学生：“好き”が62.6%で愛着度が強い（前回アンケートよりも上昇）。  
村民：“住み続けたい”が80.5%、  
中学生：“住み続けたい”が57.6%で定住意向も強い（前回アンケートよりも上昇）。

\*2 住民の50%以上が65歳以上の高齢者になり、社会的共同生活の維持が困難になった集落

\*3 民間非営利組織

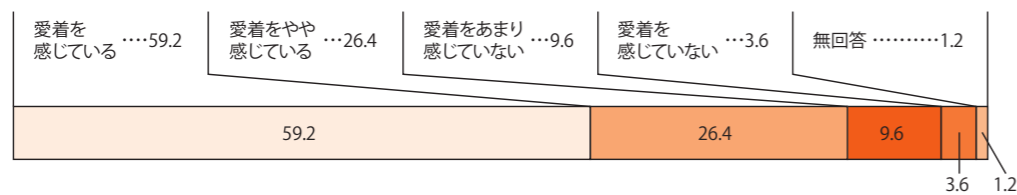
計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の推移  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ともに歩める  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

村への愛着度については、村民は、「愛着を感じている」と「愛着をやや感じている」をあわせた“愛着を感じている”という人が85.6%と9割弱にのぼっています(前回アンケートの81.1%よりも約5%上昇)。また、中学生は、「とても好き」と「好き」をあわせた“好き”が62.6%と6割強となっています(前回アンケートの32.1%よりも約31%上昇)。

今後の定住意向については、村民は、「これからもずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた“住み続けたい”という人が80.5%と約8割にのぼっています(前回アンケートの78.6%よりも約2%上昇)。また、中学生は、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた“住み続けたい”が57.6%と6割弱となっています(前回アンケートの23.7%よりも約34%上昇)。

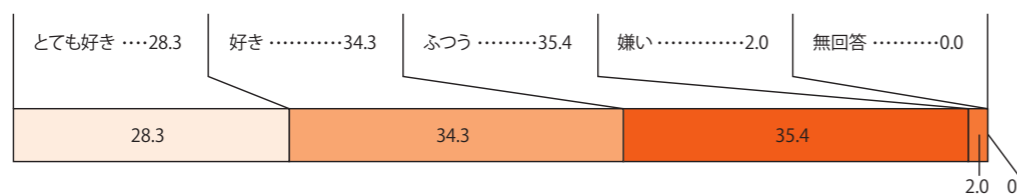
■ 村への愛着度 (村民)

(単位：%)



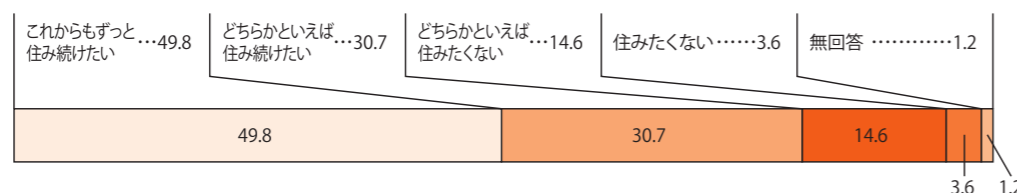
■ 村への愛着度 (中学生)

(単位：%)



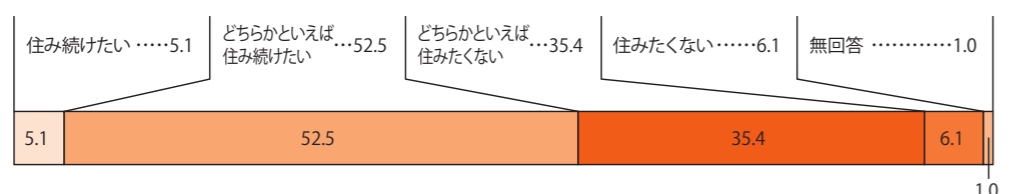
■ 今後の定住意向 (村民)

(単位：%)



■ 今後の定住意向 (中学生)

(単位：%)



② 今後どのような村にしたいか (村民・中学生)

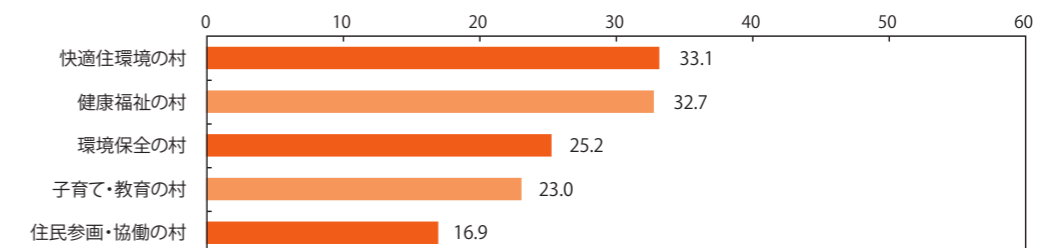
村民：「快適住環境の村」と「健康福祉の村」に回答が集中。20・30代では「子育て・教育の村」が第1位。  
中学生：「環境保全の村（自然や環境にやさしい村）」と「快適住環境の村（快適で安全に暮らせる村）」に回答が集中。

今後、本村をどのような村にしたいかについては、村民は、「快適住環境の村」と「健康福祉の村」に回答が集中し、“快適で安全な居住環境の整備”と“保健・医療・福祉の充実”に村民の関心が集まっていることがうかがえます。年齢別で見ると、20代・30代では「子育て・教育の村」が第1位となっており、これら子育て中の年代では、“子育て環境や子どもの教育環境の充実”を望む声が強くなっています。

中学生は、「環境保全の村（自然や環境にやさしい村）」と「快適住環境の村（快適で安全に暮らせる村）」に回答が集中し、“自然や環境の保全”と“快適で安全な居住環境の整備”に中学生の関心が集まっていることがうかがえます。

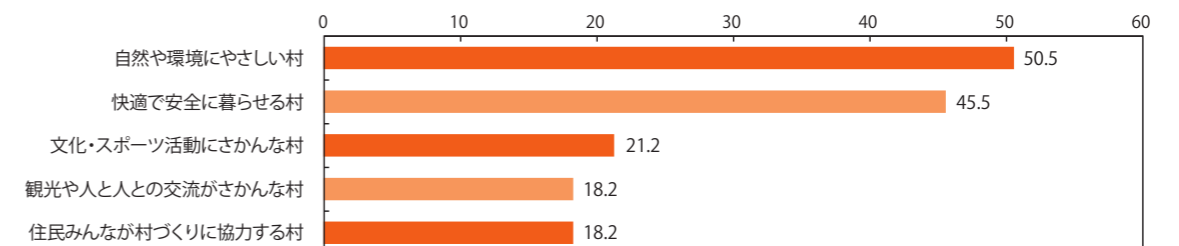
■ 今後どのような村にしたいか (村民・上位第5位)

(単位：%)



■ 今後どのような村にしたいか (中学生・上位第5位)

(単位：%)



計画の概要  
鮫川村の概況  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健康で安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ともに歩める  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

### ③ 村の各環境に関する満足度と重要度（村民）

満足度が最も高いのは「保健サービス提供体制」。次いで「し尿処理の状況」、「消防・救急体制」。一方、満足度が最も低いのは「工業振興・企業誘致の状況」。次いで「雇用対策の状況」、「商業振興の状況」。

重要度が最も高いのは「医療体制」。次いで「防災体制」、「消防・救急体制」、「保健サービス提供体制」、「子育て支援体制」。

本村の各環境についての満足度を把握するため、6分野46項目を設定し、項目ごとに村民に評価してもらい、点数化しました。

その結果、満足度が最も高いのは「保健サービス提供体制」で、次いで「し尿処理の状況」、「消防・救急体制」などの順となっており、保健・医療・福祉分野や教育・文化分野を中心に、ほとんどの分野の満足度が高くなっています。

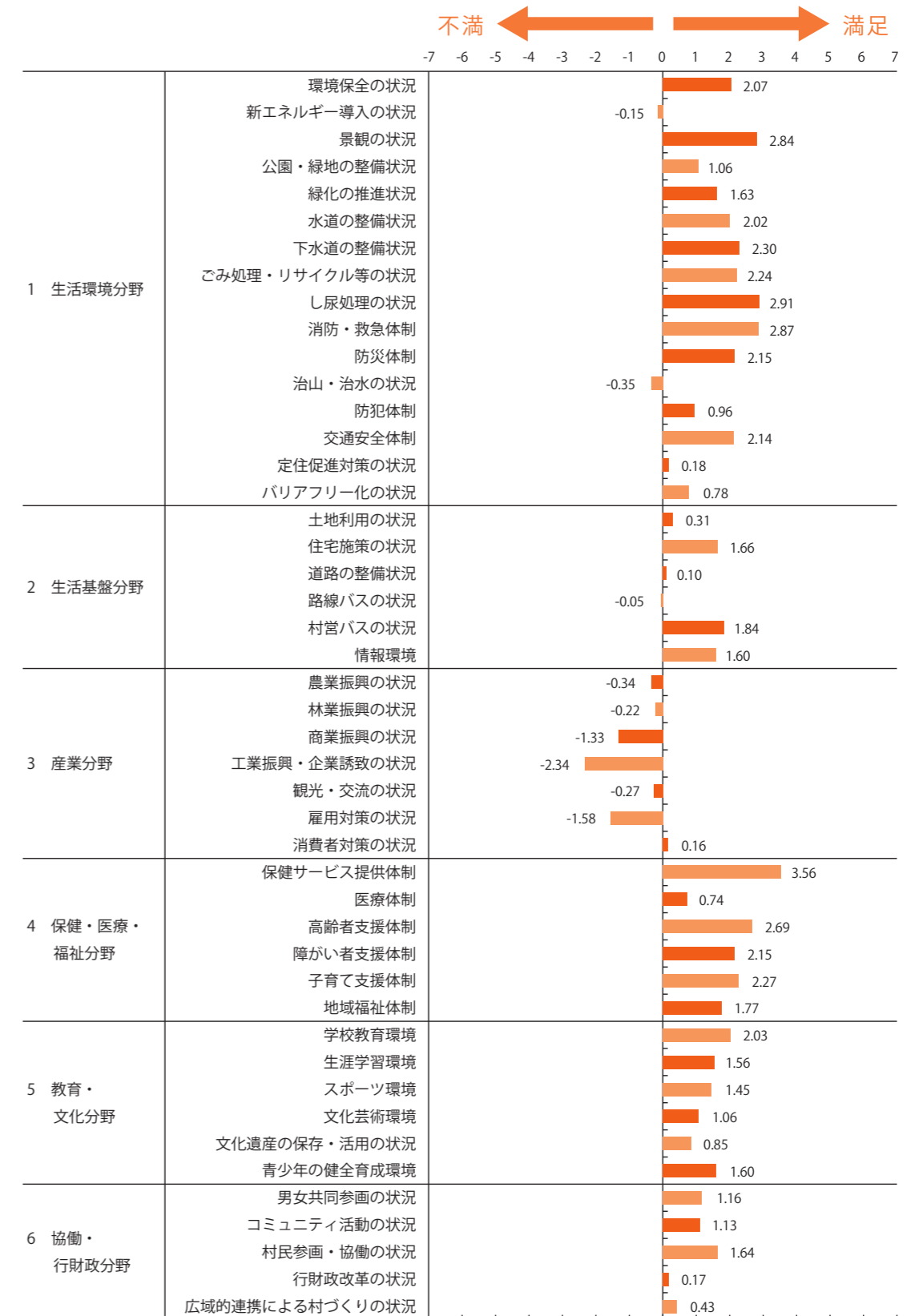
一方、満足度が最も低いのは「工業振興・企業誘致の状況」で、次いで「雇用対策の状況」、「商業振興の状況」などの順となっており、これら産業分野の満足度が全般的に低くなっています。

また、同様に各環境の今後の重要度をたずねたところ、重要度が最も高いのは「医療体制」で、次いで「防災体制」、「消防・救急体制」、「保健サービス提供体制」、「子育て支援体制」、「高齢者支援体制」、「防犯体制」などの順となっています。

これら上位項目をみると、ほとんどが保健・医療・福祉分野と生活環境分野（特に消防・防災・防犯）の項目となっており、前問（今後どのような村にしたいか）の結果を裏づけるように、“保健・医療・福祉の充実”と“快適で安全な居住環境の整備”が重視されていることがうかがえます。

■ 村の各環境に関する満足度

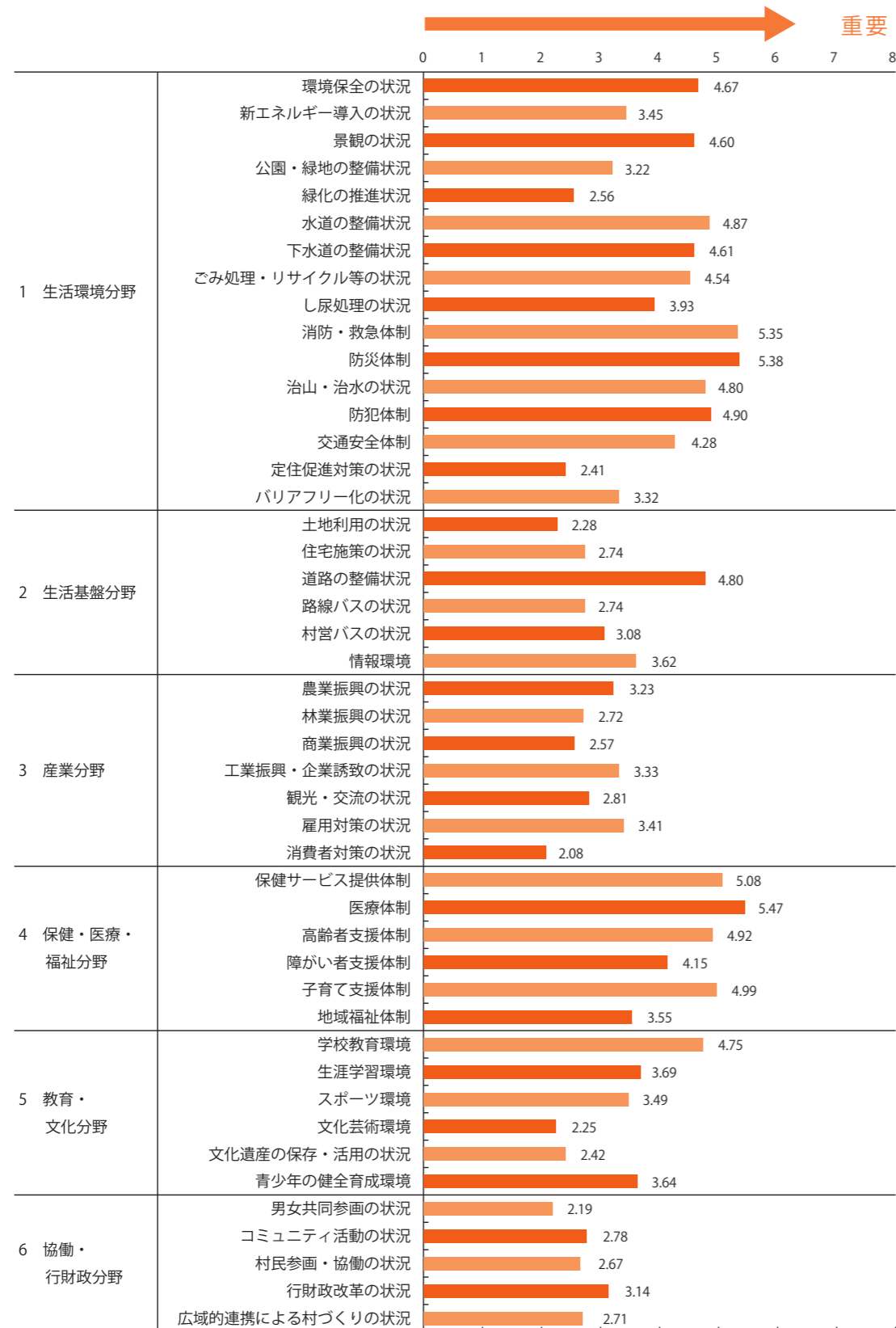
（単位：評価点）





■ 村の各環境に関する重要度

(単位：評価点)



## 4 村づくりの主要課題

本村の特性・資源や時代の流れ、村民が求める鮫川村の姿を踏まえ、村づくりの主要課題を整理すると、次のとおりです。

### 1 農村環境・里山景観と共生し、快適で安全な暮らしが実感できる、住みたくなる居住環境づくり

安全・安心の時代、環境保全・エネルギーの時代が到来する中で、「快適住環境の村」を求める村民ニーズが高まっている（「今後どのような村にしたいか」村民第1位・中学生第2位）ほか、「環境保全の村」を望む声も高まっています（「今後どのような村にしたいか」中学生第1位）。

また、人口減少が急速に進み、その歯止めが大きな課題となっています。

このため、農村環境・里山景観と共生する環境・景観重視のきれいで快適な村づくりを推進するとともに、消防・防災・防犯体制の充実など安全性の一層の向上を図り、ずっと住みたくなる、移り住みたくなる居住環境づくりを進めていく必要があります。

### 2 少子高齢化の急速な進行を踏まえた、保健・医療・福祉施策、子育て支援施策の一層の充実

国や福島県の水準を上回る勢いで少子高齢化が進む中、「健康福祉の村」を求める村民ニーズが高まっている（「今後どのような村にしたいか」村民第2位）ほか、若い世代を中心に、「子育て・教育の村」を望む声も高まっています（「今後どのような村にしたいか」20・30代第1位）。

このため、保健・福祉・子育て環境が充実した村、比較的小さな村としての特性等を生かしながら、保健・医療・福祉施策、子育て支援施策の一層の充実を図り、すべての村民が健康で安心して暮らすことができる村づくり、子どもを安心して生み育てることができる村づくりを進めていく必要があります。

### 3 村づくりの中核を担う農業の維持・発展を柱とした、持続可能な鮫川産業の育成

地域産業再生の時代が到来する中、本村においても、各産業を取り巻く情勢は非常に厳しく、村全体の活力低下や雇用の場の不足が指摘されており、産業分野全般に関する村民の満足度が最も低くなっています。

このため、特色ある農業の村としての特性等をさらに生かし、村づくりの中核を担う農業の維持・発展を重点的に進めるとともに、商工業の活性化、魅力ある観光・交流資源を生かした観光・交流機能の

強化に向けた取り組みを推進し、これからの時代に生き残っていくことができる、持続可能な産業の育成を進めていく必要があります。

## 4 明日を担う子どもの育成と生涯学習社会の形成に向けた向け、教育・文化環境の充実

今後、本村が一層発展していくためには、わが村を愛し、かつ社会の変化に対応できる人材の育成が必要不可欠であり、若い世代を中心に、「子育て・教育の村」を望む声が高まっています（「今後どのような村にしたいか」20・30代第1位）。

また、村民が生きがいを持ち、豊かで感動に満ちた人生を送るためには、いつでも、どこでも、だれでも、自発的に学び、その成果を地域社会に生かせる環境づくりが必要です。

このため、比較的小さな村としての特性等をさらに生かしながら、地域に根ざした特色ある学校教育を推進するとともに、村民パワーの村としての特性等を生かしながら、村民主体の学習・文化・スポーツ活動の一層の活発化を促進する環境づくりを進めていく必要があります。

## 5 定住人口・交流人口の増加をはじめ、村の生き残りに向けた、便利で安全な生活基盤づくり

人口減少が急速に進む中、人々の定住促進や交流人口の増加等を進め、今後も本村が生き残っていくためには、これまでみてきた生活環境の整備や保健・医療・福祉環境の充実、産業の育成、教育・文化環境の充実はもとより、それを支える便利で安全な生活基盤づくりが必要です。

このため、特色ある農業の村としての特性等を踏まえつつ、計画的な土地利用を推進するとともに、定住基盤となる住宅・宅地の整備や人・物・情報の交流を一層促進する道路・交通・情報ネットワークの整備など、便利で安全な生活基盤づくりを進めていく必要があります。

## 6 自立した村づくりの原動力となる、村民と行政との協働の村づくり、行財政改革の推進

今後も厳しい財政状況が続くことが予想される中、地方分権時代にふさわしい個性的で自立した村を創造し、将来にわたって持続的に経営していくためには、住民力の結集と行財政運営のさらなる効率化が必要不可欠です。

このため、比較的小さな村、村民パワーの村としての特性等を生かしながら、村民と行政との協働体制の強化、コミュニティの育成を進め、協働の村づくり、住民自治の地域づくりを進めていくとともに、行財政全般について常に点検・評価し、さらなる行財政改革を進めていく必要があります。

# 第2部

# 基本構想

第1章	鮫川村の将来像
第2章	人口の目標と計画の体系
第3章	施策の方針
第4章	重点構想

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の進め  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な鮫川  
健やかで安心な鮫川  
活力と交流に満ちた鮫川  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
ともしあげる鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 第1章 鮫川村の将来像

### 1 村づくりの理念

総論に基づき、新しい村づくりを進める上で、すべての分野において基本とする原則を次のとおり定めます。

# 1 第3次振興計画の「まめな暮らし」の検証

#### ①量から質への「質」が高まっていないのではないか

「まめな暮らし」は、環境にやさしい、大量生産・大量廃棄などによる資源浪費をしない生活や生産を目指す暮らし方です。生活の質や付加価値の高い物を作ることが求められます。化石燃料は有限であり、東日本大震災による原子力災害により、再生可能エネルギーの重要性が高まっていますが、まだ課題も多くあります。

また、人口減少社会を迎え私たちの生活を支える仕組みも変えていく必要があります。さらに、経済がグローバル化しており、一人ひとりの能力を高め、外国の人々より良いものを作らなければ、外国の人々以上の収入は得られない時代です。薄利多売からブランド化が求められ、そのためには知識や技術の向上が不可欠です。人口増や経済成長時代の考え方を転換し、量を求める仕組みを直したり、縮小が必要なのは縮小して中身を充実させるなどの努力がまだ足りないと思われるます。

#### ②村で「まめな暮らし」をしているのは誰か

今の若者は、生まれてから、デフレ不況の経済状況や少子化の中で成長してきました。バブル経済時代を知らない少子化世代で人口の伸び率が鈍化し、経済が縮小した環境で育ちました。そのため、雇用環境は厳しく、賃金が抑制され、生活スタイルは手堅い消費行動に代表される堅実なものとなっています。教育では、ゆとり世代とも言われマイナスなイメージが先行している一方、総合学習などにより、調べ学習をしており、これからの時代に必要環境問題に対する視点や創造的な能力の発揮が期待できる世代です。

他方、年配者は、こども時代の生活は大変だったかもしれませんが、高度経済成長から豊かになった社会を経験しています。

高度経済成長期には、好むと好まざるとに関わらず社会が大きく変わりました。賃金のベースアップ、

大量生産、大量消費、消費は美徳の時代を経験しています。村の生活は、都会と比べれば、相対的には「まめな暮らし」だったかも知れませんが、それでも農村の都市化が進みました。農業もまめな農業ではなくなり、専門的な農業者が少なくなり、兼業農家が多数になり、後継者が少なくなりました。農業では暮らしを成り立たせることは難しいという理由から、若者や女性、素人、自分の子どもが業として農業をすることには否定的な世代です。

また、人口減少社会、低経済成長、格差社会など時代が大きく変化していることについては、それを理解し不安には思っていますが、それが豊かな社会になった結果であり、これを解決するには、社会の仕組みから根本的に見直し、そのためには長い年月を要することを、実感として理解し行動することは難しい世代です。

また、終身雇用を前提としたグローバルな競争が無い安定した勤め人幻想から抜けきれず、後継者がいても戻ってきてもらっては困ると考えている世代でもあります。しかし、現実には都会や勤め人の暮らしも大変になっています。都会に行っても大部分が前の世代のような収入を得て同じような暮らしができる時代ではなくなっています。

## 2 第4次振興計画に引き継ぐ「まめな暮らし」は

#### ①今までの「まめな暮らし」ってどんな暮らし方

農村、里山の伝統文化、伝統食などの良さを見直し、出来る限り取入れ、環境や資源に負荷をかけない、心やからだによい暮らし方が、第3次振興計画の鮫川流スローライフ「まめな暮らし」でした。

#### ★ 鮫川流の「まめな暮らし」とは

- ・安全・安心、うそをつかない、心によいもの・体によいものを大切にする暮らし方
- ・人づきあいを大事にし、いつも笑顔でにこにこ、ほっとするような暮らし方
- ・不安な社会にあっても、都市の人々のよりどころになるような暮らし方
- ・昔の生活のよいところを取り戻すとともに、環境への負荷をかけない暮らし方
- ・ゆとりの時間をつくり、生きがいや楽しみのある生活を大切にする暮らし方



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## ② これからの「まめな暮らし」ってどんな暮らし方

現代は、人口減少、低経済成長、少子高齢化により、すでに「まめな暮らし」の時代に入っていると申えます。第4次振興計画のこれからの「まめな暮らし」は、今までの「まめな暮らし」の良さを持続、発展させていく暮らし方であり「まめな暮らしの創造」を目指します。

- ・良さの世代間継承（伝統食を科学する。伝統芸能を学ぶ。）をする暮らし方
- ・現代の生活様式との調和、発展（新技術導入、環境負荷のない生活）する暮らし方
- ・「子ども・若者・女性」と都市の人々に共感される暮らし方（ICTの活用、自己実現できる環境）
- ・人口減少社会に適応した暮らし方（人口増時代の仕組みの見直し）

# 3 村づくりの基本理念

人口減少・高齢化社会のなかで、環境と共生しながら持続可能な新しい村づくりを進めるために、すべての分野において基本とする村づくりの原則を次のとおり定めます。

わたしたちの村づくりの基本理念は【原理】は、

## つながりで 支え輝く 村づくり ～ 笑顔あふれる ふるさとの創造 ～

- 村民が世代を超えてつながり支えあい、一人ひとりが輝く村づくり
- 地域の和で支えあい、一人ひとりが輝く村づくり
- 高齢者、子ども、若者と女性が地域の和でつながり、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくり
- これまで取り組んできた「まめで達者なむらづくり」を継承し、さらに進化させていく村づくり
- 先人の知恵や技を継承し、新しい時代にふさわしいものに発展させていく村づくり

### キーワード【つながり】

縁、結、絆、環、循環、人の輪、地域の和、伝承、継承、継続、持続、交流、連携、連帯、協働、協同

## 2 2024 鮫川の将来像

基本理念を踏まえて、村づくりの3つの方向性を定めます。

### ① 「まめな暮らし」を生かした村づくり

これまで積極的に進めてきた鮫川流の「まめな暮らし」を生かした村づくりを今後も継承し、さらに発展させ、村全体を地域ブランドとして確立する村づくりを進めます。

### ② 人が集まる美しい村づくり

基幹産業である農業を村づくりの中心に据え、活力あふれる村づくりを進めるとともに、本村ならではの地域特性・資源を生かし、多くの人が集まる美しい（美味しい）村づくりを進めます。

### ③ 「つながり」を活かす村づくり

人と人、人と地域、都市と農村など多様な「つながり」を活かす村づくりを進めます。人の輪、地域の和を大事にし、みんなで支えあい、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくりを進めます。

これらの原則に基づいて6つの将来像（分野別目標）の実現を目指します。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 6つの将来像（分野別目標）

1. きれいで安全なふるさと鮫川の実現
2. 健やかで安心なふるさと鮫川の実現
3. 活力と交流に満ちたふるさと鮫川の実現
4. 人と文化が輝くふるさと鮫川の実現
5. 生活基盤が整ったふるさと鮫川の実現
6. ともにつくるふるさと鮫川の実現

## 第2章 人口の目標と計画の体系

### 1 人口の目標

平成22年の国勢調査によると、本村の総人口は3,989人で、これまで減少傾向で推移してきました。これら過去の推移に基づき、人口予測を行った結果、本村の人口は、今後も減少を続け、本計画の目標年度である平成36年度には、3,100人前後になることが予測されています。

しかし、本村の将来を展望すると、本計画を総合的かつ積極的に推進することによって、定住性が強化されるとともに、村外からの移住者が増加し、予測を上回る人口となることを目指すべきであると考えられ、平成36年度の総人口の目標を3,300人と設定します。

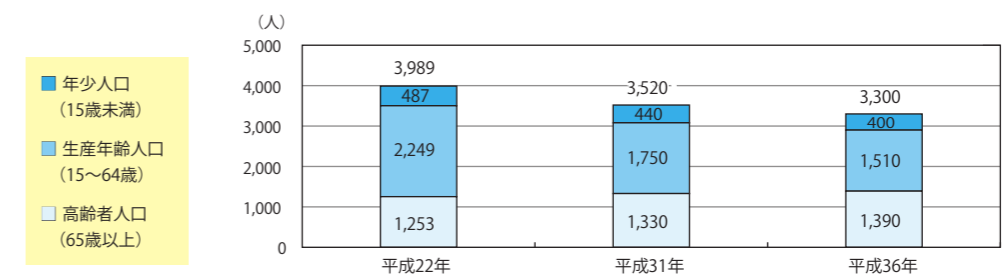
なお、年齢3区分別の人口や総世帯数、1世帯当たり人員は、次のとおり設定することとします。

■ 総人口・年齢3区分別人口・総世帯数・1世帯当たり人員 (単位：人、%、世帯)

項目	年	平成22年	平成31年	平成36年
総人口		3,989	3,520	3,300
年少人口 (15歳未満)		487 (12.2)	440 (12.5)	400 (12.1)
生産年齢人口 (15～64歳)		2,249 (56.4)	1,750 (49.7)	1,510 (45.8)
高齢者人口 (65歳以上)		1,253 (31.4)	1,330 (37.8)	1,390 (42.1)
総世帯数		1,106	1,110	1,120
1世帯当たり人員		3.61	3.17	2.95

注) 平成22年は実績値。目標値は、複数の予測結果をもとに本村の将来を展望して設定したものであり、10人及び10世帯単位としている。

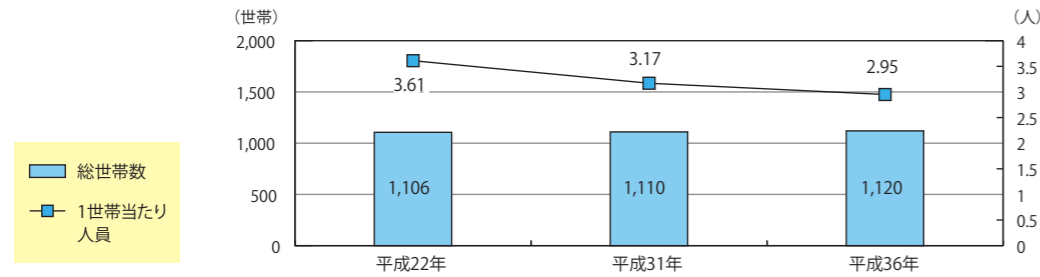
■ 総人口・年齢3区分別人口 (単位：人)



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

■ 総世帯数・1世帯当たり人員

(単位：世帯、人)



資料：国勢調査

## 2 計画の体系

将来像の実現に向け、新しい村づくりの計画の体系（分野ごとの目標とその下に展開する施策の項目）を次のとおり定めます。

### 1 きれいで安全なふるさと鮫川 (生活環境分野)

- ①環境・景観、エネルギー／②ごみ処理等環境衛生／③上・下水道／④公園・緑地、緑化／⑤消防・防災／⑥防犯・交通安全

### 2 健やかで安心なふるさと鮫川 (保健・医療・福祉分野)

- ①保健・医療／②子育て支援／③高齢者支援／④障がい者支援／⑤地域福祉／⑥社会保障

### 3 活力と交流に満ちたふるさと鮫川 (産業分野)

- ①農林業／②観光・交流／③商工業／④雇用対策／⑤消費者対策

### 4 人と文化が輝くふるさと鮫川 (教育・文化分野)

- ①学校教育／②生涯学習／③スポーツ／④文化芸術・文化財

### 5 生活基盤が整ったふるさと鮫川 (生活基盤分野)

- ①土地利用／②住宅施策、定住・移住／③道路・公共交通／④情報化

### 6 ともにつくるふるさと鮫川 (協働・行財政分野)

- ①男女共同参画／②コミュニティ／③協働の村づくり／④自治体経営

## 第3章 施策の方針

### 1 きれいで安全なふるさと鮫川



#### ①環境・景観、エネルギー

阿武隈山系の豊かな自然と心癒される農村環境・里山景観を誇る村として、環境・景観と共生する持続可能な村づくりを進めるため、村一体となった環境保全・美化活動の促進、太陽光等の再生可能エネルギーの一層の利活用の促進、美しい景観の維持・保全に向けた取り組み、環境・景観施策、エネルギー施策を積極的に推進します。

#### ②ごみ処理等環境衛生

廃棄物をできるだけ出さない循環型社会の形成に向け、広域的なごみ・し尿処理体制の充実や村民・事業者の3R運動<sup>\*4</sup>の促進、不法投棄の防止に努めます。

また、広域的な斎苑施設の適正管理に努めます。

\*4 リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生しよう）運動



計画の概要
鮫川村の概況
新たな村づくりに向けて
鮫川村の将来像
人口の目標と
計画の体系
施策の方針
重点構想
きれいで安全なふるさと鮫川
健やかで安心なふるさと鮫川
活力と交流に満ちたふるさと鮫川
人と文化が輝くふるさと鮫川
生活基盤が整ったふるさと鮫川
ともにつくるふるさと鮫川
計画の達成状況の点検及び評価
各種資料

### ③上・下水道

安全・安心でおいしい水の安定供給を図るため、簡易水道施設の適正管理及び給水区域の拡大、小規模水道施設に関する支援の継続を図ります。

また、美しく快適な居住環境づくりと河川等の水質保全に向け、農業集落排水施設の適正管理及び加入促進、合併処理浄化槽の設置促進に努めます。

### ④公園・緑地、緑化

村内外の人々が水と緑に親しみ、いこい、交流できる場として、また子どもの安全な遊び場として、館山公園や農村公園、遊歩道などの公園・緑地の整備充実、適正管理に努めるとともに、村ぐるみの緑化を推進します。

### ⑤消防・防災

東日本大震災の教訓等を踏まえ、あらゆる災害に強い安全・安心な村づくりを進めるため、消防団の充実や白河地方広域市町村圏整備組合による広域的な常備消防・救急体制の充実、村民の防火・防災意識の啓発、災害時の情報通信体制の充実、防災資機材・食料の備蓄、治山・治水対策の促進など、総合的な消防・防災体制の確立に努めます。

### ⑥防犯・交通安全

犯罪や交通事故のない住みよい村づくりに向け、関係機関・団体との連携のもと、村民の防犯意識の啓発や自主的な防犯・パトロール活動の促進、村民の交通安全意識の啓発や交通安全施設の整備など、村一体となった安全・安心対策を推進します。

## 2 健やかで安心なふるさと鮫川



### ①保健・医療

村民一人ひとりが健康寿命<sup>\*5</sup>を延ばし、生涯にわたっていきいきと暮らせるよう、食生活など生活習慣の改善に向けた村民の自主的な健康づくり活動の促進や健康診査・指導等の推進をはじめ、きめ細かな保健サービスの提供を図ります。

また、国民健康保険診療所について、医師の確保をはじめ、本村の医療拠点としての機能強化と保健サービスとの連携に向けた取り組みを進めます。

### ②子育て支援

子どもの数が急速に減少していく中、若い世代が出産や子育てに夢を持ち、安心して子どもを生育てられるよう、「さめがわこどもセンター」を核に、保育サービスの充実や子育てに関する相談・学習・交流機能の強化、放課後の子どもの居場所づくりをはじめ、村全体で子育てを応援する体制の一層の充実を図ります。

\*5 介護が必要な状態にならないで自立して生活できる期間

計画の概要
鮫川村の概況
新たな村づくりに向けて
鮫川村の将来像
計画の目標と
人口の目標と
施策の方針
重点構想
きれいで安全なふるさと鮫川
健やかで安心なふるさと鮫川
鮫川 活力と交流に満ちたふるさと
人と文化が輝くふるさと鮫川
生活基盤が整ったふるさと鮫川
ともにつくるふるさと鮫川
計画の達成状況の点検及び評価
各種資料

### ③ 高齢者支援

高齢化が急速に進む中、高齢者が生きがいを持って元気に暮らせるよう、また、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、社会参加や介護予防に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスや介護保険サービスの提供体制の充実に努めます。

### ④ 障がい者支援

障がい者ができる限り自立し、自分らしくいきいきと暮らせるよう、村民へのノーマライゼーション<sup>※6</sup>の理念の浸透、障害者の社会参加に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスの提供体制の充実に努めます。

### ⑤ 地域福祉

すべての村民が地域で支え合い助け合いながら安心して暮らせるよう、地域住民や福祉団体等による見守り活動、生活支援活動などの地域福祉活動の促進に努めるとともに、すべての人が安全に安心して暮らせるよう、公共施設のバリアフリー化<sup>※7</sup>を進めます。

### ⑥ 社会保障

村民が健康で文化的な生活を営み、安心して老後の生活を送れるよう、国民健康保険や国民年金、生活保護などの社会保障制度の周知と適正な運用を図ります。

※6 年齢や障がいの有無などにかかわらず、だれもが普通の生活を送れる社会こそ正常であるという考え方  
 ※7 段差の解消をはじめ、物理的・心理的な障壁（バリア）を取り除くこと

## 3 活力と交流に満ちたふるさと鮫川



### ① 農林業

本村の基幹産業であり、村づくり全体を牽引する農業の維持・発展に向け、農業生産基盤の一層の充実や担い手の育成・確保による経営体制の強化を進めながら、「まめで達者な村づくり事業」の継承と発展等による農業の6次産業化<sup>※8</sup>や地産地消の一層の展開、「有機の里づくり」のさらなる推進による有機農業の確立と循環型社会の形成をはじめ、有害鳥獣対策の推進などの取り組みを一体的に推進します。

また、木材生産機能をはじめ、水源のかん養や生活環境の保全など森林の持つ多面的な機能が持続的に発揮されるよう、森林組合との連携のもと、適正な森林管理・整備を促進します。

### ② 観光・交流

観光・交流人口の増加による村経済の活性化、観光・交流から定住・移住への展開に向け、「鹿角平観光牧場」や「館山公園」をはじめとする観光・交流資源の整備充実、有効活用を努めるほか、特色ある農業の村としての特性・資源を生かした農業・農村体験、都市や大学等との交流促進や農家民宿の一層の展開、「食」をテーマとした観光・交流機能の強化を重点的に進めます。

※8 第1次産業である農業が、生産だけにとどまらず、加工品の製造・販売や地域資源を生かしたサービスの提供など、第2次産業や第3次産業まで踏み込むこと



計画の概要
鮫川村の概況
新たな村づくりに向けて
鮫川村の将来像
人口の目標と
計画の体系
施策の方針
重点構想
きれいで安全なふるさと鮫川
健やかで安心なふるさと鮫川
活力と交流に満ちたふるさと鮫川
人と文化が輝くふるさと鮫川
生活基盤が整ったふるさと鮫川
ともに育つふるさと鮫川
計画の達成状況の点検及び評価
各種資料

### ③ 商工業

人口減少や少子高齢化等を背景に商業環境が厳しさを増す中、商店街の維持・存続に向け、商工会の育成に努めながら、村民（みんな）の店「すまいる」の充実促進、高齢化を踏まえた地域密着型の商業活動の促進、人が集まるルートづくりの検討などに努めます。

また、既存事業所の経営の安定化を支援していくとともに、環境・景観と共生する企業等の立地促進に努めます。

### ④ 雇用対策

若者の地元就職やU・J・Iターン<sup>\*9</sup>の促進に向け、関係機関との連携のもと、情報提供や相談、地元企業への働きかけ等に努めます。

### ⑤ 消費者対策

悪質商法や詐欺等による被害の未然防止と解消に向け、関係機関との連携のもと、消費者への情報提供や相談の充実に努めます。

<sup>\*9</sup> Uターンは出身地から地域外へ出た後に出身地へ戻ること。Jターンは出身地から地域外へ出た後に出身地以外の近隣地へ戻ること。Iターンは出身地にかかわらず住みたい地域へ移り住むこと

## 4 人と文化が輝くふるさと鮫川



### ① 学校教育

子どもたちが明日の本村を担う人材として心身ともにたくましく成長していくことができるよう、保・幼・小・中・高の連携や、学校と家庭・地域の連携を強化し、本村の優れた自然や「農」、「食」などの教育資源を生かした特色ある教育活動の推進をはじめ、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など「生きる力」を育む学校教育を推進します。

さらに、国際化時代、交流の時代に対応し、小・中学生の体験型英語研修施設への派遣や村民主体の身近な国際交流活動の促進に努めます。

また、県立修明高等学校鮫川校については、村の活性化に欠かせない重要な教育施設として、存続のための支援を継続するとともに、特色ある学校づくりに関する働きかけなどを行います。

### ② 生涯学習

すべての村民が生涯にわたって学び続け、自己を高め、その成果が地域社会に還元される生涯学習社会の形成に向け、大学やNPOとも連携しながら、村民ニーズに即した学習機会の提供や自主的な学習活動の促進に努めます。

また、青少年が心身ともに健全に育成されるよう、学校・家庭・地域の連携強化のもと、青少年の体験・交流活動への参加促進、家庭・地域の教育力の向上に向けた取り組みを進めます。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

### ③スポーツ

村民一人ひとりが生活の一部としてスポーツや健康づくりに親しめるよう、農業者トレーニングセンターをはじめとするスポーツ施設の整備充実に努めるとともに、スポーツ団体の育成・支援、スポーツ教室・大会の充実等に努めます。

### ④文化芸術・文化財

生きがいに満ちた暮らしの確保と鮫川文化の継承・創造に向け、文化団体による自主的な文化芸術活動の促進や文化芸術にふれる機会の提供に努めます。

また、「木造薬師如来立像」や「渡瀬の獅子舞」をはじめとする有形・無形の貴重な文化財の保存・活用、地区ごとの祭りの再興、歴史民俗資料館の充実に努めます。

## 5 生活基盤が整ったふるさと鮫川



### ①土地利用

優れた自然や農村環境・里山景観と村民生活、産業活動とが調和した良好な地域環境を形成し、村の一体的発展を図るため、適正な規制・誘導等を行い、計画的な土地利用を推進します。

### ②住宅施策、定住・移住

定住・移住の促進と鮫川村らしい魅力的でゆとりのある住生活の実現に向け、需要と供給のバランスに配慮しながら住宅施策を計画的に推進します。

また、これら住宅施策と連動しながら、空き家情報の提供をはじめ、定住・移住の促進に向けた効果的な取り組みを検討・推進します。

### ③道路・公共交通

交通利便性・安全性の向上と村全体の活性化に向け、国・県道の整備を関係機関に積極的に要請していくとともに、村道の維持補修、橋梁の長寿命化、除雪体制の維持・充実に努めます。

また、公共交通については、村民の日常生活に欠かせない移手段として、村営バス「あおぞら号」や民間路線バスの維持・確保を図るとともに、国民健康保険診療所の送迎バスも含めた村内の公共交通のあり方について検討し、その充実に努めます。

### ④情報化

村民サービスの向上と自治体経営の効率化、村全体の活性化に向け、これまでの取り組みを生かした行政内部の情報化を一層推進するとともに、全村的に整備された光ファイバ網を活用した情報サービスの提供を図り、電子自治体の構築と村全体の情報化を一体的に進めます。

また、通信事業者との連携のもと、全世帯で携帯電話が利用できる環境整備について検討・推進します。

計画の概要
鮫川村の概況
新たな村づくりに向けて
鮫川村の将来像
計画の目標と
人口の目標と
施策の方針
重点構想
きれいで安全なふるさと鮫川
健やかで安心なふるさと鮫川
活力と交流に満ちたふるさと鮫川
人と文化が輝くふるさと鮫川
生活基盤が整ったふるさと鮫川
ともにつくるふるさと鮫川
計画の達成状況の点検及び評価
各種資料

## 6 ともにつくるふるさと鮫川



### ①男女共同参画

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、男女平等意識の啓発や政策・方針を決定する場への男女の参画促進、男女間のあらゆる暴力の根絶に向けた取り組みを推進します。

### ②コミュニティ

地域住民自らによる地域課題の解決や個性豊かな地域づくり、支え合い助け合う地域づくりに向け、行政区や組単位でのコミュニティ活動の活発化に向けた取り組みを推進します。

### ③協働の村づくり

村民と行政とが知恵と力を合わせた協働の村づくり、村民団体やNPO、民間企業等の多様な主体がともに公共を担う村づくりを進めるため、広報・広聴活動の一層の充実による情報・意識の共有をはじめ、各種行政計画の策定や公共施設の管理、公共サービスの提供等への参画・協働の促進、村民団体・NPOの育成など、村民と行政との協働体制の一層の強化を図ります。

### ④自治体経営

自治体を取り巻く環境が厳しさを増す中、限られた経営資源を有効に活用し、地方分権時代に即した自立した村を創造し、持続的に経営していくため、事務事業のさらなる見直しをはじめ、組織・機構の再編、定員管理の適正化、職員の能力開発、財政運営の健全化など、さらなる行財政改革を積極的に推進します。  
また、効率的な自治体経営の推進と村民サービスの向上に向け、周辺自治体との連携のもと、今後の広域連携のあり方について調査・研究を進めます。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の将来  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 第4章 重点構想

将来像を実現するためには、「第3章 施策の方針」に掲げた29の施策項目ごとの取り組みを総合的に推進することが基本になりますが、本村の特性・資源を生かし、個性と魅力をさらに高める視点、村民ニーズに的確に応える視点に立ち、第4次鮫川村振興計画において、分野横断的な対応等により、村一体となって特に重点的に取り組む8つの「重点構想」を定めました。



1. つながりでさめがわ回帰
2. 中心市街地・空き家・集落対策
3. こども・若者・女性の定住
4. 多様な働き方
5. つながりで顔の見える交流
6. 新しい農業観による農業振興
7. 地域自給自足の理念
8. 観光資源の整備充実による賑わい創出

各重点構想の主な内容は次のとおりです。

また、この「重点構想」を構成する具体的な施策については、基本計画（前期基本計画・後期基本計画）の中に主要施策として重点的に盛り込み、限られた経営資源の重点配分を図り、積極的に推進していくこととします。

### 1. つながりでさめがわ回帰

鮫川村とつながりのある人々、歴史や伝統・文化とつながりたい人々の帰郷や移住促進

#### 産業分野

##### ②観光・交流

- 一過性の交流から移住を前提としたふるさと体験交流へ（農家民宿への定期的滞在）
- ふるさと回帰留学制度（NPOが運営主体、移住希望の親子と村の里親をつなぐ。NPOが学習・生活支援）

##### ④雇用対策

- さめがわ回帰ふるさとおこし協力隊の募集（仕事や能力で村の振興に貢献できる人材→3年間雇用→その間に生活基盤確立）

#### 生活基盤分野

##### ②住宅施策、定住・移住

- 全国鮫川村出身者帰郷意向調査の実施（各世帯の協力を得て調査対象名簿の作成、アンケート調査実施）
- さめがわ回帰・移住の専門員配置（受け入れ環境の整備、将来の回帰も今から計画的に支援）
- 村、地区、集落で移住者受入れについて検討する「さめがわ回帰・移住」条件整備事業の実施
- さめがわ回帰支援基金の造成（ふるさと納税も活用、移住の準備、移住後に定住する場合の教育支援）
- 集落内にふるさと回帰者用の農地付宅地エリアの確保
- ふるさと回帰・移住希望者の宅地取得、空き家下見、空き家改築支援



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 2. 中心市街地・空き家・集落対策

創意工夫で生き生きとした生活空間を守る

### 生活環境分野

#### ①環境・景観・エネルギー

- 景観や安全に影響する空き家の撤去

### 保健・医療・福祉分野

#### ③高齢者支援

- 暮らしの安全安心のための生活支援（集落除雪協力体制支援等）

### 産業分野

#### ③商工業

- 移動販売、宅配の充実
- チャレンジショップの開設
- 事業所事務所の中心市街地に移転推奨

### 生活基盤分野

#### ②住宅施策、定住・移住

- 条例による空き家対策
- 空き家対策専門支援員の配置（空き家の相続者・親族等の具体的な悩みに可能な限り対応、

将来NPO化)

- 集落管理の賃貸空き家住宅の整備（集落維持のため受入れ条件が整っている場合に限り、改築助成）
- ふるさと回帰希望の職人・技術者などの空き家、空き店舗利用促進
- 中心市街地、空き家、集落対策と連動した分譲地造成や住宅建築支援

#### ③道路・公共交通

- 歩道、融雪溝、地中熱利用融雪道など道路機能の強化

### 協働・行財政分野

#### ④自治体経営

- 過疎地域の生活維持に必要な事業は、不採算であっても財源等や実施方法の創意工夫で実施に努める

## 3. こども・若者・女性の定住

こどもが夢を持ち若者や女性が自己実現できる環境をつくる

### 保健・医療・福祉分野

#### ②子育て支援

- 医師及び専門職の確保、定住条件の整備
- アトピーなど病気をもった乳幼児を安全安心に預かり保育できる環境の整備検討。
- 安全安心で大人の見守りや高齢者との交流がある児童公園や広場などのこどもの居場所づくり

#### ③高齢者支援

- 高齢者とこどもや若者がつながる生きがい対策

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の将来  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

産業分野

③商工業

- 村にない業種で子ども・若者などから要望のあるものについては、過疎地域ならではの創意工夫で実現に努める

生活基盤分野

①土地利用

- 村の中心部にスポーツ、教育、若者エリアの設定。コンパクト化と複合化による利便性とあらゆる世代の交流を促進し、村民の健康増進、文化の振興、教育の向上を推進する。

②住宅施策、定住・移住

- 中心市街地に若者や女性が暮らしやすい高齢者や地域住民との交流のある施設・機能の整備

教育・文化分野

①学校教育

- こどもの貧困対応型学力向上支援（村の学力向上サポーター等による放課後・土日の学習機会の提供）
- 平均点以上確保型学力向上支援（村独自の教員、学力向上支援員等による指導）
- 創造力が身につく教育
- こどもの意見に耳を傾ける。（生活者としてのこどもの意見を聞くことが将来の定住につながる。）
- 教育制度の見直しによる一貫教育やこどもの減少に対応できる将来の施設・機能の一体化を構想する。
- 東京行き片道切符の教育から往復可能な教育へ
- 就学援助、通学費支援、奨学金の充実

②生涯学習

- 子どもと大人と一緒に学び伝統文化、文化芸術活動できる施設・機能の整備

- 広い教養や知識、技能を実際に身につけられる環境の整備（さめがわ塾・グローバル経済対応）
- 子ども、若者、女性から高齢者まで学びの核となる図書館機能の強化

③スポーツ

- 子ども、若者、女性などが多様な運動ができる環境づくり

③文化芸術・文化財

- 村内で一流の演奏家による室内楽や有名な劇団による公演などに親しむことができる恵まれた環境の維持。
- 文化団体の高齢化に対応するため子ども・若者・女性と一緒に活動できる施設・機能の整備
- 都市の劇団、演劇、芸能グループ等と子ども・若者の連携により伝統芸能の継承策を模索する

協働・行財政分野

③協働の村づくり

- 次世代村づくり委員会の常設（若者・女性）

4. 多様な働き方

伝統食や生活文化を掘り起こしまめな仕事をたくさん創り定住を促進

生活環境分野

①環境・景観・エネルギー

- 環境公社等（農業法人・NPO等）を立ち上げ雇用の拡大

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の基盤  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

### ④公園・緑地、緑化

- 環境公社等（農業法人・NPO等）を立ち上げ雇用の拡大

## 保健・医療・福祉分野

### ②子育て支援

- 子育てで困っていることを仕事にする

### ③高齢者支援

- 高齢者が困っていることを仕事にする

### ③障がい者支援

- 障がい者が困っていること、障がい者ができることを仕事にする

## 産業分野

### ①農林業

- 農業の高齢化を補う農業公社、農業法人などによる雇用の拡大
- グリーンツーリズムNPOの設立で雇用拡大

### ②観光・交流

- 鮫川村を訪れた人々がお金を使う仕組みを創る。
- 鮫川村を訪れた人々がお金を使う場所を増やす。

### ③商工業

- コミュニティ活動や生活支援と結びつけた商業の支援

### ④雇用対策

- さめがわ仕事づくり協議会
- 村の暮らしで困ったことから仕事を創るためのアンケート調査

## 生活基盤分野

### ②住宅施策、定住・移住

- 空き家、空き店舗などを利用した事業活動の支援

## 協働・行財政分野

### ④自治体経営

- 法律で行政がしなければならない仕事以外、指定管理、委託、移譲などで村民の雇用を増やす

## 5. つながりで顔の見える交流

農村文化と都市の人々がつながる顔の見える交流で移住や人材・仕事の誘致を促進及び村民の技術や知識を高める

## 産業分野

### ①農林業

- 交流を農業の振興につなぐ
- 個々の農家の強みを十分に生かした農家民宿の展開
- 大学との連携交流を技術導入、特産品、商品開発等の農業の6次化につなげる



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくり  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ともにつる  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

②観光・交流

- マスツーリズムではないまめな暮らしを体感できるスローなツーリズムの振興

③商工業

- 大学や企業とつながり人材や技術の交流で、質の高いサービス、商品、製品の提供・開発につなげる

④雇用対策

- 交流を仕切るツアーコンダクターの役割を若者の仕事に発展させる。
- 交流専門員やNPOなどによる継続的に質の高い移住につながる交流ができる仕組みを創る
- 東京都北区の住民とのスローフードパーティやこどもの給食試食会などを通してさめがわの食をPRし健康移住（アトピーを治すためなど）につなげる

協働・行財政分野

④自治体経営

- 東京都北区民と鮫川村民が自治体の規模に関係なく抱える医療福祉介護などの問題や都市と農村という環境の違いから相互補完できる課題などについて住民どうしの交流を通じて相互協力で解決していく仕組みづくり

6. 新しい農業観による農業振興

食と農と環境がつながる懐の深い農業の推進

生活環境分野

①環境・景観・エネルギー

- 自然エネルギーの活用によるエネルギー自給農業
- 農業の6次産業化の推進で美しい環境と景観を保全
- 農村環境の整備を公共投資で行い、これをテコにして農業の振興を図る（環境公社等）

産業分野

①農林業

- 食と農と環境を統合した農業観をもった農業の推進
- 6次産業化のための投資支援、小さな投資・小さな商品化を応援
- 農村環境の保全で農業を振興
- 日本人の遺伝子に刻まれた米を中心にした食の復権
- 多様な農業の形態を受け入れる社会的土壌の醸成で後継者の確保

②観光・交流

- こだわりの農業でこだわりの消費者とつながる

③商工業

- 商工業と農業の連携

④雇用対策

- 主たる雇用が揺らいでいる兼業農家の受け皿の整備（農業環境公社・農業法人など）

保健・医療・福祉分野

①保健・医療

- 人の食性と調和したデンプン食を基本とした食生活の復権
- 伝統食や食術の継承

教育・文化分野

①学校教育

- 食と農と環境の教育

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の基盤  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

**②生涯学習**

- 高齢者から学ぶ食と農

**生活基盤分野**

**①土地利用**

- 再生可能エネルギーで農業を振興するための土地利用

**②住宅施策、定住・移住**

- 新規就農希望者の受け入れ体制の整備（衣食住から農業指導まで）

**協働・行財政分野**

**③協働の村づくり**

- 地域おこし協力隊を中心にその他協力者と伴に村づくりの実行主体を形成し、NPO等の組織化につなげる

## 7. 地域自給自足の理念

循環型農業や自然エネルギーを活用したエネルギーの地産地消の推進

**生活環境分野**

**①環境・景観・エネルギー**

- 自然エネルギーの活用でエコな暮らしの実現

**産業分野**

**①農林業**

- 循環型農業と自然エネルギー活用で持続する農業
- 家畜糞尿、生ごみ、雑草などでバイオガス発電

**③商工業**

- 地域内経済循環で生活インフラを守り育てる

**生活基盤分野**

**①土地利用**

- 農業振興に寄与する再生可能エネルギー基盤としての農地利用

## 8. 観光資源の整備充実による賑わい創出

農村の暮らしまるごと観光資源

**生活環境分野**

**①環境・景観・エネルギー**

- 強滝、江竜田、天狗橋の景観保全のための環境公社等

**④公園・緑地、緑化**

- 館山公園の整備と管理のための環境公社等

計画の概要  
 鮫川村の概況  
 新たな村づくり  
 鮫川村の将来像  
 計画の基盤  
 人口の目標と  
 施策の方針  
 重点構想  
 きれいで安全な  
 ふるさと鮫川  
 健やかで安心な  
 ふるさと鮫川  
 活力と交流に  
 満ちたふるさと  
 鮫川  
 人と文化が輝く  
 ふるさと鮫川  
 生活基盤が整っ  
 たふるさと鮫川  
 ともにつくる  
 ふるさと鮫川  
 計画の達成状況  
 の点検及び評価  
 各種資料

### 産業分野

#### ① 農林業

- グリーンツーリズムを発展させる主体の形成（農業公社・NPO など）
- 集落や農家民宿と連携したクライン・ガルテンの推進
- 農家民宿を核とした農村の日常観光の推進（集落行事への参加など）

#### ② 観光・交流

- 鹿角平観光牧場のスポーツ・合宿エリアとしての整備
- 湯の田温泉の有効活用

#### ③ 商工業

- おみやげ品の開発

#### ④ 雇用対策

- 観光資源充実による雇用の拡大（維持管理のための公社、NPO等）

### 教育・文化分野

#### ④ 文化芸術・文化財

- 伝統行事、文化財、遺跡遺構の観光的価値の発見、活用

### 生活基盤分野

#### ① 土地利用

- 昔の宿場を意識した中心市街地の土地利用の検討

## 第3部

# 後期 基本計画

- 第1章 きれいで安全なふるさと鮫川
- 第2章 健やかで安心なふるさと鮫川
- 第3章 活力と交流に満ちたふるさと鮫川
- 第4章 人と文化が輝くふるさと鮫川
- 第5章 生活基盤が整ったふるさと鮫川
- 第6章 ともにつくるふるさと鮫川
- 第7章 計画の達成状況の点検及び評価



## はじめに

後期基本計画は、基本構想の体系に基づき6つの章に分けて構成しています。  
6つの章はさらに29の節に分けられ、節ごとに施策の目標などを掲げています。



<b>施策の目標</b>	およそ10年後を想定した村の将来像をイメージして書いてあります。
<b>現状と課題</b>	前期基本計画の経緯も含めて記載しています。
<b>施策の体系</b>	節ごとに項分けしており、項を一目で分かるようになっております。
<b>主要施策</b>	項ごとの事業内容を詳しく書いています。具体的な事業を掲載し、村で展開している事業が一目で分かるようになっています。また、それぞれの事業主体・運営主体・目標値等・予定財源を記載しています。目標値等は今後5年間どのような事業展開を行っていくかを簡易的に記載しており、継続事業・拡大事業などが分かるようになっております。

### 事業業績評価指標 (KPI)

KPIとは、同程度自治体の状況や、今後の村の運営状況を見通して、5年後の目標値を明記したもので、5年後に、達成できるように各施策を実施していくためのものです。

### 村民・事業者が出来ること

これは、住民主体の村づくりを進めて行くために、村民の皆さんや、各種村内の事業所の皆さんが、行政と一緒に取り組んでもらいたいことを記載しております。村民皆さんのご協力をお願いするものです。

## 第1章 きれいで安全なふるさと鮫川

### 1 環境・景観、エネルギー

#### 施策の目標

村民一人ひとりができる範囲で、自分で出来ることをきちんと行い、かけがえのない鮫川の豊かな自然環境・里山環境が維持管理され後世に残すシステムの構築が図れている村。

#### 現状と課題

化石燃料の使用や森林の減少などによる二酸化炭素などの温室効果ガスの増大等を背景に、地球温暖化がさらに深刻化し、大雨・洪水などの異常気象や生態系の変化などを引き起こし、私たちの暮らしや農業に大きな影響を及ぼしています。

このような中、地球規模で環境保全やエネルギーのあり方に対する関心が一層高まっており、自治体においても、持続可能な社会の形成に向けた具体的な行動が強く求められています。

本村は、阿武隈高原南部の頂上部に位置し、鮫川、久慈川、阿武隈川の三河川に注ぐ源流が流れる緑と水の優れた自然環境・景観を誇ります。特に、鮫川の強滝と久慈川水系渡瀬川の江竜田の滝は自然環境保全地域に、鮫川水系戸草川の天狗橋は緑地環境保全地域に指定されています。

また、古くから農業の営みによって育まれ、守られてきた農村環境・里山景観は、村内外の人々に癒しとやすらぎを与える、本村ならではの貴重な資源となっています。

本村ではこれまで、これらの優れた環境・景観の保全に努めてきたほか、清掃活動をはじめとする村民の環境美化運動の促進などにも取り組んできました。

また、バイオマスヴィレッジ構想を策定し、再生可能エネルギーの普及促進、活用に取り組み、家畜排せつ物や生ごみの堆肥化はもとより、薪ストーブ・薪ボイラーによる木質バイオマス<sup>\*1</sup>の利活用や、廃食用油を収集して精製するバイオディーゼル燃料<sup>\*2</sup>の利活用なども進めてきました。

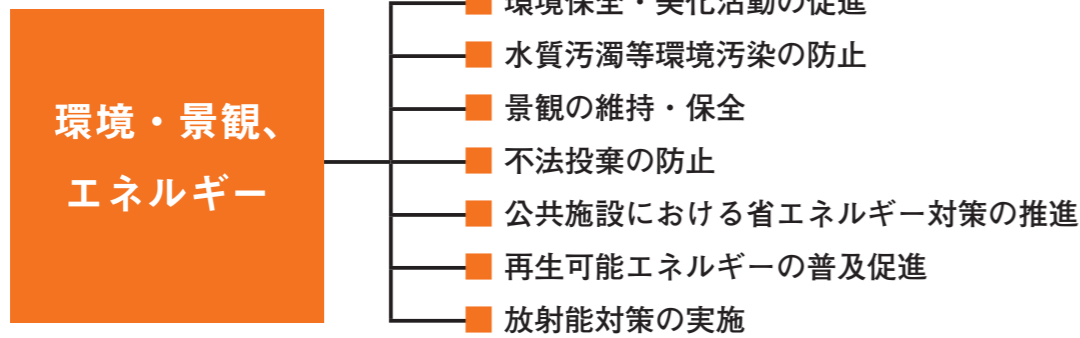
今後とも、本村ならではの環境・景観の保全と創造に向け、各種の環境・景観施策、エネルギー施策を、村民との協働のもとに積極的に推進していく必要があります。

\*1 薪やペレット、木炭など木材に由来する生物資源

\*2 植物由来の油や天ぷら油などの廃食用油からつくられるディーゼルエンジン用燃料

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 施策の体系



## 主要施策

### (1) 環境保全・美化活動の促進

環境教育や広報・啓発活動を推進し、村民や事業者の環境保全意識の高揚を図りながら、村内一斉の清掃活動をはじめ、環境保全・美化に関する各種活動の活発化を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・不法投棄監視員の活動	村	村／不法投棄監視員	継続	一般
・春秋清掃、クリーンアップ作戦の実施		地区住民		

### (2) 水質汚濁等環境汚染の防止

- ①環境汚染防止事業の継続をし、水質汚濁を防止し、美しい河川を維持するため、継続して水質検査を定期的に実施します。
- ②騒音・悪臭・振動等を防止し、美しく住みよい生活環境を維持するため、関係機関と連携しながら事業者等への指導・啓発を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・河川の水質測定（12か所）	村	村	継続	一般
・水産資源保護育成事業				

### (3) 景観の維持・保全

- ①きれいな道路景観を維持するため、道路沿いのごみ収集を継続して実施します。
- ②景観条例や景観ガイドラインなど、景観に関する指針づくりを検討していきます。
- ③本村ならではの景観の維持・保全及び創造を総合的・計画的に進める県の景観計画や屋外広告物条例

- に基づき、建築物や屋外広告物の適正な規制・誘導を進めます。
- ④美しい里山景観を維持するため、セイタカアワダチソウ等の外来種の駆除に向けた取り組みを進めます。
  - ⑤優れた自然景観を維持するため、県指定の自然環境保全地域である強滝及び江竜田の滝、緑地環境保全地域である天狗橋について、維持管理組織の育成など管理体制の再検討を進めます。
  - ⑥美しい里山景観を維持するため、村で管理する施設や道路等の維持管理、遊休農地の増加による里山景観の減少を抑える組織等の組織化を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・振興公社、環境公社の立ち上げの検討	村	—	継続／拡大	一般

### (4) 不法投棄の防止

不法投棄の防止に向け、不法投棄監視員の活用等により監視を行うとともに、地域の協力を得ながら不法投棄物の回収に取り組みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・不法投棄監視員の活動	村	村／不法投棄監視員／地区住民／シルバー人材センター	継続	一般
・不法投棄物回収作業業務				
・春秋清掃、クリーンアップ作戦				

### (5) 公共施設における省エネルギー対策の推進

省エネルギー家電等の導入によるエネルギー効率の高い施設への改善、冷暖房の省エネ化など、省エネルギー対策を推進します。

### (6) 再生可能エネルギーの普及促進

- ①公用車などのクリーンエネルギー自動車の導入を進めます。
- ②間伐材等を薪として加工し、薪ストーブ・薪ボイラーの熱源とする、木質バイオマスエネルギーの利活用に向けた取り組みを推進します。
- ③家庭から出る使用済みの食用油を収集して精製し、バイオディーゼル燃料として利活用する取り組みを推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・太陽光発電設備設置助成事業	村	設置者	廃止	一般

### (7) 放射能対策の実施

- ①空間線量は低線量を維持していますが、今後の放射線監視体制も引き続き県と連携し、安全・安心に暮らせる環境を維持します。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

②風評被害の影響がいまだに懸念されるため、食品に含まれる放射線量の測定を継続して実施します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・空間線量測定器の維持管理 ・放射性物質分析器を用いた農作物の放射能分析 ・ふくしまの恵み安全・安心推進事業	村	村/県	継続	一般

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
一斉清掃実施組数	組	146	146
一斉清掃参加者数	人	959	950
鮫川本流のBOD <sup>※3</sup>	mg/l	1.0	0.9

※一斉清掃参加者数は、人口減少を考慮した目標値となっています。

### 村民・事業者が出来ること

- 村民は、地域活動の清掃活動など環境美化活動へ参加します。
- 事業者は、地域や事業所周辺の清掃活動などを、積極的に実施します。
- 村民・事業者は、普段の生活や事業活動を見直して、省エネルギーに努めるとともに、省エネ機器の導入を進めます。

## 2 ごみ処理等環境衛生

### 施策の目標

ごみのない村づくりが、住民と一緒に取組まれ続けている村。

### 現状と課題

地球温暖化の防止に向けた二酸化炭素の排出削減や、有限な資源を後世に引き継ぐことは、持続可能な社会を構築するために必要不可欠であり、わが国全体の課題でもあります。ごみ処理の

基本は、分別収集することであり、ごみのリサイクルは社会に定着し、ごみの減量化も進んでいます。

本村のごみ処理・し尿処理は、東白川郡内4町村で組織された東白衛生組合で広域的に行っており、施設の延命化を図りながら、適正に処理しています。

しかし、ごみの排出量は増加傾向にあり、減量化が求められるとともに、質の高いごみの分別が求められています。

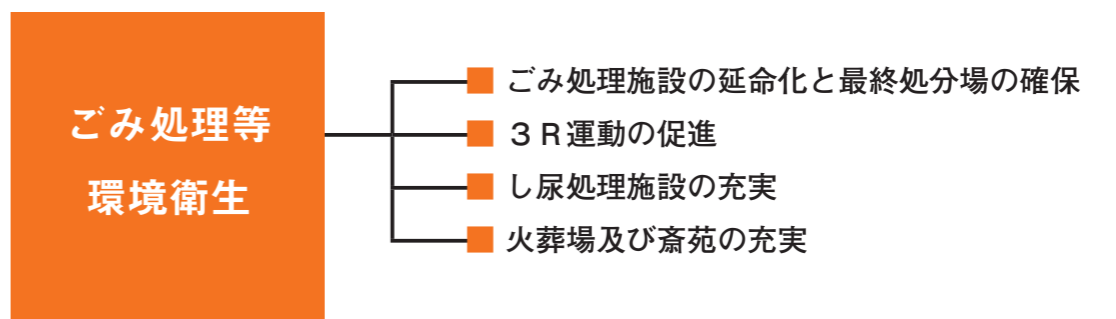
また、最終処分場が建設から15年以上が経過し、保管容量を超えることから、新たな処理場の確保が課題となっていたため、平成30年に新規設置しましたが、ごみ処理施設については、延命化を進めながらも、将来的には再整備が必要となります。今後は、県南でのごみ処理一体化を検討しながら、効率的な施設整備や維持管理を行うことが求められます。

さらに、ごみの不法投棄も家電製品を中心に多くみられ、環境や美しい景観が損なわれています。不法投棄の防止は地域での監視が重要であり、今後も地域や不法投棄監視員の協力を得て積極的に防止に取り組む必要があります。

し尿処理については、合併処理浄化槽の導入や農業集落排水の加入が促進され、汲み取り収集が減ったことから、施設の処理能力を改善し、延命化を図る必要があります。

一方、平成7年に東白衛生組合によって広域的に整備した火葬場及び斎苑は令和元年度に火葬炉の改修工事を行いました。施設の老朽化が進んでおり、設備等の改修が求められています。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) ごみ処理施設の延命化と最終処分場の確保

①ごみ処理を適正かつ効率的・継続的に行うため、広域的連携のもと、ごみ処理施設の延命化、最終処分場の確保、効率的な施設運営を図ります。

※3 生物化学的酸素要求量。最も一般的な水質指標の一つであり、値が大きいほど水質が汚濁していることを示す。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康で安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

②広域的連携のもと、県南でのごみ処理一体化について検討していきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・東白衛生組合分担金	村	組合	継続	一般

## (2) 3R運動の促進

ごみをできるだけ出さない循環型社会の形成に向け、広報・啓発活動の推進等により、村民・事業者の意識の高揚を図りながら、ごみ分別の一層の徹底及び3R運動の促進に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・広報やホームページなどでの推進 ・分別用パンフレットの充実	村	村	継続	一般

## (3) し尿処理施設の充実

し尿処理施設について、広域的連携のもと、従来のし尿処理から汚泥処理を中心とした施設への改良を行い、延命化を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
東白衛生組合分担金	村	組合	継続	一般

## (4) 火葬場及び斎苑の充実

老朽化した火葬場及び斎苑の設備を充実し、維持費を抑制する省エネ施設への改良を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
東白衛生組合分担金	村	組合	継続	一般

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
ごみ総排出量	t	816	700
リサイクル率	%	12.3	20.0
焼却処分等のごみ量	t	668	550
資源ごみ回収量	t	100	130
リサイクルセンターへの資源ごみ搬入量	t	59	80

※ごみの総排出量を減らすためには、資源ごみをきちんと分別し、リサイクル率の向上を図る必要があります。

## 村民・事業者が出来ること

村民は、ごみの発生を抑制し、分別ルールを徹底します。

事業者は、過剰包装を抑制し、再生できるものの資源化を行い再生利用に努めます。

# 3 上・下水道

## 施策の目標

住みよい居住環境づくり安心・安全な村づくりができています。

## 現状と課題

水道は、人々が生活する上で一日も欠かすことのできない重要な生活基盤です。

本村の水道事業は、楯木田内の水源を利用して昭和46年から始まり、現在まで8水源を整備し、水源ごとに認可を受けてきました。その後、効率的な経営を行うため、平成23年4月に経営統合し、鮫川村統合簡易水道事業として運営しています。

令和2年3月現在、本村の給水人口は1,635人、給水件数は613件、水道普及率は50.4%となっています。

少子高齢化が進む中、持続可能な社会を支える生活基盤の整備は重要ですが、施設の老朽化等による維持管理費の増大等の課題もみられ、効率的な水道事業の運営が求められています。

今後は、将来の水道需要を見据え、施設統合等による施設の減少を検討するとともに、給水区域外の小規模水道施設整備への支援を進めていく必要があります。

一方、下水道は、住みよい居住環境づくりや河川・湖沼等の公共用水域の水質汚濁の防止・改善をはじめ、多面的な機能を持つ重要な生活基盤です。

本村では、農業集落排水事業、合併処理浄化槽整備事業により村内の生活排水施設の整備を進めています。

令和2年3月現在、村内の汚水処理人口は2,457人、汚水処理人口普及率は75.7%となっています。

今後とも、衛生的で快適な生活環境づくりに向け、農業集落排水施設の適正管理及び接続の促進に努めるとともに、合併処理浄化槽の設置促進及び設置後の適正管理の促進に努める必要があります。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康で安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

施策の体系



主要施策

(1) 水道施設の整備・維持管理

- ①災害時でも給水できる体制を整備するため、施設の老朽化に伴う必要な改修・改築を行います。
- ②水道需給量を見据えながら、給水区域と隣接する水道未普及地域の解消に努めます。
- ③給水区域外の小規模水道施設整備への支援を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・水道施設の維持管理	村	村	継続	一般

(2) 水源の維持・確保

安定的な給水を維持するため、水源のかん養や水源の確保に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・第3水源の継続的な確保	村	村	継続	一般
・水源地の適正な管理				
・今後の水源確保の検討				

(3) 水質の管理

安心で安定した水質を確保するため、水質検査の実施をはじめ、必要な水質管理を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・水道施設監視システムの保守管理	村	村	継続	一般
・水道施設の定期的な清掃				
・水道施設の巡回・巡視				
・機器、計器類の定期的な更新				

(4) 水を大切に使う習慣づくり

限りある資源である水を大切に使う習慣を子どもと大人が再認識するよう、水道施設の見学学習に取り組めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・小学校社会科見学	村	村/小学校	継続	一般
・広報やホームページなどによる啓発促進	村	村	継続	一般

(5) 自家用水道施設整備

村による水道施設の整備が困難な地域等において、飲料水その他の生活に必要な水を確保するための施設整備費を助成します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・自家用水道施設整備事業	村	村	拡大	一般

(6) 農業集落排水施設の適正管理と接続の促進

- ①老朽化等を踏まえながら、農業集落排水施設を適正に管理して計画的な修繕と更新により施設の長寿命化を図ります。
- ②広報・啓発活動の推進等により、未接続世帯の接続を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・機器、計器類の定期的な更新	村	村	継続	一般
・公営企業会計への移行				

(7) 合併処理浄化槽の設置促進と適正管理の促進

- ①合併処理浄化槽の設置に対する支援を引き続き行い、設置を促進します。
- ②合併処理浄化槽の本来の浄化機能が発揮されるよう、広報・啓発活動の推進等により、設置後の浄化槽の清掃・点検等を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・合併浄化槽設置補助金	村	村	継続	一般
・適切な管理方法などのチラシの作成やホームページなどによる啓発促進				

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康で安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
水道水有収率	%	82.9	85.0
水道普及率	%	50.4	60.0
給水普及率	%	86.6	93.0
基幹施設の老朽化対策実施箇所数	箇所	0	1
1人1日平均給水量	ℓ	289	265
1日平均給水量	m <sup>3</sup>	471.9	446.0
汚水処理人口普及率	%	75.7	90.0
農業集落排水接続率	%	93.6	96.0

※水道普及率は向上させるものの、給水量については、節水の習慣化をお願いし減らしていきたいと考えています。

村民・事業者が出来ること

- 村民と事業者は、水道水の使用への関心を持ち、水道事業への理解を深めます。
- 村民は、集落排水施設への接続や合併処理浄化槽の設置を積極的に図ります。
- 村民と事業者は、集落排水施設や合併処理浄化槽の管理を徹底し、水質汚濁をしないよう注意します。

4 公園・緑地、緑化

施策の目標

子どもを安心して遊ばせられる公園等、地域住民のいこい・交流の場が整備され、地域の子どもの声が聞こえる村づくりが推進されている村。

現状と課題

公園・緑地は、緑豊かな住環境の形成をはじめ、地域住民のいこい・交流の場、子どもの遊び場、災害時の避難場所の確保など、様々な役割を持つ重要な施設です。

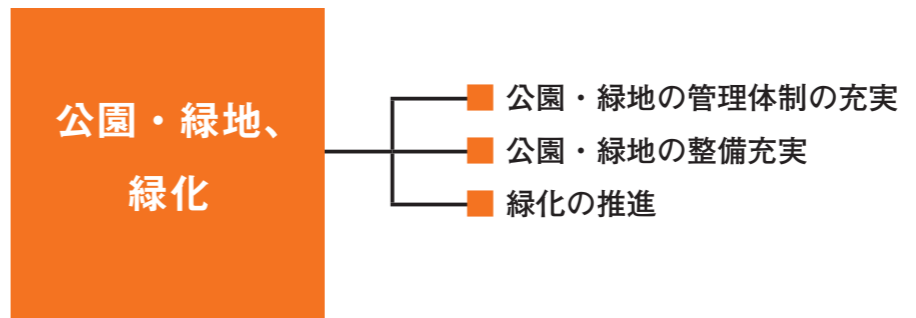
本村は広大な森林を有する豊かな自然を誇る村であり、緑や水に親しめる場は数多くあります。また、館山公園のほか、4か所の農村公園（真坂、墓地石山、遠ヶ竜、戸倉）などがあります。

しかし、村民の生活に身近ないこい・交流の場、子どもの遊びとしての公園の整備状況は十分といえず、これらへの対応が求められているほか、少子高齢化・人口減少が進む中、既存公園の管理や施設・設備の老朽化への対応が課題となっています。

このため、既存公園の管理体制の充実や施設・設備の点検・改修に努めるとともに、誰もが利用しやすい公園の整備を進める必要があります。

また、花と緑あふれる快適な住環境の形成に向け、村民の参画・協働のもと、緑化運動や花づくり運動を進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 公園・緑地の管理体制の充実

地域住民による公園・緑地の愛護活動を促進し、協働による管理体制の充実に努めるとともに、今後の公園の存続について地元の皆さんと検討します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・館山公園整備事業	村	村/地元	継続	一般/補助
・農村公園管理事業				

(2) 公園・緑地の整備充実

①村民の身近ないこい・交流の場、子どもの安全な遊び場を確保するため、誰もが利用しやすい総合的な公園・緑地を整備します。

②安全性の確保と利用の促進に向け、老朽化した既存公園施設・設備の点検・補修を計画的に推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・公園遊具等設置事業	村	村	新規	一般/補助



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康で安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況  
各種資料

### (3) 緑化の推進

花と緑あふれる快適な住環境の形成に向け、公共施設への植樹を計画的に推進するとともに、村民の自主的な緑化運動・花づくり運動を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・緑の募金活動の推進事業	村	村	継続	—

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
公園管理団体数	団体	2	2

※既存の公園管理団体の維持継続を図るため、実績と目標は同数となっています。  
※村民の方に協力をいただき公園管理団体の維持に努めます。

#### 村民・事業者が出来ること

村民・事業者は、沿道の花いっぱい運動などに協力します。

## 5 消防・防災体制の強化

### 施策の目標

自然災害予防強化、災害応急対策がしっかりされており、かつ住民による見守り体制など、要支援者への対応がしっかりと確立され、安心・安全な村づくりができています。

### 現状と課題

東日本大震災はもとより、全国各地で地震災害や大雨災害が発生し、安全・安心への人々の意識が急速に高まり、消防・防災体制の強化が強く求められています。

本村の消防体制は、令和2年4月現在、常備消防として、白河地方広域市町村圏整備組合による棚倉消防署鮫川分署が設置されているほか、非常備消防として、鮫川村消防団（3分団、団

員定数230人）が組織されており、互いに連携して防火・消火活動等を行っています。

しかし、生活様式の多様化や高齢化の進行などにより、火災発生要因は複雑・多様化の傾向にあるとともに、救急ニーズについても今後増加が見込まれます。

また、消防団においても、団員確保の困難さや団員の高齢化などの問題がみられ、消防力の低下が懸念されています。

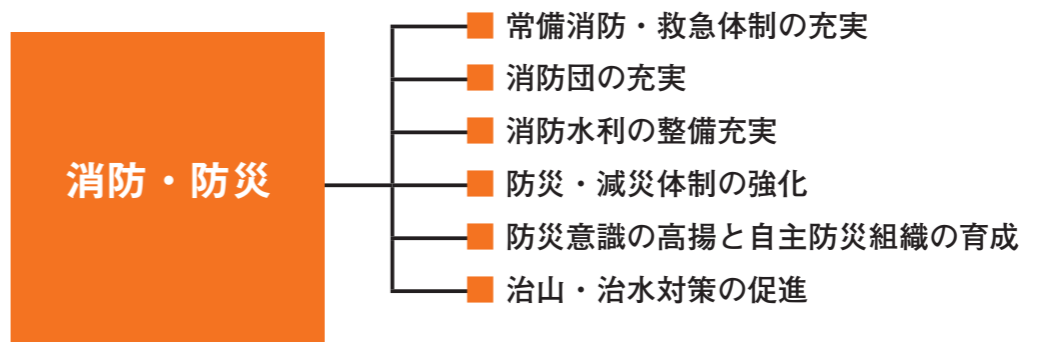
施設面についても、防火水槽・消火栓等の消防水利の拡充や消防施設・装備の計画的更新等が必要となっています。

このため、広域的連携による常備消防・救急体制の充実を進めながら、時代に即した消防団の活性化対策を推進するとともに、消防施設全般の整備充実を進めていく必要があります。

また、防災面については、これまで防災全般の総合的指針である地域防災計画の見直しやハザードマップ<sup>\*4</sup>の作成及び全戸配布、防災無線のデジタル化などを進めてきましたが、高齢化が急速に進行する中で、要配慮者<sup>\*5</sup>の情報収集・伝達及び避難対策の確立、河川の改修、急傾斜地等の危険箇所の把握・周知及び災害防止などが課題となっています。

このため、今後は、地域防災計画等の指針を適宜見直ししながら、要配慮者の避難支援体制の充実や治山・治水対策の促進をはじめ、近年の大規模災害の教訓等を踏まえた防災・減災体制の一層の強化を進め、あらゆる災害に強い村づくりを進めていく必要があります。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 常備消防・救急体制の充実

火災や災害に対する即応力を高めるため、広域的連携のもと、施設・装備の整備充実を計画的に進め、常備消防・救急体制の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・常備消防費の負担 ・常備消防との連携	村	村/広域消防	継続	一般

\*4 想定される災害の範囲や避難場所等を地図上に示したもの

\*5 従来の災害時要援護者。高齢者や障がいのある人、乳幼児その他特に配慮する者

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況  
各種資料

## (2) 消防団の充実

- ①村民や事業者等の理解と協力を求めながら、消防団員の確保を進めるとともに、団員アンケートを実施し、よりよい環境の整備に努めます。
- ②研修・教育の実施を通じ、消防団員の資質の向上を促進します。
- ③消防団を中核とした地域防災力の充実・強化に向け、施設・装備の整備充実を計画的に進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・消防学校の入校や研修の実施 ・防備訓練や検閲の実施 ・出初式の開催	村	村/広域消防/ 消防団	継続	一般
・消防操法大会への参加・新入団員の規律訓練 や資機材取扱講習の実施				
・団員アンケートの実施	村	村/消防団	新規	一般

## (3) 消防水利の整備充実

地域の状況を踏まえながら、防火水槽や消火栓等の消防水利の整備充実を計画的に進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・消防施設及び装備の計画的更新及び点検	村	村/消防団	継続	一般

## (4) 防災・減災体制の強化

地域防災計画やハザードマップ等を適宜見直ししながら、これに基づき、総合的な防災・減災体制の強化を進めます。特に、要配慮者の避難支援体制の充実、備蓄施設等防災施設の整備充実及び備蓄資機材の充実、避難路・避難場所の充実及び周知徹底を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・災害対策本部設置を想定した防災会議の実施 ・水防用品の整備/防災無線の点検及び修繕 ・避難所開設及び運営に係る備蓄資機材の整備	村	村/行政区/ 消防団	継続	一般

## (5) 防災意識の高揚と自主防災組織の育成

広報・啓発活動の推進やハザードマップの活用、防火・防災訓練の実施を図るとともに、地域防災の要となる自主防災組織の育成及び活動支援に努め、村民の防火・防災意識の高揚と地域ぐるみの防火・防災体制の確立に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・行政区単位や地域づくり団体での防災意識の高揚のための啓蒙活動の推進	村	村/行政区/ 地域づくり団体	継続	—

## (6) 治山・治水対策の促進

災害を未然に防止するため、危険箇所の把握・周知を行いながら、河川の改修や急傾斜地の崩壊防止など、治山・治水対策を関係機関に要請していきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・対策が必要な箇所の点検	村	村	継続	—

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
火災発生件数	件	6	3

### 村民・事業者が出来ること

- 村民は、危険箇所について事前に確認し、被災しないよう、また、被災した場合の被害を出来るだけ軽減するための準備をします。
- 村民・事業者は、地域でともに助け合うために組織の強化や訓練に取り組みます。
- 事業者は、災害時においては地域を守るための物資・場所・人材の提供等に努めます。

# 6 防犯・交通安全

## 施策の目標

村民一人ひとりの協力で安心・安全な生活が持続できる環境づくりが出来ている村

## 現状と課題

子どもが被害者となる凶悪犯罪やインターネット・電話を使った顔のみえない犯罪等が増加する中、犯罪からの安全性の確保が強く求められています。

本村では、警察や防犯協会、防犯指導隊などの関係機関・団体との連携のもと、防犯意識の高揚や防犯体制の充実を図り、犯罪の未然防止に努めています。

しかし、今後、少子高齢化やコミュニティ意識の希薄化等に伴い、地域の犯罪防止機能の低下も懸念されることから、より一層、防犯意識の高揚や防犯・地域安全体制の強化を進めていく必

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康で安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況  
各種資料

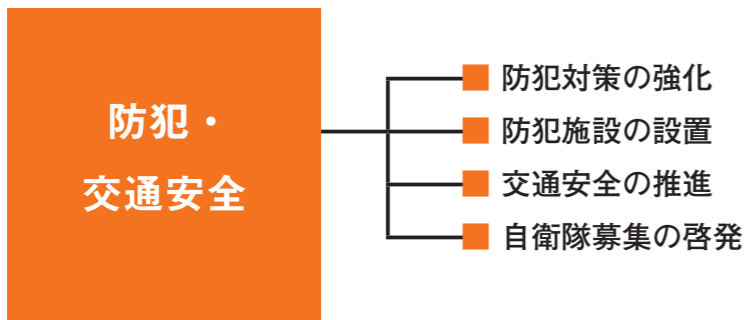
要があります。

交通安全については、高齢化が進む中、全国的に交通事故死傷者に占める高齢者の割合が高く、その対策が重視されています。

本村では、交通事故の防止に向け、警察や交通安全協会などの関係機関・団体との連携のもと、子どもや高齢者を対象とした参加・体験・実践型の交通安全教育をはじめ、広報活動や交通安全運動期間の集中啓発活動等を積極的に推進し、交通安全意識の高揚に努めるとともに、交通安全施設の整備に努めています。国・県道を中心に交通事故は依然として発生しており、平成25年における交通事故件数は51件、死傷者数は4人となっていました。令和元年度における交通事故件数は48件、死傷者は0人となりました。

今後、交通量の一層の増加や高齢化の急速な進行等も勘案し、交通安全意識の高揚や交通安全施設の整備など、交通安全対策全般の一層の強化が必要です。

施策の体系



主要施策

(1) 防犯対策の強化

関係機関・団体との連携のもと、各学校における防犯教室の開催や広報・啓発活動の推進等を通じて村民の防犯意識の高揚に努めるとともに、関係団体を中心とした防犯・パトロール活動の促進に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・パトロール車の配置 ・防犯指導隊によるパトロールの実施	村	村/防犯指導隊	継続	一般

(2) 防犯施設の設置

夜間における防犯環境の向上に向け、防犯カメラの設置、防犯灯の設置・改修及びLED<sup>\*6</sup>化を計画的に推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・防犯灯の設置・改修及びLED化 <sup>*6</sup> ・防犯カメラ設置などの啓発	村	村	継続	一般

\*6 発光ダイオード。白熱灯に比べ大幅な省エネルギーが可能

(3) 交通安全の推進

- ①関係機関・団体との連携のもと、交通安全教室やドライブテック教室の開催、広報・啓発活動の推進等を通じて村民の交通安全意識の高揚に努めるとともに、関係団体を中心とした交通安全活動の促進に努めます。
- ②今後交通量の増加が見込まれる国・県道について、交通安全施設の整備充実及び道路環境の向上を関係機関に要請していきます。
- ③村道においても、地域住民の要望を踏まえながら、カーブミラーの設置など、交通安全施設の整備を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・交通安全教育専門員の配置 ・街頭指導の実施 ・交通安全運動期間中の集中啓発活動 ・交通安全教室の実施 ・交通安全用品の贈呈 ・カーブミラーの点検や適切な設置 ・関係機関との連携を強化し、啓蒙活動の推進	村	村/駐在所/ 交通安全教育専門員	継続	一般

(4) 自衛隊募集の啓発

自衛隊福島地方協力本部と連携し、なり手不足の解消を図る。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・広報などによる募集活動の継続 ・入隊者への激励	村	村	継続	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
交通事故発生件数 (死亡事故)	件	0	0
交通事故発生件数 (人身事故)	件	3	0
交通事故発生件数 (物損事故)	件	48	35

村民・事業者が出来ること

村民・事業者は、交通安全運動や防犯活動に参加するとともに、防犯環境の整備に協力します。村民は、犯罪にあわないよう十分に注意するとともに、お互いに声掛け等をし、防犯対策をします。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 第2章 健やかで安心なふるさと鮫川

### 1 保健・医療

#### 施策の目標

「自分のことは自分で、人のことはみんなで支える暮らしの実現に向けて、村民一人ひとりの健康意識が高く、運動習慣や規則正しい生活習慣を身につけ健康寿命の延伸・疾病予防対策がしっかりと確立され、村民が笑顔で健康で元気な村。

#### 現状と課題

生涯を通じて心身ともに健康に暮らせることは、豊かな住民生活はもとより、活気あふれる地域づくりのために欠かすことのできない要素であり、すべての住民の願いです。

本村では、平成22年3月に、村民の健康実態及び健康課題を明らかにし、生活習慣病予防に重点を置いた健康増進計画を策定し、様々な取り組みを進めてきました。

また、平成25年度から令和4年度までの「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次））」の中で、引き続き生活習慣病の一次予防に重点を置くとともに、合併症の発症や症状進展などの重症化予防を重視した取り組みを推進するため、乳幼児から高齢者までのライフステージに応じた「国民健康づくり運動」の基本的な方向及び53項目の目標に重点的に取り組むことと示されたため、平成25年3月に、新たな健康増進計画（健康鮫川21（第二次））を、特定健康診査・特定保健指導実施計画（第2期）と一体的に策定し、生涯のライフステージに応じた保健事業を推進しています。

しかし、生活習慣病の発症リスクを高めるメタボリックシンドローム<sup>\*7</sup>や心疾患、脳血管疾患等の重症化を招く原因となる糖、高血圧、脂質項目の高値者の割合が高く、生活習慣の改善につながる行動変容を促していくとともに、乳幼児期からの健康な生活習慣の確立を支援していくことが大切です。

また、少子化により家庭の子育て機能が低下傾向にある中で、村外出身の母親も多く、環境に慣れず身近に相談できる人が少ないため、育児に対する負担感や不安を抱えていることも考えられ、安心して楽しく子どもを育てるための母子保健の充実が求められています。

さらに、命を軽視する傾向にある現代の中で、命の大切さが理解でき、自己肯定感が育つとともに、自分や他者を尊重し自ら考え行動できる人間育成の支援が大切です。

このため、今後は、村民が主体的に健康づくりに取り組んでいけるよう、各計画に基づき、ライフステージに応じた保健事業の充実にも努める必要があります。

一方、本村の医療施設は、国民健康保険診療所と民間の歯科診療所が各1か所あります。

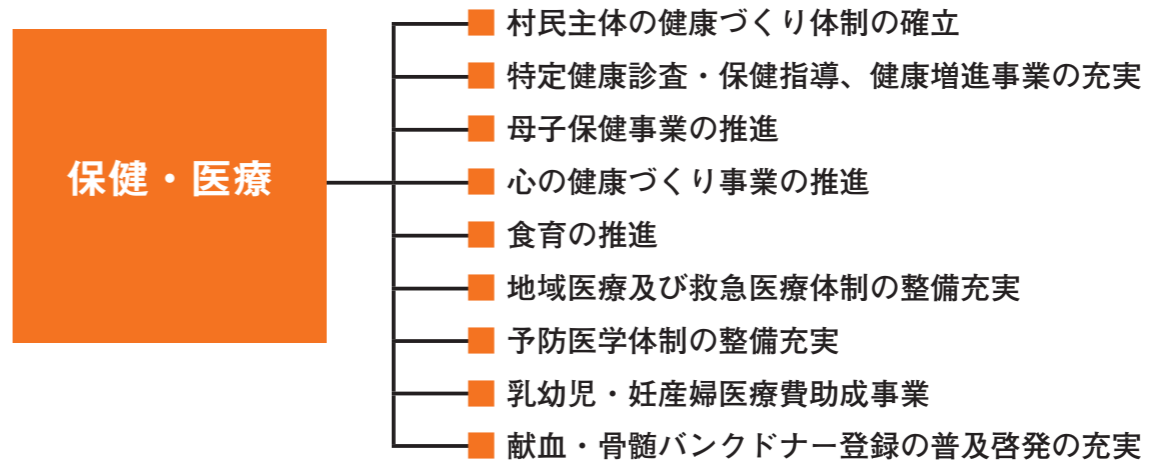
医療施設の確保は、過疎、少子高齢化が進む本村にとって、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送ることのできる、健やかで安心なふるさとづくりのための基本的な条件です。特に、住み慣れた地域で暮らし続けながら医療・介護サービスを受けることができる在宅医療や終末期医療、看取りのニーズが高まっています。

しかし、近隣の総合病院では診療科の縮小が進み、救急医療については受け入れが困難になっている状況にあり、現体制では住民のニーズに応じることが難しくなっています。

今後、医療ニーズはますます高度化・専門化していくことが予想されることから、国民健康保険診療所の充実を図るとともに、村内外の医療機関との連携や広域的連携を強化し、地域医療及び救急医療体制の充実を進めていく必要があります。

また、疾病予防や機能回復等のライフステージに応じた医療サービスが提供できるよう、保健・福祉との連携を図ることが必要です。

#### 施策の体系



#### 主要施策

##### (1) 村民主体の健康づくり体制の確立

- ①村民一人ひとりが予防の視点を重視して健康づくりに取り組むことができるよう、健康診査の未受診者対策及び行動変容につながる保健指導を実施します。
- ②家庭や地域における健康づくりの輪を広げていくため、適切な情報発信を行い、村民の意識の高揚を図るとともに、保健推進員や食生活サポーター、健康運動サポーター等の村民による健康づくり推進団体との協働のもと、村民の主体的な参画を促し、村民主導の事業推進になるよう努めます。
- ③村民主導の健康づくりの中心的な役割を担う健康づくり推進団体の育成を積極的に行います。

\*7 内臓脂肪症候群。内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうち、いずれか2つ以上をあわせ持った状態

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
ふるさと鮫川  
健康や心安心な  
ふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
ふるさと鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整った  
ふるさと鮫川  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・保健推進員活動支援 ・食生活サポーター活動支援 ・健康運動サポーター活動支援 ・健康づくり団体連絡会の開催	村	村/各種団体	継続	一般

## (2) 特定健康診査・保健指導、健康増進事業の充実

特定健康診査・特定保健指導実施計画に基づき、健康診査や保健指導を推進するとともに、がん検診の充実、健康教育や健康相談、医療との連携等の充実に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・保健指導の充実と体制づくり推進 (専門職の配置) ・健康増進事業 (健康増進健診、健康教育、相談、訪問等) ・がん検診事業 ・県民健康診査事業 ・さめがわ健康ポイント事業 (ふくしま県民パスポート事業)	村	村	継続	一般/補助
・後期高齢者健康診査事業 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業 (データ分析事業・重症化予防事業・通いの場健康教育事業)	村	村	継続	一般/補助 /交付金
・特定健康診査事業 ・特定保健指導事業 ・2次健診事業 ・疾病予防事業 (重症化予防事業・未受診対策事業) ・県南地区重症化予防協議会 (※医師会、市町村等)	村	村/※国保県南部会における市町村の合議体	継続	その他/交付金

## (3) 母子保健事業の推進

妊産婦や乳幼児の家庭訪問や保健指導、健康診査の充実等、母子保健事業を推進します。特に、乳幼児健康診査においては、保護者自身が子どもの発達過程を理解し、自らが問題を解決できる育児力の向上を促し、安心して子育てができるよう支援します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・母子・父子健康手帳交付事業 ・妊産婦健康診査助成事業 ・産後ケア事業 ・不妊治療費助成事業 ・妊産婦家庭訪問事業	村	村	継続	一般/補助

・乳幼児健康診査事業 ・未熟児養育医療費助成事業 ・健やか発達支援事業 (にこにこ教室・乳幼児発達観察相談会)	村	村	継続	一般/補助
--	---	---	----	-------

## (4) 心の健康づくり事業の推進

学校と連携しながら命の授業や思春期保健事業等を推進し、思春期から命の大切さや自他を大切にする気持ちを養い、自ら考え行動できる力を形成していけるよう支援します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・心の健康相談事業 ・思春期保健事業 ・ゲートキーパー養成講座 ・自殺予防普及啓発 ・日常生活支援事業(やまぶきの会)	村	村	継続	一般/補助

## (5) 食育の推進

村民が食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるよう、また本村ならではの食文化の継承と創造に向け、食育推進計画に基づき、関連部門が一体となって食育を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・各ライフステージに応じた食育の推進	村	村	継続	一般

## (6) 地域医療及び救急医療体制の整備充実

- ①村民の医療ニーズに応えられるよう、国民健康保険診療所の医師・看護師の確保、施設・設備の整備充実を進めます。
- ②二次医療サービスの確保・充実について、広域的な取り組みを積極的に推進するとともに、関係機関と連携しながら、地域医療及び救急医療体制の充実に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・外来診療業務や在宅医療の継続的な実施と送迎支援 ・白河地方第二次救急医療体制整備事業の実施 ・東白川郡在宅当番医制度事業の実施 ・塙厚生病院医師確保事業等 ・オンライン診療の導入の検討	村	村など	継続	一般
	村	村	新規	一般

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康やかで安心なふるさと鮫川  
鮫川 活力と交流に満ちたふるさと  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに育つふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## (7) 予防医学体制の整備充実

感染力が強い・致死率が高い・重症になる可能性が高い病気にかかることを防いだり、他の人に感染させて社会に病気がまん延することを防ぐことを目的として、予防医学体制の整備と充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・定期予防接種事業 ・任意予防接種事業	村	村	継続	一般／補助
・緊急風しん抗体検査の啓発	村	村	～2021年	一般／補助
・その他の感染症予防事業の充実	村	村	新規	一般
・浸水被害家屋等消毒事業	村	村	継続	一般

## (8) 乳幼児・妊産婦医療費助成事業

子どもの健康を守り、安心して子どもを生み育てやすい環境づくりを進めるため、子どもたちが安心して医療を受けられるように、子育て支援策として、医療費の助成を実施します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・乳幼児医療費助成事業 ・妊産婦医療費助成事業	村	村	継続	一般

## (9) 献血・骨髄バンクドナー登録の普及啓発の充実

安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律に基づき献血を実施するとともに、公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンクドナー登録の推進を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・献血の実施（年2回） ・骨髄バンクドナー登録会の実施	村	村／日本赤十字血液センター／公益財団法人日本骨髄バンク	継続	一般／補助

## 事業業績評価指標（KPI）

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
特定健康診査受診率	%	74.7	70.0
特定保健指導実施率	%	101.5	90.0
国民健康保険被保険者の1人当たりの医療費 (一般＋退職)	円	351,997	334,397

※令和6年度のKPI数値（特定健診70%・保健指導90%）は、鮫川村第2期データヘルス計画内第3期特定健診等実施計画に準じるものです。  
 ※国が定める特定健診・保健指導の目標実施率（第3期）は70%以上・45%以上です。  
 ※本村の令和元年度実績（特定健診74.7%・保健指導101.5%）は非常に高い実績値になっております。

## 村民・事業者が出来ること

- 村民は、健康づくりの意識を高め、健康づくり事業へ積極的に参加します。
- 村民は、食生活に気を配り、地産地消を心がけます。
- 村民は、健診を受診し、自分の身体の状態を把握します。
- 事業者は、従業員が安心して健康診断に行けるよう配慮し、健康増進に努めます。また、ストレスチェックを実施し、心の健康に努めます。

## 2 子育て支援

### 施策の目標

少子高齢化に対応した、子育て支援や高齢者支援が充実していて、村民を守るセーフティネットが多方面（福祉分野だけでなく、スポーツ分野や地域子育て分野でも）で機能している村。

### 現状と課題

わが国では、未婚化や非婚化、晩婚化などを背景に、出生率が一貫して減少し、少子化がさらに深刻化しつつあり、大きな社会問題になっています。

本村では、平成21年度に策定した次世代育成支援地域行動計画（後期）に基づき、保育所と子育て支援センター、幼稚園の3つの機能を備えたさがわこどもセンターを拠点に、地域子育て支援センター事業の充実や保育サービスの充実、子育て家庭への経済的支援の推進、児童虐待の防止に向けた取り組みの推進など、各種の子育て支援施策を推進してきました。

しかし、本村の少子化は依然として国や県の水準を上回る勢いで進行し、村全体での少子化対策、子育て支援が重要な課題となっています。

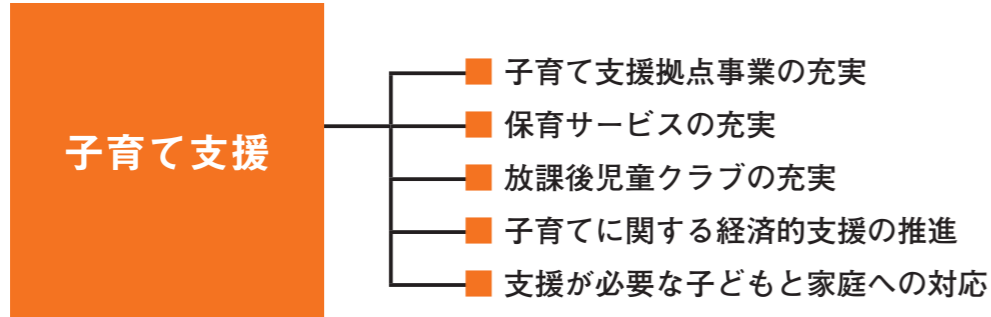
特に、近年、共働きやひとり親家庭の増加など、就労形態や家族形態が多様化し、子育て環境が大きく変化してきており、保護者が安心して子どもを預けられる環境の整備や、そのための保育士の確保と資質の向上が求められています。

このような中、平成27年度から、子ども・子育て関連3法に基づく「子ども・子育て支援新制度」が始まりましたが、これを踏まえて策定した第二期子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育て家庭を村全体で支援していくという視点に立ち、関連部門・関係機関が一体となって、多面的な子育て支援施策を積極的に推進し、若い世代が安心して子どもを生み、健康やかに育てていくことができる環境づくりを進めていくことが必要です。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくり  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健康やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ふもつる  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

施策の体系



主要施策

(1) 子育て支援拠点事業の充実

子育てへの負担感や不安を軽減し、安心して子どもを生み育てることができるよう、子育てに関する相談・指導、学習・交流の場の提供等を行う地域子育て支援拠点事業の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代包括支援センターの設置</li> <li>民生児童委員の活動</li> <li>やまゆり保育室・乳児室の開催</li> <li>預かり保育の実施</li> <li>特別保育事業の実施</li> <li>一時保育の継続</li> </ul>	村	村	継続	一般

(2) 保育サービスの充実

- ①就労形態・家族形態の変化等により多様化する保育ニーズに対応し、保育内容の充実、一時預かりの充実を図ります。
- ②保育環境の充実に向け、保育士の確保を図るとともに、研修機会の拡充等により、保育士の資質の向上に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育部業務の運営</li> <li>病児保育の導入の検討</li> <li>幼稚部業務の運営</li> <li>地域子育て支援センターの運営</li> <li>幼児バス運行の継続と検討</li> <li>さめがわこどもセンターの施設改修などの維持</li> </ul>	村	村	継続	一般

(3) 放課後児童クラブの充実

- ①保護者が安心して就労や介護等ができるよう、また、児童が健全に育成されるよう、放課後児童クラブの充実を図ります。
- ②児童クラブの施設については、必要に応じて施設の場所などの検討をしていきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・放課後児童クラブ事業	村	村	継続	一般

(4) 子育てに関する経済的支援の推進

子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、医療費の助成や各種手当の支給、多子世帯の保育料の軽減など、経済的支援を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>出産祝金給付事業</li> <li>子育て応援祝金支給事業</li> <li>乳幼児紙おむつ給付事業</li> <li>児童手当支給事業</li> <li>多子世帯保育料支援事業</li> </ul>	村	村	継続	一般

(5) 支援が必要な子どもと家庭への対応

要保護児童対策地域協議会を中心とした児童虐待の防止・早期発見に向けた取り組みの推進、ひとり親家庭等の自立支援施策の推進など、支援が必要な子どもと家庭に対するきめ細かな対応に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>要保護児童対策協議会の実施</li> <li>ひとり親家庭医療費の助成</li> <li>特別児童扶養手当の支給事業</li> </ul>	村	村	継続	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
こどもセンターの在り方についてのアンケート (保育体制・連絡などについての保護者の満足度)	%	96.0	98.0
子育て世代関係機関の連携による検討会の開催 (年間実施件数)	回	0	2

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康や安心して暮らすふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

村民・事業者が出来ること

村民は、地域社会で子育てを支援する意識を持ち、自ら参加できる活動に積極的に参加します。  
事業者は、子育て中でも働きやすい職場環境の改善に取り組みます。

3 高齢者支援

施策の目標

少子高齢化に対応した、子育て支援や高齢者支援が充実していて、「自分のことは自分で、人のことはみんなでお互いに支える暮らし」の実現に向けて、村民一人ひとりの健康意識が高く、運動習慣や規則正しい生活習慣を身につけ健康寿命の延伸・疾病予防対策がしっかりと確立されている。

村民が笑顔で健康で元気であり、100歳まで元気に歩ける村づくりに向かって村全体が取り組んでいる村。

現状と課題

わが国の高齢化は、世界に例をみない速度で進んでおり、今後も、団塊の世代がすべて高齢期に入ることにより、高齢者人口がさらに急激に増加することが見込まれています。

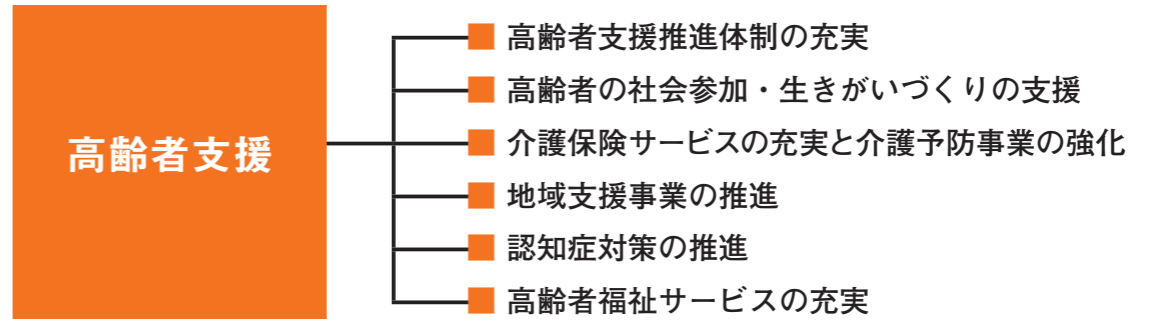
特に本村では、国や県の水準を大幅に上回る高齢社会で、令和2年2月末に高齢化率は38.0%に達しました。

本村ではこれまで、7期にわたる高齢者福祉計画及び6期にわたる介護保険事業計画の策定のもと、地域包括支援センターの設置や介護保険事業の適正運営をはじめ、社会参加・生きがいの支援、各種福祉サービスの提供など、高齢者のニーズに即した支援施策を推進してきました。

しかし、今後、本村の高齢化はさらに加速していくことが予想されており、これに伴い、介護を必要とする高齢者やひとり暮らし高齢者、認知症高齢者の増加が見込まれるとともに、社会参加や生きがいの支援に関するニーズの増大も予想され、高齢者支援の充実は引き続き村全体の大きな課題となっています。

このような中、村は改めて社会福祉協議会の存在の意味を再確認し、住民が主体の理念に基づき、地域の福祉課題に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現を目指し、住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・運営などを一丸となって進めるとともに、地域包括ケアシステム<sup>\*8</sup>の実現に向けた高齢者福祉・介護施策を計画的に推進し、すべての高齢者が生きがいを持ち、いつまでも元気に暮らせる村づくりを進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 高齢者支援推進体制の充実

- ①総合相談業務の窓口となる地域包括支援センターの機能強化、高齢者関連施設・機能の整備・確保を図ります。
- ②高齢者福祉計画・介護保険事業計画の点検・評価・見直しを行い、推進体制の強化を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・地域包括支援センターの運営助成				
・地域福祉計画・高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定	村	村	継続	一般

(2) 高齢者の社会参加・生きがいの支援

- ①高齢者が社会参加し、いきいきと活動できるよう、シルバー人材センターの活動支援や高齢者の大豆生産の支援を行います。
- ②高齢者の生きがいの支援・健康づくりに向け、老人クラブの活動支援や生涯学習活動・スポーツ活動等の促進を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・敬老会の開催	村	村	方法の検討	一般
・シルバー人材センター活動補助事業	村	村	継続	一般
・社会福祉協議会と連携した活動 (老人クラブ活動補助/地域サロン実施事業 /いきいき百歳体操教室の推進/高齢者地域の サロン立ち上げ支援/福祉ボランティア団 体の育成と支援)	村	村/行政区/ 社会福祉協議会 /地域包括支援 センター	拡大/推進	一般
・大豆生産者の勧誘	村	村	拡大/推進	一般

\*8 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、住まい・医療・介護・予防等の支援・サービスを包括的に提供する体制

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康やかで安心なふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

・筋力づくり教室の継続と実施内容の検討	村	村／地域包括支援センター／筋力教室スタッフの会	拡大／推進	一般
・ふれあい広場地区支援事業の実施方法の検討と継続	村	村／行政区／社会福祉協議会／地域包括支援センター	拡大／検討／推進	一般

### (3) 介護保険サービスの充実と介護予防事業の強化

- ①積極的に民間介護事業所との連携のもと、要支援・要介護認定者を対象とした、居宅サービスや地域密着型サービス、施設サービスなど、各種サービスの提供体制の充実を促進する。
- ②村民一人あたりの医療費が低額である一方、介護を受けるようになって、一人当たりの介護給付費額は県内でもトップクラスとなっています。このような現状を受け、本村では介護予防事業全般の見直しを行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・民間事業所との連携による介護予防事業の強化 ・今後の介護給付費抑制に伴う事業の展開の検討 ・社会福祉協議会と連携した今後の地域包括システムの構築	村	村	継続	一般

### (4) 地域支援事業の推進

- ①すべての高齢者を対象に、自主的な介護予防活動の支援や介護予防に関する知識の普及・啓発を行うとともに、要支援・要介護状態になるおそれのある高齢者を対象に、生活機能の維持・向上に向けた予防サービスを提供する介護予防事業を実施します。
- ②地域包括支援センターを核に、介護予防ケアマネジメントや総合的な相談支援、権利擁護を行う包括的支援事業を実施します。
- ③高齢者を介護する家族等の適切な介護知識・技術の習得、家族介護者相互の交流の支援など、家族介護支援を行う任意事業を実施します。
- ④今後、迎える高齢化率40.0%を超える高齢化社会に向け、高齢者優良賃貸住宅の適正な確保と運営を検討します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・高齢者優良賃貸住宅の運営 ・お助け事業の実施 ・在宅高齢者寝具丸洗い乾燥事業 ・在宅要介護高齢者紙おむつ給付事業 ・在宅高齢者家族会の開催と慰労金の支給 ・一人暮らし高齢者等緊急通報装置貸与事業	村	村	継続	一般

### (5) 認知症対策の推進

関係機関と連携した認知症の早期発見・予防・重度化の防止に向けた取り組みの推進や認知症サポーターの養成・活用など、認知症対策を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・認知症サポーター養成講座	村	村	継続	一般

### (6) 高齢者福祉サービスの充実

介護保険対象外の生活上の支援が必要な高齢者を対象に、在宅生活の支援や住宅・居住に関する支援、養護老人ホームの入所支援をはじめとする各種サービスの充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・東白川地方町村老人ホーム入所判定委員会 ・施設入所福祉対策事業 ・高齢者総合福祉センター運営事業	村	村	継続	一般

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
シルバー人材センター会員数	人	53	70
老人クラブに加入している高齢者の割合	%	49.2	50.0
65歳以上人口に占める要介護認定者の割合	%	16.6	17.0
高齢者の健康づくり、介護予防教室等の参加者数(延べ)	人	2,250	3,000

※65歳以上人口に占める要介護認定者の割合は、今後の高齢化率を鑑み、17.0%を目標値としたが、介護度を上げない(維持する)事業を推進します。

### 村民・事業者が出来ること

- 高齢者は、社会活動へ積極的に参加し、趣味などの生きがいを探す意識を高めます。
- 事業者は、娯楽や生涯学習の場の提供を進めます。
- 村民は、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の見守り、高齢者との世代間交流に努めます。
- 村民は、真に必要な介護サービスを利用します。
- 事業者は、より良い介護サービスの提供に努めます。
- 事業者は、介護サービス施設の充実と整備を進めます。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに生きるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 4 障がい者支援

### 施策の目標

障がい者がいつまでも笑顔で暮らせるように、民間事業者や専門職との連携を行い、切れ目のない福祉サービスが充実している村。

### 現状と課題

障がいのある人もない人も、お互いに人格、人権、個性を尊重し、支え合いながらともに生きる社会の実現が求められています。

平成30年4月に施行された改正障害者総合支援法では、障害のある人が自ら望む地域生活を営むことができるよう「生活」と「就労」に関する支援の一層の充実を図るとともに、児童福祉法の改正により、発達支援が必要な児童の多様なニーズにきめ細かく対応するための支援の充実を図ることとされています。

令和元年4月現在、本村の身体障害者手帳所持者は183人、療育手帳所持者は49人、精神障がい者保健福祉手帳所持者は27人となっています。

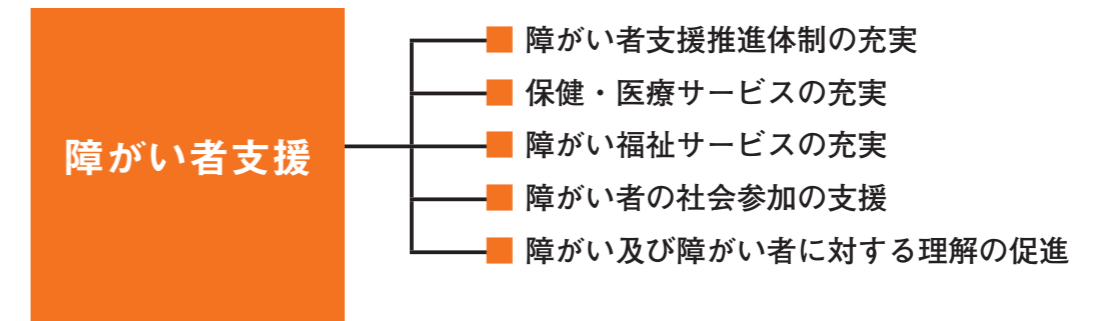
しかし、近年、障がい者の高齢化や障がいの重度化・重複化が進んでいるとともに、障がい者を支える家族の高齢化も進んでおり、将来的な生活の維持が困難になることも予想され、障がい者支援の一層の充実が求められています。

本村ではこれまで、4次にわたる障がい者計画及び4期にわたる障がい福祉計画を策定のもと、障がい福祉サービスの提供や就労の支援、障がい及び障がい者に対する村民の理解の促進など、障がい者の自立と社会参加を基本とした支援施策を推進するとともに、第1期障がい児福祉計画を策定し、児童の多様なニーズに対応できるよう、民間事業所の協力のもと連携し、さまざまな施策を実施しています。

今後は、この計画に基づき、共生社会の実現に向けた障がい者支援施策を計画的に推進し、すべての障がい者が地域において可能な限り自立し、自分らしくいきいきと暮らせる村づくりを進めていく必要があります。

また、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム構築や地域生活支援拠点等の整備などの課題の実施に向けて、関係団体と連携を強化し検討していきます。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 障がい者支援推進体制の充実

- ①地域自立支援協議会の活用等により、相談支援体制の充実、関係機関・団体相互の連携・協力体制の充実を図ります。
- ②障がい者計画・障がい福祉計画の点検・評価・見直しを行い、推進体制の強化を図ります。
- ③地域生活支援拠点等の整備や、地域包括支援システムの構築にむけた検討を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・東白川地域自立支援協議会 ・障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画の点検・評価・見直し ・地域包括支援システムの構築 ・地域生活支援拠点等の整備	村	村／自立支援協議会／民間事業所／包括支援センター	継続／拡大	一般

#### (2) 保健・医療サービスの充実

医療機関等との連携のもと、障がいや疾病の予防、早期発見、早期治療・療育、機能回復訓練等の体制の充実や医療費の助成等に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・重度心身障がい者医療費助成 ・在宅日常生活用具支援 ・人工透析通院交通費 ・補装具支給事業 ・自立支援医療費(精神通院／更生医療／育成医療) ・軽度・中度等難聴児補聴器購入等給付事業	村	村／精神保健福祉センター／障がい者福祉センター	継続	一般／補助

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健康や安心して暮らすふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

### (3) 障がい福祉サービスの充実

- ①訪問系サービスや日中活動系サービス、居住系サービスなど、各種サービスの提供体制の充実を促進します。特に、就労支援に関するサービスから一般就労への移行に向けた体制の充実、施設から地域生活への移行を進めるためのグループホームの整備を促進します。
- ②相談の支援や手話通訳者の派遣、日常生活用具の給付をはじめとする地域生活支援事業を実施します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉サービス等</li> <li>・児童発達支援</li> <li>・放課後等デイサービス</li> <li>・日常生活用具等給付事業</li> <li>・移動支援事業</li> <li>・地域活動支援センター事業</li> <li>・日中一時支援事業</li> </ul>	村	村	継続	一般／補助

### (4) 障がい者の社会参加の支援

障がい者が多くの人たちとふれあい、いきいきとした生活を送れるよう、社会参加への支援に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活訓練等事業（やまがきの会）</li> <li>・地域移行のための安心生活支援事業</li> </ul>	村	村	継続	一般／補助

### (5) 障がい及び障がい者に対する理解の促進

障がい及び障がい者に対する村民の理解を深め、ともに生きる村づくりを進めるため、広報・啓発活動や交流事業を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のバリアフリー化の推進</li> <li>・ヘルプマークの普及・啓発</li> <li>・おもいやり駐車場への理解と配慮</li> </ul>	村	村	継続	一般

#### 事業業績評価指標（KPI）

指標名	単位	令和元年度（実績）	令和6年度（目標）
就労支援に関する障がい福祉サービス利用者の就労率	%	0.0	10.0
施設から地域生活への移行者数	人	0	1
地域生活支援拠点等の整備	圏域	0	1

#### 村民・事業者が出来ること

- 村民は、障がい者（児）に対する理解を深め、障がい者（児）の自立と社会参加を支援する活動へ参加します。
- 事業者は、障がい者が働きやすい環境をつくります。

## 5 地域福祉

### 施策の目標

村民を守るセーフティネットが多方面（福祉分野だけでなく、スポーツ分野や地域子育て分野でも）で機能していて、住民が安心して暮らせる社会保障がなされ、地域福祉が充実している村。

### 現状と課題

全国的に家庭の介護力の低下や地域における相互扶助機能の弱体化が進みつつあり、高齢者等の孤独死や所在不明といった問題も発生しています。

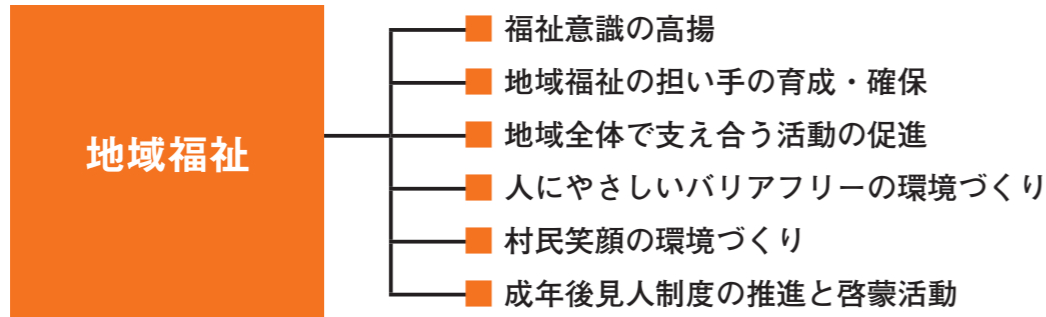
このような中、多様化する福祉ニーズや生活課題に対応していくためには、行政による取り組みだけでなく、地域住民や住民団体など、多くの主体が自主的に参画する地域福祉の仕組みづくりが必要です。

本村では、社会福祉協議会が、村から受託した各種福祉サービスの提供のほか、福祉ボランティア活動の促進や地域における福祉体制づくりを行っています。また、民生委員・児童委員やボランティア団体等が地域に密着した様々な活動を展開しているほか、地域ふれあいサロンなどの高齢者の居場所づくりも行われています。

しかし、今後、少子高齢化や核家族化がさらに急速に進行し、生活支援や移動手段の確保などの援助を必要とする高齢者や障がい者等が増加し、福祉ニーズはますます増大・多様化することが見込まれます。

このため、より多くの地域住民や住民団体などの福祉活動への参画を促進し、支え合い助け合いながら安心して暮らせる村づくりを進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 福祉意識の高揚

村民の福祉意識を高め、地域福祉活動への参画を促すため、社会福祉協議会との連携のもと、広報・啓発活動や福祉教育を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・鮫川村奨学金減免措置 ・思春期ふれあい教室	村	村	継続	一般

(2) 地域福祉の担い手の育成・確保

- ①地域福祉の中核的な役割を果たしている社会福祉協議会の自立した運営に向けて支援策を再検討するとともに、各種活動のさらなる活発化に向けた取組を推進します。
- ②社会福祉協議会や民生児童委員協議会等と連携しながら、各種福祉団体、福祉ボランティア団体、NPO等の育成・支援を行い、地域福祉を推進する多様な担い手づくりを進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・社会福祉協議会の運営支援	村	村	継続	一般

(3) 地域全体で支え合う活動の促進

- ①高齢者や障がい者等が孤立せず、安心して暮らせるよう、社会福祉協議会や民生児童委員協議会等との連携のもと、多様な担い手が一体となった見守り活動や生活支援・移動支援に関する活動を促進します。
- ②地域の高齢者が楽しく集える居場所として、地域ふれあいサロンの充実を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・民生委員活動費	村	村/民生委員	継続	一般
・地域サロン管理運営事業	村	村/社会福祉協議会	継続	一般

(4) 人にやさしいバリアフリーの環境づくり

- ①高齢者や障がい者、子育て中の親子も含め、すべての村民が不自由なく安全に安心して行動できるよう、公共施設のバリアフリー化を進めます。
- ②ヘルプマークの周知や普及を図り、村全体が誰にでも支援が出来る状態を実現します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・心のバリアフリー化の推進 ・ヘルプマークの普及・啓発	村	村	継続	一般

(5) 村民笑顔の環境づくり

本村の山並みに抱かれた彩り豊かな自然の中、普段の生活の中でも、春夏秋冬を感じながらゆったりとした時間を楽しむ場の提供として「村民保養施設さざり荘」の利用促進を図り、村民の笑顔を創出します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・村民保養施設の管理運営事業	村	村/社会福祉協議会	継続	一般

(6) 成年後見人制度の推進と啓蒙活動

本村の高齢者及び障がい者の中には、将来、成年後見人制度を利用する必要がある方が、多く見られます。そのような方に、早期に制度の説明を実施するとともに、適切な周知を行っていき理解を求める必要があります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・成年後見人支援制度の普及	村	村/社会福祉協議会	継続	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
福祉ボランティア団体登録数	団体	10	10
地域ふれあいサロン開催地区数	地区	8	15

村民・事業者が出来ること

- 村民**は、自らが地域福祉の担い手としての自覚を持ち、主体的に地域での福祉活動に参加します。
- 事業者**は、村民、行政等との連携による地域福祉の推進を図ります。
- 事業者**は、ひとり親家庭が働きやすい職場環境をつくりまします。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいな鮫川  
健康や安心して暮らす鮫川  
活力と交流に満ちた鮫川  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
ともに歩む鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 6 社会保障

### 施策の目標

村民を守るセーフティネットが多方面（福祉分野だけでなく、スポーツ分野や地域子育て分野でも）で機能していて、住民が安心して暮らせる社会保障がなされ、地域福祉が充実している村。

### 現状と課題

国民健康保険制度は、相扶共済の精神にのっとり、住民を対象として、病気、けが、出産及び死亡の場合に保険給付を行う医療保険の柱として、重要な役割を果たしています。

しかし、医療技術の高度化や高齢者層の増加による医療費の上昇、低所得者の加入割合の増加などにより、その運営は極めて厳しい状況にあり、今後は、医療費の抑制や国民健康保険税の安定的な確保に向けた施策を推進する必要があります。

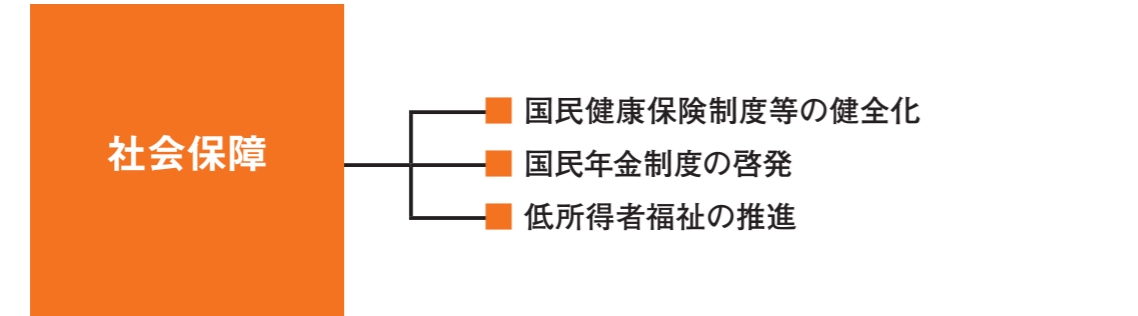
一方、国民年金制度は、不安のない老後の生活を保障するものであり、人々の生活に必要不可欠なものです。

しかし近年、年金記録問題などの様々な問題が発生し、人々の信頼の回復が求められており、今後は、国民年金制度について正しい理解の一層の浸透に努める必要があります。

また、年金収入のみの世帯の増加や景気の低迷等を背景に、低所得世帯は全国的に増加傾向にあります。

本村では、関係機関と連携し、低所得者に対する相談や生活保護制度の利用に関する助言・指導、資金貸付制度の紹介等に努めていますが、今後とも、低所得者の自立に向け、これらの取り組みを継続して実施していく必要があります。

### 施策の体系



## 主要施策

### (1) 国民健康保険制度等の健全化

- ①本村における医療費等の現状と問題点を的確に把握し、医療費の抑制に取り組むとともに、レセプト点検<sup>\*9</sup>の充実やジェネリック医薬品<sup>\*10</sup>の普及促進を図り、医療費の適正化に努めます。
- ②保健事業の推進により被保険者の健康づくり意識を高め、疾病の早期発見と重症化予防に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・国民健康保険事業	村	県/村	継続	一般
・後期高齢者医療事業	村	広域連合/村	継続	一般

### (2) 国民年金制度の啓発

国民年金制度についての正しい理解の一層の浸透に向け、関係機関との連携のもと、広報・啓発活動や年金相談等を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・日本年金機構と連携した国民年金事務	村	村	継続	一般
・農業者年金受託事務	村	村	継続	一般

### (3) 低所得者福祉の推進

民生委員・児童委員や関係機関との連携のもと、低所得者の実態を的確に把握しながら、相談・指導等に努めるとともに、生活保護制度や資金貸付制度の利用に関する助言・指導等に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・低所得者貸付制度	村	社会福祉協議会	継続	一般

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
国民健康保険被保険者の1人当たりの医療費 (一般+退職)	円	351,997	334,397
国民健康保険税収納率(現年度)	%	98.7	100.0

**村民・事業者が出来ること**

村民は、村民は、国民年金制度の正しい知識と理解に努めます。

村民は、相互のつながりを強めることで、生活困窮者の孤立を防ぎます。

\*9 診療報酬明細書  
\*10 新薬の特許期間終了後に発売される医薬品。同等の成分・効き目で比較的安価である

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な鮫川  
健やかで安心な鮫川  
活力と交流に満ちた鮫川  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
ともしあげる鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 第3章 活力と交流に満ちたふるさと鮫川

### 1 農林畜産業

#### 施策の目標

6次産業が確立され、何においても稼げるシステムを検討し、村で作られた農産物を無駄にしないよう消費者に届くようなサービスの展開が図られている村。

#### 現状と課題

農業は、食料の安定供給はもとより、水源のかん養や自然環境の保全、美しい景観・伝統文化の継承など、多面的な機能を持ち、人々の生活に大きな役割を果たしていますが、取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

また、東日本大震災の被災地においては、原発事故による風評被害が未だ払拭できない状況にあり、大きな問題となっています。

国では、農地中間管理機構の創設により、地域の担い手に農地を集約し、合理的な経営ができる体制を整備しようとしていますが、本村のような中山間地域では、平地と比較して生産性が低く、高齢化が進む中、担い手の確保と農地の集約は困難な状態にあります。

平成27年の農林業センサスによると、本村の農家総数は479戸、うち販売農家数は391戸となっており、水稲作や夏秋野菜の生産のほか、畜産が盛んであり、農業産出額に占める割合が大きく、資源循環型農業を実現できる環境にあります。

本村ではこれまで、「まめで達者な村づくり事業」に取り組み、農産物加工・直売所「手・まめ・館」を中心に、大豆加工品の生産・販売体制の整備等による農業の6次産業化や地産地消の促進等に努めてきました。また、平成25年度には、土づくりセンター「ゆうきの郷土」を整備し、「有機の里づくり」による有機農業の確立と循環型社会の形成を目指しているところです。

しかし、本村の農業を取り巻く環境は依然として厳しく、農家数の減少や農業者の高齢化、担い手不足、これらに伴う耕作放棄地の増加、農地集積の停滞などの問題が深刻化しています。

このような状況に対応していくためには、国の施策の動向を的確にとらえ、農業者自らが積極的かつ主体的に農業に取り組める環境を整備する必要があります。

このため、農業生産基盤の充実や担い手の育成を進めながら、改めて「まめで達者な村づくり事業」の原点を振り返り、事業継承と発展による農業の6次産業化や地産地消の一層の促進、「有機の里づくり」のさらなる推進をはじめ、農業の維持・発展に向けた多様な取り組みを一体的に推進していく必要があります。

畜産業においては、小規模農家が家業を廃止し、大・中規模な個人経営者が残っている状態で、「有機の里づくり」の基盤である循環型農業の形成を図っていくうえで大切な良質な堆肥を確保するためにも、今後経営の法人化などを推進し、村として支援していく必要性が出てきました。

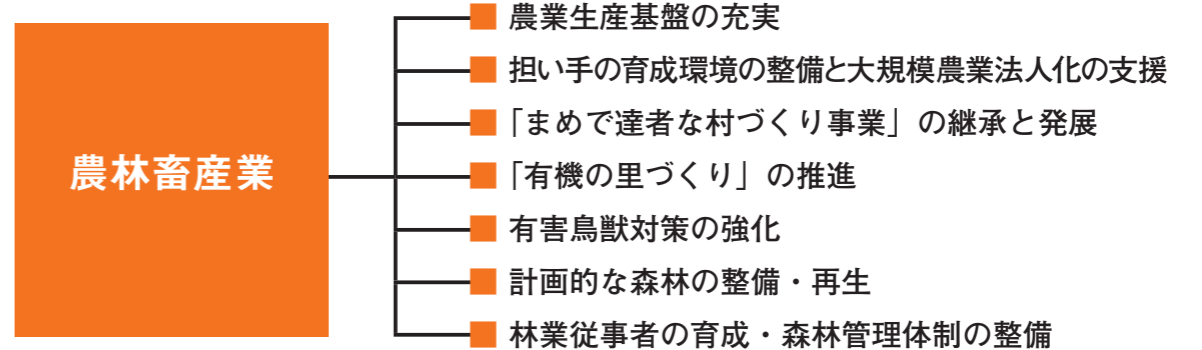
小規模農家・農地の集約化が難しいなどさまざまな課題を克服しながら、本村ならではの持続可能な農業を見出し、民間事業者の支援策を考慮しながら、今後の村の農林畜産業の展望を再構築する必要があります。

一方、森林は、木材の生産をはじめ、国土の保全や水源のかん養、生活環境の保全、さらには地球温暖化の防止など、多面的な機能を持ち、人々の生活と深く結びついています。

本村の人工林面積は3,400ha、人工林率は50%で、間伐など適切な保育が必要な状況にありますが、林業不振や原発事故による風評被害等により、林業生産活動は停滞し、適切な保育が行われていない森林が増加し、森林機能の低下が懸念されています。

このため、今後は、森林の除染とあわせ、森林の適正な整備・管理を促進していく必要があります。

#### 施策の体系



#### 主要施策

##### (1) 農業生産基盤の充実

- ①耕作放棄地の解消と拡大防止に向け、中山間地域等直接支払制度の活用や関係機関と連携した適切な指導の推進、有効な防止対策の検討・推進に努めます。
- ②生産効率の高い農地基盤を確保するため、関係機関との連携のもと、農地や農道、用排水施設等の整備・改修、水田の乾田化等を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・人・農地プランの作成支援	村	村	拡大	一般
・農林業等活性化基盤整備計画の検討	村	村	拡大	一般
・経営所得安定対策等推進事業	村	村	継続	一般
・中山間地域等直接支払交付金事業	村	集落	継続	一般/補助
・多面的機能支払交付金事業	村	実施者	継続	一般
・水田作付条件整備事業	村	実施者	継続	一般

(2) 担い手の育成環境の整備と大規模農業法人化の支援

- ①若者が意欲をもって就農できる環境を整えるため、通年雇用ができる農作物の生産指導を図り、急激な価格の下落に対応できる価格保障の充実を図ります。
- ②JAをはじめとする関係機関との連携を強化し、就農支援事業の展開を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・経営改善支援活動事業				
・認定農業者育成事業	村	村/生産者	継続	一般/補助
・新規就農者支援事業				
・農業法人化手続きの支援	村	村/生産者	拡大	一般/補助
・後継者結婚対策事業	村	村	継続	一般

(3) 「まめで達者な村づくり事業」の継承と発展

- ①大豆だけでなく、エゴマや赤トウガラシなど既に6次産業化を実現している付加価値のある農作物の作付け促進及び生産の支援を行うとともに、販売する体制の強化を図り、農業の6次産業化を一層促進します。
- ②「手・まめ・館」の活用はもとより、商店や観光・交流施設、福祉施設、学校給食センター等における村内産農産物の利用を促進するとともに、PR活動を推進し、地産地消を一層促進します。
- ③大豆生産においては、「まめで達者な村づくり事業」の意義の原点を振り返り、事業継承と発展による農業の6次産業化や地産地消の一層の促進を図るとともに生産者への周知を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・大豆生産奨励事業 (大豆種子配布/栽培支援/等級に応じた高価買取/エン麦栽培奨励/栽培者研修会)	村	村/生産者	継続	一般
・特産品販売促進事業	村	—	継続/拡大	一般/補助

(4) 「有機の里づくり」の推進

- ①「ゆうきの郷土」で製造される良質な堆肥「ゆうきくん」の活用を促進するとともに、安全・安心な特別栽培農産物の生産等を促進し、本村ならではの有機農業の確立と農産物のブランド化を図ります。
- ②連作障害や土壌障害を防止するため、土壌分析を実施し、豊かな土づくりを行える支援体制を整備し、体制の強化を図ります。
- ③畜産クラスターを見据えた検討会を開催するとともに、本村の農業形態において、どのような支援が必要なのか、もう一度原点から検討を行い、有機の里づくりに必要な堆肥の確保など適切な畜産の支援を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ゆうきの郷土運営				
・有機の里づくり事業の実施	村	村	継続/拡大	一般
・特別栽培認定者の育成	村	村/生産者	継続	一般
・学校給食米栽培の支援				

・優良肉用繁殖雌牛導入の貸付				
・アカバネ病予防接種手数料助成	村	生産者	継続	一般
・繁殖素牛導入補助				
・畜産ヘルパー助成金				
・畜産クラスター協議会の立ち上げの検討	村	検討	新規	一般

(5) 有害鳥獣対策の強化

イノシシやハクビシン、カラス等による農作物の被害を防止するため、関係機関・団体と連携し、電気柵設置支援などの有害鳥獣対策を強化します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・鳥獣被害防止施設等助成				
・有害鳥獣駆除活動費用助成	村	村	継続/拡大	一般/補助
・狩猟免許取得費用の助成				

(6) 計画的な森林の整備・再生

森林整備計画に基づき、森林の有する山地災害防止機能や水源かん養機能などの公益的機能を維持するために、間伐等の森林施業と路網整備を一体的に実施し、森林の再生を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ふくしま森林再生事業の実施	村	村	継続	一般/補助
・広葉樹林再生事業	村	村	新規	一般/補助
・森林環境譲与税を利用した取り組み (公共施設への木材利用) (森林所有者への意向調査) (森林に関する普及啓発) (民有林の間伐の促進と、路網整備の促進)	村	村	継続	補助
・森林病虫害(松くい虫)防除事業	村	村	継続	一般/補助
・森林環境保全と森林を守り育てる意識の啓発とその活動	村	村/その他	拡大	一般/補助

(7) 林業従事者の育成・森林管理体制の整備

林業関係団体と連携し、林業従事者の育成に努めるとともに、森林施業の共同化や受委託、林業の機械化を促進し、合理的・効率的な森林整備・管理が行える体制の整備を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・林業従事者の育成支援	村	村/その他	継続	—
・森林施業の共同化や林業の機械化促進				
・奥久慈地域林業成長産業化地域構想による、持続可能な林業経営の支援	村	村/郡内町村/その他	継続/拡大	一般
・郡内地域内エコシステム構築に向けた検討				



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況  
各種資料

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
認定農業者数 (法人含む)	人	35	35
新規就農者数	人	0	1
堆肥販売量	t	865	900
特別栽培認定件数	件	38	40
手まめ館生産者販売額	千円	45,000	54,000

村民・事業者が出来ること

- 村民・事業者は、お互いに協力し、美しい農村環境の保全に努めます。
- 事業者は、農地の利用集積、耕作放棄地発生防止に努めます。
- 村民・事業者は、将来の集落における地域農業のあり方について、話し合います。
- 村民は、地元農産物や加工品を積極的に消費します。
- 事業者は、農産物の安定した生産、特産品の品質確保、農産物のPRや販売の促進を進めます。

2 観光・交流

施策の目標

今ある観光資源の連携が強化され、活用方法を見直し、交流が生まれている村。

現状と課題

食や癒し、自然、地元の人々とのふれあいを求める傾向が強まるなど、観光ニーズはますます多様化してきており、観光地にはこうしたニーズに即した戦略的な取り組みが求められています。

本村には、心癒される農村環境・里山景観はもとより、標高700mに位置する広大な草原の「鹿角平観光牧場」、村民の参画・協働によって整備している「館山公園」、体験型の宿泊施設である「交流施設ほっとはうす・さめがわ」や「農村体験交流施設山王の里」、「村民保養施設さざり荘」、しだれ桜や紅葉の名所など、魅力ある観光・交流資源があります。

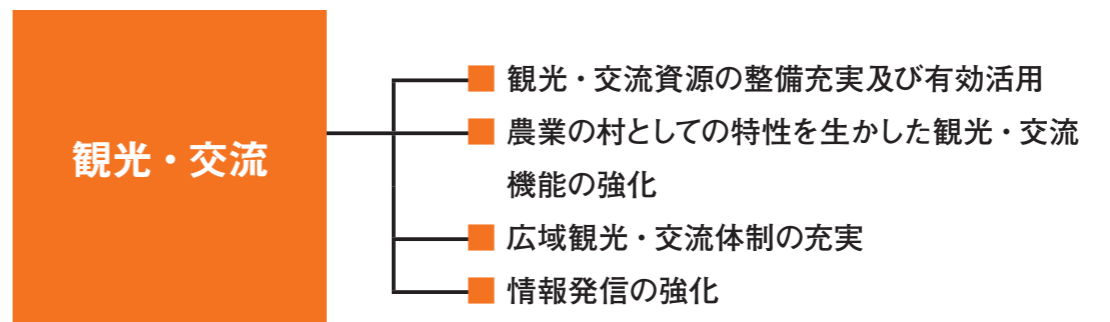
また、農業の村としての特性や地域の資源を生かし、グリーン・ツーリズム<sup>\*11</sup>が展開されているほか、都市部に居住する住民や大学との交流も行われています。

しかし、東日本大震災以降、風評被害等により観光客数は伸び悩む状況にあるとともに、村内における観光・交流資源も、観光客が繰り返し訪れたい魅力ある基盤としての整備・活用は十分と

はいえず、さらなる取り組みが求められています。

このため、今後は、観光客の増加による村内における経済の活性化はもとより、観光・交流から移住・定住への発展に向け、今ある資源の整備充実・有効活用に努めるとともに、都市・大学との交流等を一層促進するため、魅力の向上や機能の強化を進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 観光・交流資源の整備充実及び有効活用

- ①「鹿角平観光牧場」については、国道289号の改良に伴いアクセスルートが変更になることから、牧場全体の見直しを行う時期にきています。また、村の南部地域における買い物拠点として、管理棟内の売店や食堂の機能強化が求められているほか、自然災害の多発やコロナ禍の中、重要性が再認識されているアウトドア体験施設として県南地方を代表する施設にするため、総合的な整備計画を策定し、施設のブラッシュアップを図ります。
- ②「館山公園」について、村の中心地域におけるシンボルとなる公園としてイメージアップ事業を実施します。また、年間を通しての管理に関する作業体系の整備や組織の育成を図るとともに、利用者の視点に立って適正な管理に努めます。
- ③湯の田温泉の周辺を館山公園と手・まめ・館から足を延ばしてもらえるように整備することで、集客を図り、地域の活性化につなげます。
- ④村内の施設や資源を活用した多種多彩なイベントを開催し、関係団体等との連携のもと、内容充実を図り、関係人口の増加に努めます。また、開催の方法については、外部委託を推進するなど、持続可能な実施を模索します。
- ⑤村内における宿泊施設を再点検し、今後のニーズを見込んだ機能強化を図ります。
- ⑥村内の景勝地や施設の周遊をさらに促すため、既存の観光案内板等を点検し、観光案内素材の充実を図ります。

\*11 農山漁村地域において、その地方の自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

⑦その他の観光・交流資源についても、利用者のニーズ等に応じ、適正な維持管理・改修等を行い、資源の有効活用に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・景勝地等管理事業 (江竜田の滝簡易トイレ撤去、手すり設置等)	村	村	継続／拡大	一般
・観光案内板整備事業	村	村	継続	一般
・若者向けイベントの創出	村	村	継続	一般／補助
・鹿角平観光牧場施設管理事業	村	村	継続	一般
・鹿角平観光牧場総合整備計画の策定及び実施 ／星空等PR事業	村	村	拡大	一般／補助
・高原の鮫川うまいもの祭り	村	村／商工会 ／JA	検討	一般
・湯の田周辺環境整備事業	村	村	継続	補助

## (2) 農業の村としての特性を生かした観光・交流機能の強化

- ①体験活動における指導者の育成や確保をはじめ、農家民宿の新規開業者の掘り起こしや既開業者の運営支援、受入体制の充実を図り、交流人口の増加に努めます。
- ②都市や大学等との交流の充実を図ります。
- ③集落や農家民宿と連携した交流機能を強化し、多様な交流手法を模索します。
- ④「手・まめ・館」の食堂や「ほっとはうす・さめがわ」における郷土料理の提供や、農家レストランの取り組みを検討するなど、「食」をテーマとした観光・交流資源の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・農村体験交流施設「山王の里」運営事業の検討	村	村	縮小	一般
・大学等連携事業の推進	村	村	継続	一般／補助
・グリーン・ツーリズム事業の推進／農家民宿 運営協議会の支援	村	村	継続	一般
・ふる里振興協議会の運営支援	村	村／協議会	継続	一般
・東京鮫川会の活動支援	村	村／会	継続	一般

## (3) 広域観光・交流体制の充実

複数の市町村や民間事業者と連携し、広域観光ルートづくりや集客活動の展開、民間事業者とタイアップしたツアーの誘致などを進めます。また、自転車を活用した周遊を推進するため、道路管理者や施設管理者と連携した環境の整備・充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・広域連携観光推進事業 (新白河広域観光連盟／ふくしま県南観光推進 協議会／東白川地方自転車活用推進協議会／F IT構想推進協議会)	村	村	継続	一般

## (4) 情報発信の強化

- ①ホームページをはじめとした、ポスターやパンフレットなどの紙媒体、マスコミ等、多様なメディアを活用するとともに、メール配信やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用、ホームページのこまめな更新等を行い、本村の観光・交流に関する情報発信の強化を図ります。
- ②新たな情報発信対策として、さめがわファンクラブを開設し、鮫川村に関心を持ってもらえる機会を増やしていきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・フォトコンテストの開催 ・さめがわファンクラブの運営	村	村	継続／拡大	一般

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
鹿角平観光牧場利用者数	人	18,000	30,000
農家民宿利用者数	人	60	100
さめがわファンクラブ会員数	人	0	500

### 村民・事業者が出来ること

- 村民は、観光振興についての関心と理解を深め、体験・交流を受入れ、観光情報の発信など村の観光振興策に協力します。
- 村民は、おもてなしの心を持ち、積極的に観光客と交流します。
- 事業者は、良質なサービスの提供に努め、魅力ある観光地を形成します。
- 事業者は、特産品の品質確保に努め、PRや販売の促進を進めます。
- 村民・事業者は、都市との交流に積極的に参加し、心がつながり合える交流を目指します。

## 3 商工業

### 施策の目標

消費者の村外流出や後継者不足等、商工業についてはさまざまな課題があるものの、商工会と連携して各種支援策を講じているため、地域経済の活性化が図れている村。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩めるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 現状と課題

商業は、豊かな消費生活の提供をはじめ、にぎわいや活気の創出など、地域活性化に大きな役割を担っていますが、地方における商業を取り巻く環境は厳しさを増しており、既存の商店街の空洞化等が進んでいます。

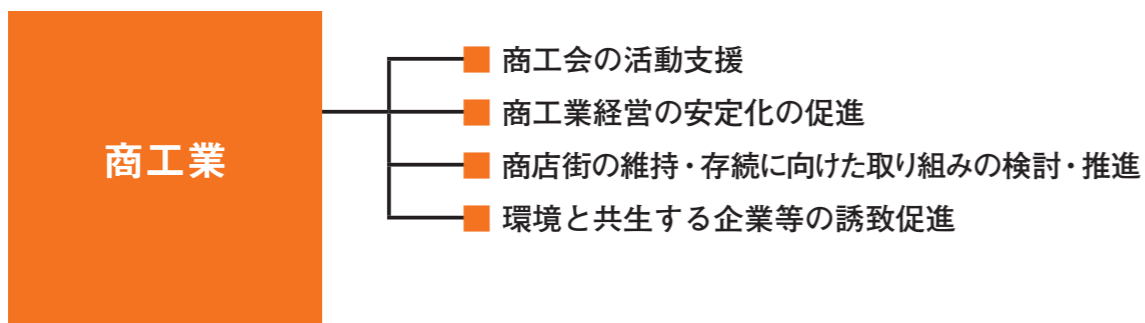
本村の商業活動は、少子高齢化・人口減少の進行や近隣市町村における大規模店舗の進出、後継者不足等により、商店の維持・存続が困難な状況になりつつあります。

平成25年度には買い物弱者支援と地域コミュニティ創出を目的に、商工会を事業主体とした村民（みんな）の店「すまいる」がオープンしましたが、この店舗では、取り扱う商品を地元商店から仕入れることにより、既存商店との共存を図りつつ、地域経済の活性化も見据えて事業に取り組んでおり、宅配・移動販売事業も行われています。今後は、さらなる少子高齢化・人口減少の進行も考慮しながら、「すまいる」における販売活動の充実・強化をはじめ、商業の維持・存続に向けた施策を模索しながら、地域に密着した支援に取り組んでいく必要があります。

また、工業については、地域経済の活性化はもとより、雇用の場の確保に直結する重要な産業ですが、商業と同様に、工業を取り巻く環境も厳しさを増しています。

人口減少やコロナ禍で地方経済低迷が加速する中で、本村の工業も停滞傾向にあり、今後も商工会と連携し、既存企業の経営安定化を支援していくとともに、新規企業等の進出を促していく施策を講じる必要があります。

## 施策の体系



## 主要施策

### (1) 商工会の活動支援

商工業振興の中心的な役割を担う商工会の運営を支援し、商品開発や後継者の育成をはじめとした、商工業の活性化に向けた各種活動の活発化を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・商工会における諸課題解決のための費用助成(商工会指導職員設置事業/経営改善指導普及事業/事務局長設置費助成事業/青年部・女性部活動推進事業/商工会管理費助成事業)	村	村	継続	一般

### (2) 商工業経営の安定化の促進

- ①商工業経営の安定化、経営基盤の強化に向け、各種融資制度の周知と活用促進に努めます。
- ②中小企業・小規模企業振興基本条例に基づき、中小企業等の振興に関する施策を計画的に推進し、地域経済の活性化と村民生活の向上につなげていきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・商工業経営合理化支援事業	村	村	検討	一般

### (3) 商店街の維持・存続に向けた取り組みの検討・推進

- ①商店街を維持していくためには、各店舗における高齢者に喜ばれる品揃えなど高齢化を踏まえた商業活動の促進、村中心部における人が集まるルートづくり・仕組みづくりなど、村民や事業者、商工会、関係機関・団体等と一体となって手法等を検討し、その推進に努めます。
- ②村民の店「すまいる」については、村民のニーズを踏まえながら、買い物弱者支援と地域コミュニティ創出の拠点としての機能の強化を図るため、商工会を支援していきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・商工会が実施する商店等の維持活動に対する助成(商工会設置街路灯維持費補助事業/買い物弱者支援施設運営支援/特産品販売振興事業)	村	村	継続	一般

### (4) 環境と共生する企業等の誘致促進

雇用の場の確保と村内における経済の活性化に向け、本村の優れた農村環境・里山景観と共生する企業や、研究機関等の立地促進に向けた取り組みを進めます。また、立地場所の整備に向けた検討を始めます。

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
「すまいる」の宅配利用者数	戸	92	130



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

村民・事業者が出来ること

- 村民・事業者は、既存の地域資源を見直しと新しい地域資源の発掘に努めます。
- 村民は、起業者への理解と協力を進めます。
- 村民は、村内の商店を利用します。
- 事業者は、誘客や販売促進活動等を実施し、魅力創出に努めます。

4 雇用対策

施策の目標

元気な事業者が多く、村民が生きがいを持って笑顔で働くことができる村。

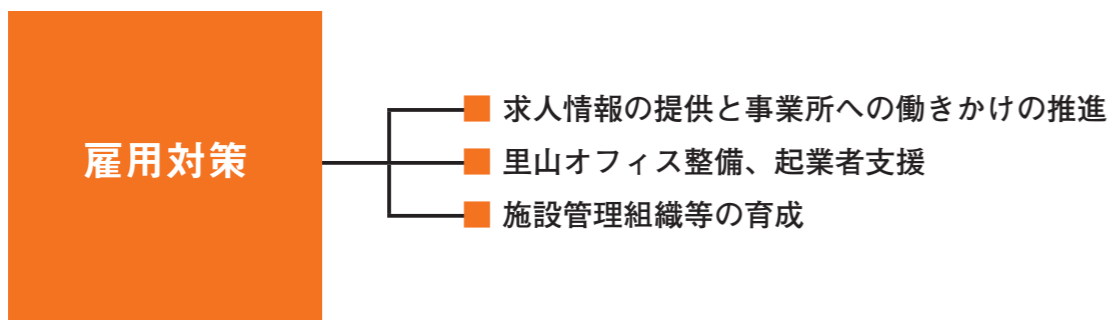
現状と課題

地方の産業・経済が依然として厳しい状況にある中、少子高齢化・人口減少の進行に伴う担い手不足とも相まって、地方における雇用環境は非常に厳しい状況にあります。本村においても、事業所が少なく、今後さらに減少していく傾向が想定される中で、雇用機会がますます不足してしまう恐れがあります。

このため、ハローワーク等の関係機関との連携や、広域的な連携を一層進め、求人情報の提供等を積極的に進めていく必要があります。

また、雇用機会の確保に向け、公共施設等の維持管理を行う組織等の育成を進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 求人情報の提供と事業所への働きかけの推進

- ①若者の地元就職やU・Iターンの促進に向け、県やハローワーク等の関係機関、近隣市町村との連携し、ホームページ等を活用した求人情報の提供を積極的に行うとともに、村内事業所や近隣市町村の事業所への雇用に関する働きかけを行います。
- ②村内の事業所に働く勤労者の福利厚生等の拡充を図り、村内雇用者の働きやすい雇用環境を図ります。村外の事業所に働く勤労者に向けては、新たに通勤支援等の導入を検討し、村外への流出防止につなげます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ハローワーク求人情報提供等	村	村	継続	一般
・村勤労者互助会活動支援事業	村	村	継続	一般

(2) 里山オフィスの整備、起業者支援

コロナ禍で進んだテレワークなどの働き方の変化に対応して、テレワークやリモート会議などを行うことができる施設やサテライトオフィス（里山オフィス）を整備することにより、移住者や起業者の増加、都市部においてオフィスを必要としない企業の進出を狙い、地域経済の活性化を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・里山オフィス整備	村	村/その他	新規	一般/補助
・起業者支援事業	村	村	新規	一般

(3) 施設管理組織等の育成

雇用機会の確保に向け、村で管理する施設や道路等の維持管理を行う組織等の組織化を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・振興公社、環境公社の立ち上げの検討	村	検討	拡大	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
勤労者互助会会員数	人	60	70
新規起業者	人	0	3

村民・事業者が出来ること

事業者は、情報提供と計画的な雇用の継続、労働環境の向上を進めます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 5 消費者対策

### 施策の目標

消費者教育・啓発や情報提供、相談の充実している村。

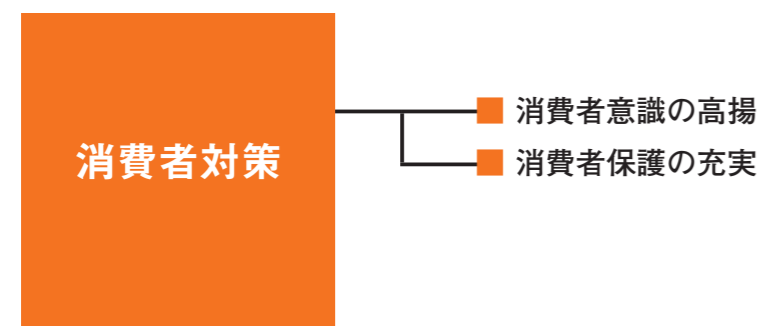
### 現状と課題

わが国では、平成21年9月に消費者庁が発足し、消費者の視点から様々な取り組みを進めていますが、近年においても、悪質商法や詐欺、食品偽装等による消費者被害が後を絶たず、自治体においても、これらへの対応が求められる状況にあります。

本村では、県消費生活センター等の関係機関との連携のもと、チラシの配布等による消費者への啓発や情報提供、消費生活相談、計量器検査等を行い、消費者対策を推進しています。

しかし、本村においても消費者被害が発生している状況にあることから、消費者自らがトラブルの防止や消費生活の質的向上を図れるよう、消費者教育・啓発や情報提供、相談の充実を進めていく必要があります。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 消費者意識の高揚

広報紙やチラシの活用等を通じ、消費者教育・啓発、消費生活情報の提供を行い、消費者意識の高揚と知識の向上を促します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・消費者対策啓発チラシの配布	村	村	継続	一般

#### (2) 消費者保護の充実

消費生活相談体制として、しらかわ定住自立圏構想に基づくしらかわ地域消費生活センターの運営を行うとともに、トラブルの未然防止と適切な対応のため、県消費生活センター等との連携強化に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・しらかわ地域消費生活センターの運営	定住自立圏	白河市	継続	補助

#### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
消費生活相談件数 (村及びしらかわ地域消費生活センター・鮫川村分)	件	0	3
消費生活相談件数 (県消費生活センター)	件	4	3

#### 村民・事業者が出来ること

村民は、自ら消費者問題に対する新たな知識や情報を取り入れます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいな鮫川  
健康で安心な鮫川  
活力と交流に満ちた鮫川  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
ともに歩む鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 第4章 人と文化が輝くふるさと鮫川

### 1 生涯学習

#### 施策の目標

生涯にわたって楽しく学び、生きがいに満ちた生涯学習の推進を図るため、日常的に学習できる体制を整備し、学習機会の提供の多様化を図ります。

#### 現状と課題

人々が生涯にわたってあらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる生涯学習社会の実現に向け、全国的に幅広い取り組みが行われています。

本村では、公民館を拠点として、幼児から高齢者までを対象とした様々な講座・教室を開催しているほか、学習情報の提供や広報・啓発活動の推進、社会教育団体の育成に努めています。

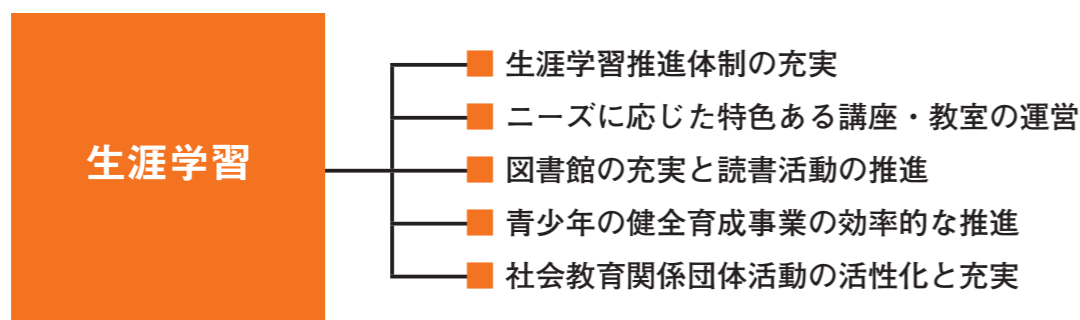
既存の事業（講座・教室）については、内容を充実させるなど質の向上を図りながら取り組んでいますが、参加者が固定化していることから、住民の意見や住民主体の村づくりを踏まえながら、次につながり、新規の参加者が増えるような内容に変更していく必要があります。

年々新たに取り組んでいる事業に関しては、男性の参加が少ないことから、参加しやすい内容が求められているとともに、若年層の講座を新たに開設していきます。

読書活動については、図書館の利用者数及び貸出冊数はここ数年で減少傾向にあります。読書教室への参加者は伸び悩みの傾向にあるため、より一層の参加呼びかけが必要となっています。

また、本村では、平成23年に子ども読書活動推進計画を策定し、様々な取り組みを進めてきましたが、今後とも、読書を通して言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を養うため、子どもの読書活動の活発化に向けた取り組みを進めていく必要があります。

#### 施策の体系



#### 主要施策

##### (1) 生涯学習推進体制の充実

子どもから高齢者までが、興味と関心をもって積極的に参加できる学習や体験の機会を提供するとともに、学習施設の整備に努めるなど、生涯学習体制の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・成人向け学習機会の提供と実施 ・小中学生を対象とした体験活動の推進 ・歴史民俗資料館の有効活用 ・図書館の整備	村	—	継続/検討事業	一般

##### (2) ニーズに応じた特色ある講座・教室の運営

子育てや家庭生活、体験活動などニーズに応じた特色ある講座・教室の運営を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・生涯学習関連事業の推進 ・家庭教育学級・子育て支援の推進	村	—	継続	一般

##### (3) 図書館の充実と読書活動の推進

充実した蔵書と読み聞かせなどの読書活動を充実させ、村民に親しまれる図書館運営に取り組みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ニーズに即した図書の充実 ・親子読書教室、読み聞かせ教室の開催 ・移動図書の実施 ・学校図書館とのネットワークの強化	村	—	継続	一般

##### (4) 青少年の健全育成事業の効果的な推進

青少年の交流体験活動やボランティア活動を充実させるなど、青少年健全育成事業に積極的に取り組みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・青少年健全育成団体との連携 ・青少年非行防止活動の充実 ・青少年の体験交流活動やボランティア活動の充実	村	—	継続	一般



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
ふるさと鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ともしび  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

(5) 社会教育関係団体活動の活性化と充実

父母と教師の会（PTA）や子育て支援団体などの社会教育関係団体活動の活性化に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの研修活動の支援</li> <li>地域での子育て支援体制の充実</li> <li>子ども理解と実践的活動</li> </ul>	村	—	継続	一般

事業業績評価指標（KPI）

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
公民館の利用件数	件	403	500
公民館の利用者数	人	6,598	7,000
公民館講座・教室の参加者数	人	2,531	3,000
公民館講座・教室の男性参加者の割合	%	28.0	40.0
図書館の利用者数	人	2,846	4,000
図書の貸出冊数（1人当たりの利用冊数）	冊	3,202 (0.91)	5,000 (2.0)
読書教室の参加者数	人	153	300

村民・事業者が出来ること

- 村民は、講座や講演会等へ参加し、習得した知識の地域への還元を進めます。
- 村民は、図書館や歴史民俗資料館を利用し、知識の習得に努めます。

2 学校教育

施策の目標

「人と文化が輝く鮫川村」を目指し、次世代を担う鮫川子どもたちが、幼・小・中の一貫教育のもと、ふるさとキャリア教育を推進し、ふるさとを愛し、常に夢と希望を持ち、その実現に向かって学び続ける子どもを育成します。

現状と課題

平成30年4月に鮫川小学校と青生野小学校が統合し、新たな鮫川小学校として生まれ変わりました。今では「鮫川小学校」と「鮫川中学校」の2校が村の学校教育の中心的役割を担っています。このことから、小学校と中学校との関係がより深まり、更に幼保連携型認定こども園「さめがわこどもセンター」も加わり小中学校連携から幼小中接続へと村内の学校教育がより一層充実してきました。

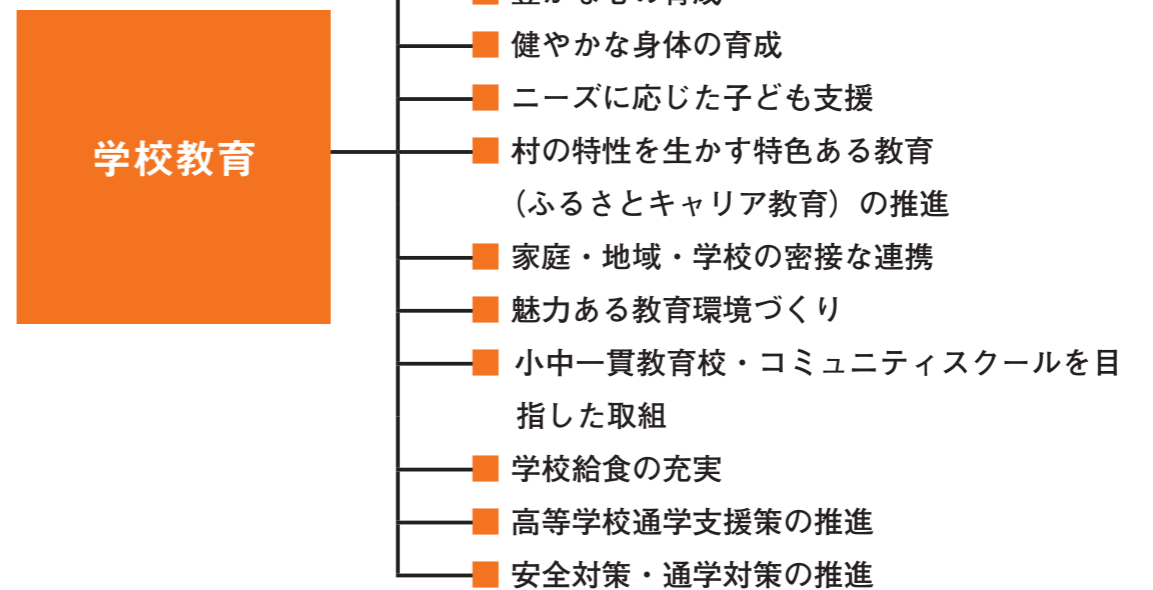
幼小中の教員が話し合い、「連携教育プラン」を策定し、教員が連携協力し、学習、生活、運動面などでの系統性を踏まえた指導を行い、村の学校教育活動の向上に取り組んでいます。

これらの取り組みを礎に、将来的に小中一貫教育、そして義務教育学校に進展できる環境となっており、施設の一体化を含めて更により良い教育環境の充実を目指しています。

一方、小中学校の全国学力学習状況調査と県学力調査の結果を分析してみますと学力向上のための指導方法の工夫と改善に努める必要があり、徹底した基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるような手立て、更には多様な問題に対応できる課題解決能力の更なる育成が必要です。

また、これまで小中学校において、ふるさと教育に重点を置き、活発に活動を行ってまいりましたが、今後は、本村ならではの教育資源に直接触れ合いながら学び、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようという心を育むとともに、その学びをとおして基礎的・汎用的能力<sup>\*12</sup>を培い、「たくましくそして自分らしく生きる力」の育成に向けたふるさとキャリア教育の一層の充実、家庭や地域と一体となった開かれた学校づくり、安全対策の強化、給食体制の充実など、総合的な取り組みを進めていきます。

施策の体系



\*12 「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」

## 主要施策

### (1) 確かな学力と学習意欲の向上・育成

- ①学ぶ喜びや楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組み、望ましい学習習慣を身につけるとともに、確かな学力の向上に努めます。
- ②学校のICT環境を整備し、ICTを活用した学習活動を充実させ、子どもたちを誰一人取り残すことなく最大限に「学びを保障」します。
- ③ICTを活用した家庭学習の充実を図り、家庭学習習慣の定着を目指します。
- ④学力向上推進事業を推進し、教職員の資質や指導力の向上に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・小中一貫教育に向けた取組	村	—	2020～/新規	一般
・学力向上支援事業	村	—	継続	一般
・各種検定受験にかかる検定料助成事業	村	—	継続	地方債
・英語力の向上のための英語体験研修の推進事業	村	—	継続	一般
・学習支援員の配置	村	—	継続	一般
・ICT環境整備事業	村	—	継続	一般
・ICTを活用した家庭学習の推進	村	—	継続	一般
・外国青年招致事業（JETプログラム）	村	—	継続	一般

### (2) 豊かな心の育成

- ①道徳教育や読書活動など学校の教育活動全体で自分や他者を大切に作る心や自己肯定感を育み、豊かな心の育成に努めます。
- ②いじめ、不登校などの未然防止・早期対応に取り組みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・道徳教育・道徳授業の充実	村	—	継続	一般
・人権教育の推進				
・日常の生活指導の充実				

### (3) 健やかな身体の育成

望ましい生活習慣や食習慣を身につけるとともに、体育の日常化に取り組み、健やかな身体の育成に努めます。また感染症対策に万全を期すと同時に「学校の新しい生活様式」の定着に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・早寝・早起き・しっかり朝ごはんの生活リズムを重視した指導	村	村/家庭/小中	継続/拡大	一般
・食育の充実		学校/こどもセンター		

・メディアコントロール啓発事業	村	村/家庭/小中	継続/拡大	一般
・フッ化物洗口事業		学校/こどもセンター		
・体力向上活動支援員の配置				

### (4) ニーズに応じた子ども支援

特別に支援を必要とする子どもたち一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援及び環境整備を行い、自立や社会参加に必要な力を育みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・特別支援教育に関する研修の充実	村	村/家庭/小中 学校/こどもセンター	継続/拡大	一般
・個別の支援計画等の作成と個に応じた指導・支援				
・教育相談体制の確立				
・学習支援員の配置と活用				

### (5) 村の特性を生かす特色ある教育（ふるさとキャリア教育）の推進

ふるさと鮫川を愛し、誇りに思う心を育むとともに、自分の将来の夢に向かってたゆまぬ努力を続ける心を育みます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・「ふるさとキャリア教育」全体教育の作成	村	—	継続	一般
・郷土愛を育む学習活動の充実				
・職場体験学習の充実				
・キャリアパスポートの有効活用				

### (6) 家庭・地域・学校の密接な連携

- ①地域社会全体（地域学校協働連携本部の設置）で子どもたちを育み、子どもたちが社会的、精神的に成長できるよう支援します。
- ②小中学校に「学校運営協議会」を設置し、コミュニティスクールを目指します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・地域ボランティア、外部講師の活用	村	—	継続	一般
・地域学校協働連携本部の運営	村	—	継続	一般
・PTA活動への支援	村	—	継続	一般
・地域とともに取り組む子どもの健全育成				
・教育関係情報の発信				

### (7) 魅力ある教育環境づくり

子どもたちや教職員が、安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境づくりに努めます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・施設設備の安全点検の実施	村	—	継続	一般
・学校施設の計画的な修繕・改修などの管理事業	村	—	—	—
・多忙化解消に向けた働き方改革の推進	—	—	継続	—
・子供と向き合う時間の確保	—	—	継続	—

## (8) 小中一貫教育校・コミュニティスクールを目指した取組

幼少中の連携の取り組みを礎に、小中一貫教育、そして義務教育学校の設置を目指します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・小中一貫教育校準備委員会の設置	村	—	新規	一般
・小中一貫教育校設置計画の立案	—	—	新規	—
・学校運営協議会の設置準備	—	—	新規	—

## (9) 学校給食の充実

郷土色豊かで栄養バランスのとれた安全・安心な給食の提供と、子どもたちの望ましい食習慣の形成に向け、学校給食センターの適正な管理・運営を図るとともに、関連部門が一体となって、食育及び地産地消の取り組みを進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・学校給食センター運営及び安全・安心な給食の提供	村	—	継続	一般
・食育（地産地消）の推進	—	—	—	—

## (10) 高等学校通学支援策の推進

県立修明高等学校鮫川校の廃校に伴い、村外に通学する高校生徒の支援については、村の後継者育成に対する支援とともに考えていかなければなりません。今後、村に残る若者の増加に向けた新たな取り組みについて検討し、その推進に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・修明高校鮫川校振興会補助金	村	—	～2021	一般
・修明高校鮫川校通学支援金	—	—	—	—
・高校生通学支援事業	村	—	継続	地方債

## (11) 安全対策・通学対策の推進

①災害時に備えた学校内における危機管理体制の充実や防災訓練の実施、登下校時の安全対策の強化など、総合的な子どもの安全対策を推進します。

②スクールバスが安全に運行できるよう、路線の確保に努めるとともに、車両の維持管理及び更新を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・スクールバス運営事業	村	—	継続	一般
・スクールバス購入費	村	—	新規	地方債

## 事業業績評価指標（KPI）

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
生徒の長期欠席率（中学校）	%	2.5	0.0
標準学力検査 (全国平均を50として)	人	50	51
いじめの解消率	%	100	100
体力運動能力		全国平均	全国平均
食材の地元調達率	%	81.7	85.0

### 村民・事業者が出来ること

- 村民は、子どもの登下校時にあいさつを行い、子どもたちを地域全体で見守ります。
- 村民は、学校の抱える課題に関心を持ち、地域が一体となって子どもたちの支援に取り組みます。
- 村民・事業者は、積極的に学校行事に参加、協力します。

## 3 文化芸術・文化財

### 施策の目標

郷土を深く愛し、地域に根ざした活動を通して新しい文化の創造を推進するとともに、村の文化継承と文化団体活動の支援・育成をしながら、村の文化や文化財を守っていきける体制を作っていきます。

### 現状と課題

文化芸術は、人々に精神的な豊かさや感動、生きる勇気をもたらすものであり、住民生活や地域活性化に欠かせない要素ですが、文化庁の調べによれば、直近1年間で文化芸術に関連する学



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と数値  
人口の目標と数値  
施策の方針  
重点構想  
ふるごとく鮫川  
ふるごとく鮫川  
ふるごとく鮫川  
鮫川  
人と文化が輝くふるごとく鮫川  
生活基盤が整ったふるごとく鮫川  
ふるごとく鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

習などを行った人の割合は13.6%と決して高いとは言えません。

本村では、12の団体が加盟する文化団体連絡協議会が中心となって、様々な文化芸術活動を活発に展開しているほか、文化祭や芸能発表会を開催しています。

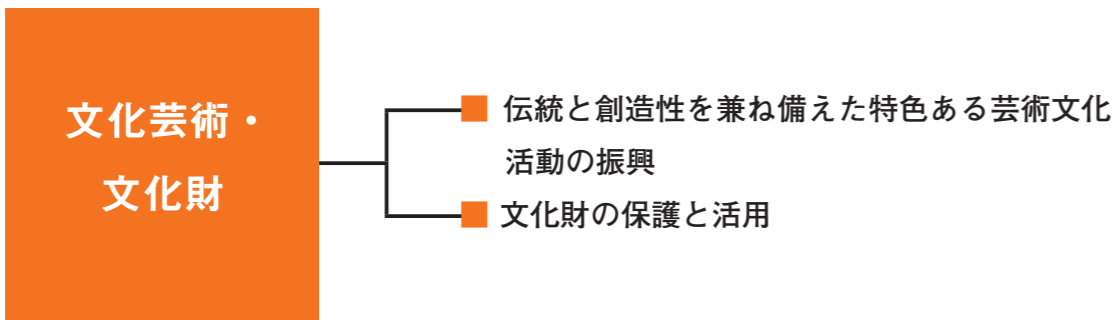
しかし、村民全体の高齢化が進む中、文化団体連絡協議会加入者の高齢化も進んでいます。また、青年・壮年世代は、日々の忙しさに追われ、文化芸術活動に目が向かない傾向にあります。このため、今後は、村内に文化芸術団体をさらに積極的に呼び込むことが必要であり、特に村内の文化芸術団体の育成を手助けできるような事業展開が求められます。

一方、文化財は、長い歴史の中で生まれ、守り伝えられてきた貴重な財産です。東日本大震災により、被災地では多くの重要な文化財が失われてしまいましたが、被災後の現地では、文化財を含めた歴史そのものを精神的なよりどころとする場面も見られ、また復興の象徴として文化財が取り上げられる事例も出てくるなど、歴史や文化財が再注目される傾向にあります。

本村には、「木造薬師如来立像」や「渡瀬の獅子舞」をはじめとした、いくつかの文化財が存在しています。

今後は文化財を活用した事業を企画するなど、高まりつつある文化財への関心を継続していくことができるような施策の展開が求められます。

施策の体系



主要施策

(1) 伝統と創造性を兼ね備えた特色ある芸術文化活動の振興

- ①村の特色を生かした芸術文化事業や文化祭などの開催を支援します。
- ②質の高い文化芸術に触れる機会を充実し、地域の文化力の向上と村民が主体となった芸術文化活動の促進を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・地域の文化、伝統行事、文化活動の支援と振興 ・芸術文化団体活動の活性化と充実 ・教育・文化講演会などの実施及び情報提供 ・郷土文化の発掘と継承 ・自主的文化団体への活動支援	村	村/文化団体	継続	一般

(2) 文化財の保護と活用

村の貴重な歴史資源や伝統文化を後世に継承する取り組みを進めながら、情報発信や公開などにより、郷土の歴史や文化の理解促進を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・郷土史の理解と文化財の愛護 ・文化財の保存、修復、伝承と活用 ・歴史民俗資料館の整備	村	—	継続	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
文化団体連絡協議会加入団体数	団体	12	15
文化団体連絡協議会加入者数	人	110	135
音楽発表会、芸能発表会等への平均入場者数	人	110	150
文化芸術環境に関する村民の満足度	%	* 17.4	50.0
指定文化財件数	件	12	14
県指定文化財修復事業等、文化財関連企画への参加者数	人	20	40

\*村民の満足度の実績は、令和2年12月に実施した村民アンケート調査の結果による（満足度は、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計比率）

村民・事業者が出来ること

- 村民は、芸術文化活動への参加、鑑賞に努めます。
- 村民は、地域の文化財への関心を深め、文化財保護活動へ参加します。
- 村民は、地域の伝統行事や伝統文化を地域の財産として、地元学に取り組みます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩むふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 4 スポーツ

### 施策の目標

村民が健康で生涯にわたってスポーツが楽しめる体制や施設を整備し、生涯スポーツやニュースポーツの普及を推進し、スポーツを通じた健康づくり・生きがいづくり・仲間づくり等新しいコミュニティの創出を図ります。(スポーツ分野と保健・医療・福祉分野との連携を図ります。)

### 現状と課題

全国で過去1年間に週1回以上スポーツ活動を行った人の年齢別の内訳をみると、中学生が最も多く、それ以降は年齢が上がるにつれて減少していく傾向がみられます。この傾向は、本村でも同様であり、一般村民アンケートによると、週1回以上スポーツ活動をしている人の割合は19.2%とかなり低くなっています。

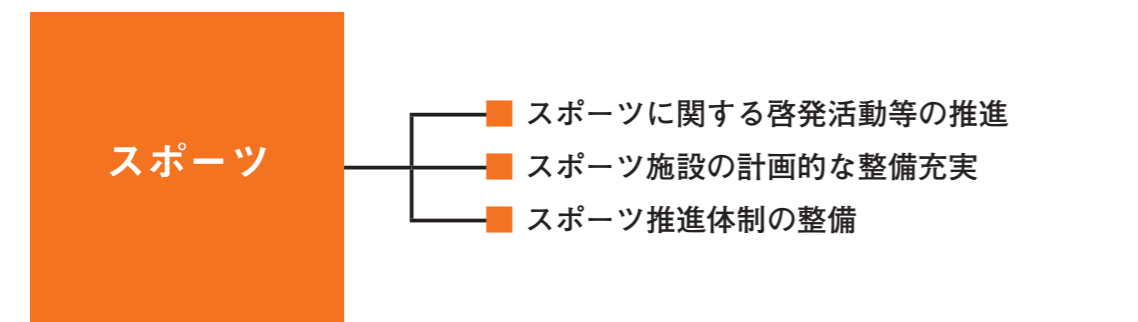
しかし、村内に総合型地域スポーツクラブ「さめがわスポーツクラブ」が発足したことにより、グラウンドゴルフや卓球などの高齢者でも楽しめるスポーツが村内にも普及し、参加者数も増え始めています。

これらのことを踏まえると、村民のスポーツに対する意欲が低いとは必ずしも言えず、スポーツ活動をする場を探している人は潜在的には少なくないことが予想されます。これらのことから、スポーツ活動の場を村民に提供する場面が少ない、あるいはあってもその周知が徹底されていないという課題があげられます。

このため、今後は、「さめがわスポーツクラブ」の活動を支援していくとともに、村民全体のスポーツ活動への意識を高めていくことが必要です。

また、スポーツ団体が複数あるため、効率的かつ効果的に事業が展開できるよう、その一元化を目指していく必要があります。

### 施策の体系



### (1) スポーツに関する啓発活動の推進

村民がスポーツへの関心を高め、様々なスポーツに自主的に取り組むことができるよう、スポーツに関する広報・啓発活動や情報提供の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・誰もがスポーツを楽しむことができる環境づくり ・ニュースポーツの推進 ・各種講座の開催	村	—	継続	一般

### (2) スポーツ施設の計画的な整備充実

安全性の向上、利用促進に向け、村民のニーズを踏まえながら、各スポーツ施設・設備の整備充実を計画的に推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・青少年広場大規模改修 ・社会体育施設の維持管理	村	—	継続	一般

### (3) スポーツ推進体制の整備

本村のスポーツ振興を総合的かつ効果的に進めるため、「さめがわスポーツクラブ」を中心にスポーツ事業の一元化を図り、多様なスポーツ活動の普及を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・地域指導者の計画的な育成と有効活用の促進 ・スポーツ関係団体の育成、支援 ・村体育協会の運営 ・スポーツクラブ、スポーツ推進委員との連携 ・部活動の指導体制の検討	村	—	継続	一般

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
スポーツ施設の利用件数	件	1,784	1,800
スポーツ施設の利用者数	人	19,784	20,000
「さめがわスポーツクラブ」の参加者数(延べ)	人	5,670	5,800
スポーツ少年団の団員数	人	48	48
週1回以上スポーツをしている村民の割合	%	19.2	20.0

※村民の割合の実績は、令和元年12月に実施した村民アンケート調査の結果による。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともにつくるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 村民・事業者が出来ること

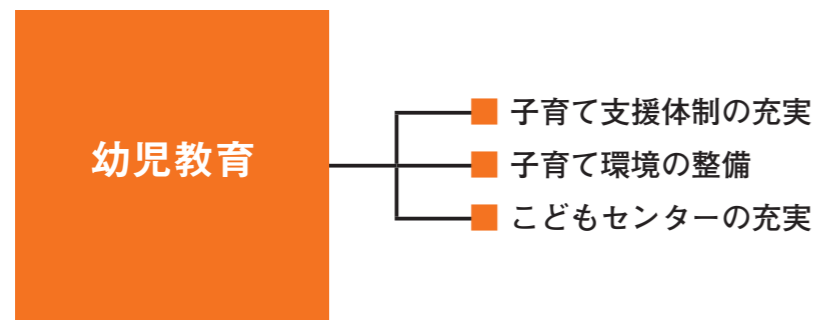
- 村民は、スポーツ活動への参加・運営とスポーツ施設の活用を図ります。
- 村民は、自然体験活動を有効活用し、その魅力を広げます。
- 事業者は、従業員のスポーツへの関心を啓発します。

## 5 幼児教育

### 施策の目標

子育てへの負担感や不安を軽減し、安心して子育てができるよう支援体制の充実や子育て環境の整備に努めます。また、こどもセンターにおける幼児教育の充実に努めます。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 子育て支援体制の充実

子育てに関する相談・指導、学習・交流の場の提供等を積極的に行います。

#### (2) 子育て環境の整備

放課後子ども教室など、子育て環境の整備に努めます。

### (3) こどもセンターの充実

こどもセンターにおける保育・教育活動の充実に努めるとともに、幼小中の連携を一層深めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・幼稚園教育・子育て相談の充実	村	—	継続	一般

### 事業業績評価指標 (KPI)

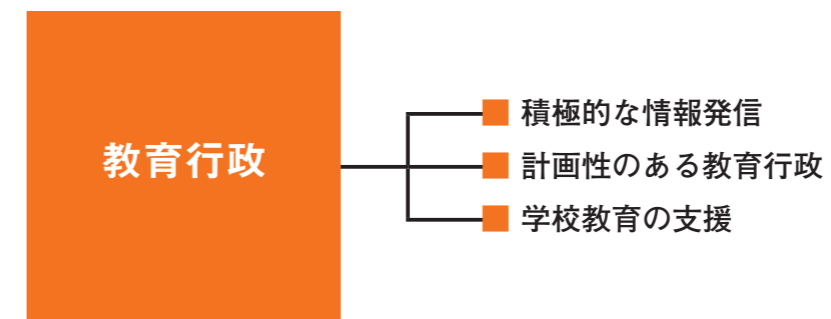
指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
幼児教育に対する保護者の満足度 (保育体制・連絡などについての保護者の満足度)	%	96.0	98.0

## 6 教育行政

### 施策の目標

村民の要望・要請に的確に対応する体制を整えるとともに、新しい展望に立つ教育行政を計画的に推進します。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 積極的な情報発信

“今”の教育行政が見えるよう、積極的な情報発信に努めます。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の基盤と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともしびふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

(2) 計画性のある教育行政

将来を見通した計画性のある教育行政を推進します。

(3) 学校教育の支援

学校教育を支援する体制を整えます。

(4) 家庭教育の支援

家庭教育を支援する体制を整えます。

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
教育ポータルサイトの充実(更新)	回	1回/月	1回/週

第5章 生活基盤が整ったふるさと鮫川

1 土地利用

施策の目標

将来を見据えた村の取り組みが実施され、不満のない計画を構想し、村民に周知されている村。

現状と課題

土地は、限られた貴重な資源であり、豊かな自然やかけがえのない郷土を守りつつ、調和のとれた計画的な土地利用を進めていくことが求められます。

本村は、阿武隈山系に広がる総面積 131.34km<sup>2</sup> の広大な村域をもつ村で、山林・原野・農用地が総面積の約 89%を占めています。

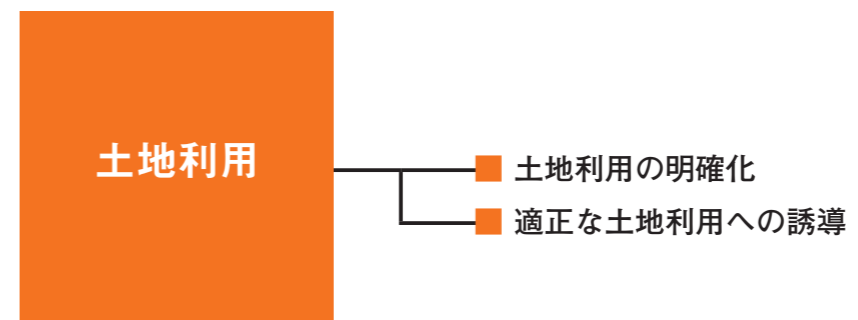
本村ではこれまで、農業振興地域整備計画や森林整備計画等の土地利用関連計画に基づき、計画的な土地利用を推進してきました。

しかし、社会・経済情勢の変化に伴い、農地面積が減少傾向にあり、基幹産業である農業の維持・発展に向けた農地の保全・活用が求められているほか、環境保全の重要性が叫ばれる中、美しい農村環境・里山景観や森林の保全に努めることが必要となっています。

また一方では、人口減少が進む中、定住・移住の促進やにぎわいの場・交流の場の再生と創造等を目指した積極的な土地利用を進めていくことも重要な課題となっています。

このため、土地利用関連計画の調整等を行いながら、適正な規制・誘導を行い、村の持続的発展を見据えた計画的な土地利用を進めていく必要があります。

施策の体系



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
人と文化が輝く  
たふさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに歩む  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

主要施策

(1) 土地利用の明確化

村の現状に即した適正かつ一体的な土地利用を推進するため、農業振興地域整備計画や森林整備計画等の見直しや調整を適宜行い、土地利用の明確化を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・土地利用計画策定に係る検討 ・人・農地プラン等の策定支援 ・農業振興地域整備計画の検討	村	村	継続	一般

(2) 適正な土地利用への誘導

無秩序な開発行為の未然防止や適正な土地利用の促進に向け、土地利用関連計画や関連法等の周知に努めるとともに、これらに基づく適正な規制・誘導に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・農業委員会の活動 ・国土法の事務事業	村	村	継続	一般

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
農地利用改善命令件数	件	0	0
土地利用計画策定検討会実施回数	回	0	2
不正大規模開発防止啓発チラシ配布等	回	0	1

村民・事業者が出来ること

- 村民・事業者は、計画的な土地利用に努めます。
- 村民・事業者は、自然環境及び生活環境に注意しながら土地利用に努めます。
- 村民は、土地の有効利用を図るため白地解消に努めます。

2 住宅施策、定住・移住

施策の目標

空き家等が更地に整備され里山景観が維持されている村づくりが進み、住みたい村・住んでみたい村が確立されている。

現状と課題

快適で安全・安心な住宅・住環境の確保は、人々の暮らしを支える最も基本的な条件であり、定住・移住の促進に直結する重要な要素です。

本村の公営住宅は、村営住宅と定住促進住宅があり、令和元年8月現在の管理戸数は、村営住宅が5団地61戸、定住促進住宅が20戸、移住定住促進住宅3戸となっています。

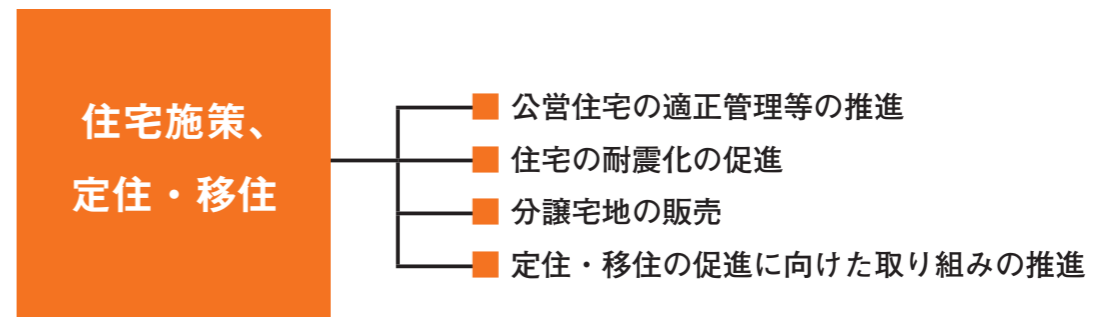
本村はこれまで、村営住宅の新築や老朽化した住宅の建て替えなどを進めてきたほか、定住促進住宅の新築や老朽化した住宅の取り壊しなどを進めてきました。

今後は、平成25年度に策定した公営住宅長寿命化計画に基づき、適正な管理に努めるとともに、需要と供給のバランスを見極めながら、建て替え等を検討していく必要があります。

このほか、本村ではこれまで、分譲宅地の開発・販売を進めてきたほか、これら住宅施策と連動した定住・移住促進施策として、村内の空き家に関する情報を収集・提供する空き家情報バンク制度を実施してきました。

今後は、人口減少の歯止めに向け、これらの取り組みを含め、定住・移住の促進に向けた効果的な取り組みを総合的に検討・推進していく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 公営住宅の適正管理等の推進

- ①公営住宅長寿命化計画に基づき、村営住宅の修繕・改善など、定住促進住宅の適正な維持管理を進めていくとともに、住宅用途変更や、取り壊し又は譲渡を含めた検討を進めます。
- ②村営住宅については、需要と供給のバランスを見極めながら、建て替え等も検討していきます。
- ③単身者用の集合住宅や、短期間の利用が可能な賃貸住宅等の整備を検討していきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・公営住宅長寿命化計画の見直し ・公営住宅維持管理事業 ・公営住宅の用途変更などの検討 ・住宅施策の村全体の見通しの検討	村	村	継続	一般

(2) 分譲宅地の販売

人口減少の歯止めに向け、関係機関との連携のもと、分譲宅地の販売を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・西野分譲地の販売促進	村	村	拡大	一般

(3) 定住・移住の促進に向けた取り組みの推進

- ①定住促進に向けた子育て世代に特化した支援の充実を図ります。
- ②空き家情報バンク制度について、広報・啓発活動の充実等による登録件数の増加や、再利用に直結する仕組みづくりなど、制度の充実を図ります。
- ③移住のための相談・サポート体制の整備、移住や二地域居住に向けたPR活動・交流イベントの展開、定住・移住希望者への経済的支援の推進、定住・移住の促進に向けた効果的な取り組みについて検討し、その推進に努めます。
- ④利用可能な空き家について有効活用を促進します。また適切な管理が行われていない空き家に対し適正な管理を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・定住促進住宅の維持管理 ・移住定住住宅の維持管理及び所有権移転の推進 ・空き家情報バンク登録の促進 ・空き家台帳の更新 ・庁内横断的な連携強化 ・庁内空家等対策検討委員会の立ち上げ及び移住支援策の検討 ・移住コーディネーターの配置	村	村	拡大	一般

・子育て世代住宅建設助成の検討	村	村	新規	一般
・子育て世代住宅リフォーム助成の検討				

事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
公営住宅の入居率	%	78.6	100.0
移住相談件数	件	0	5
空き家台帳の更新	%	50.0	100.0

村民・事業者が出来ること

村民は、空き家の活用への理解と情報提供等の協力を進めます。

事業者は、空き家を有効に活用するための仕組みを検討します。

村民・事業者は、村の魅力を発信するとともに、移住への誘導や受け入れ体制づくりに協力します。

3 道路・公共交通

施策の目標

老朽化した社会インフラ（公共施設・道路・橋梁など）の計画的な更新を図り、コンパクトヴィレッジ構想が検討され、取り組まれている村。

現状と課題

道路や公共交通は、住民の日常生活や産業・経済活動を支える重要な社会基盤です。本村の道路網は、平成26年4月現在、国道2路線（国道289号・349号）、県道5路線（主要地方道棚倉鮫川線・勿来浅川線、一般県道赤坂東野埦線・赤坂西野石川線・明内田中線）、村道138路線によって構成されています。国道289号については、いわき市・白河市間の物流の重要路線として整備が進められており、広域的アクセスの一層の向上が期待されています。

本村ではこれまで、国・県道の整備促進に努めるとともに、村道の整備を計画的に推進し、主要な村道網については、ほぼ整備されています。



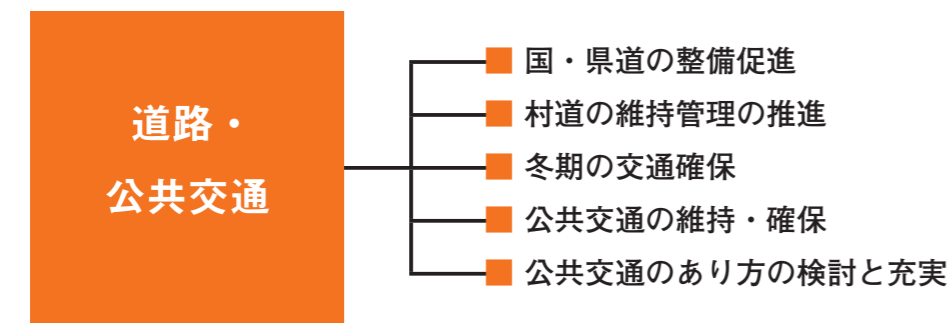
計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

今後は、交通利便性・安全性の向上と村全体の活性化に向け、国・県道の整備を引き続き促進していくとともに、村道網の維持管理、橋梁の長寿命化、除雪体制の維持・充実等に努める必要があります。

一方、本村の公共交通については、本村と石川町・埴町を結ぶ民間の路線バスが運行されているほか、村においても、本村と柵倉町を結ぶ村営バス「あおぞら号」を運行しています。そのほか、国民健康保険診療所の送迎バスやスクールバスがあります。

これらは、広域的な移動手段として、また村民生活における身近な交通手段として、重要な役割を果たしていることから、利用促進に向けた取り組みを進めながら、その維持・確保に努めるとともに、将来を見据え、村内の公共交通のあり方について検討していく必要があります。

## 施策の体系



## 主要施策

### (1) 国・県道の整備促進

国道289号・349号の全線拡幅改良、主要地方道勿来浅川線の未改良区間の改良など、国・県道の整備を関係機関に要請します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・事業調整会議時における要望	村	県	継続	—

### (2) 村道の維持管理の推進

- ①村道網については、路面の補修等の適正な維持管理を行うとともに、老朽化した橋梁の修繕等を行います。
- ②老朽化が進む道路ストック<sup>\*13</sup>について、道路利用者及び第三者の被害を防止するため、総点検を実施し、改良・維持管理等を行います。

\*13 これまで整備してきたトンネル、橋梁、歩道橋、付属施設などの道路構造物

③林道の改良・維持管理等を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・道路・橋梁補修工事の計画的な実施 ・国有地貸付測量業務の実施 ・村道路維持補修員の確保 ・原材料支給事業 ・道路付属施設等環境美化事業 ・道路舗装補修工事の計画的な実施 ・県単林道事業への要望	村	村	継続	一般/補助

### (3) 冬期の交通確保

冬期の交通及び安全性の確保のため、道路の除雪体制の維持・充実、融雪剤の散布等による凍結防止、地域住民と連携した身近な生活道路等の除雪を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・冬期間の道路対策事業	村	村	継続	一般

### (4) 公共交通の維持・確保

- ①村営バス「あおぞら号」について、現行の運行体制を維持していきます。
- ②民間の路線バスについて、利用者の増加に向けた施策を推進しながら、引き続き補助を行い、維持・確保を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・村営バス事業の実施 ・民間バス路線継続のための運行費欠損補助	村	村	継続	一般

### (5) 公共交通のあり方の検討と充実

路線バスや村営バスはもとより、国民健康保険診療所の送迎バスやスクールバス、タクシー等も含め、今後の本村の公共交通のあり方について検討し、その充実を段階的に進めていきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・公共交通検討会の実施	村	村	新規	一般

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
村道舗装率	%	85.9	90.0
公共交通検討会の開催	回	—	3

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な鮫川  
健康で安心な鮫川  
鮫川 活力と交流に満ちた村づくり  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
ともしあげる鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## 村民・事業者が出来ること

村民は、公共交通を積極的に利用し、公共交通が担う役割を理解します。

## 4 情報化

### 施策の目標

通信関係（IT インフラ）が整備されている村。

### 現状と課題

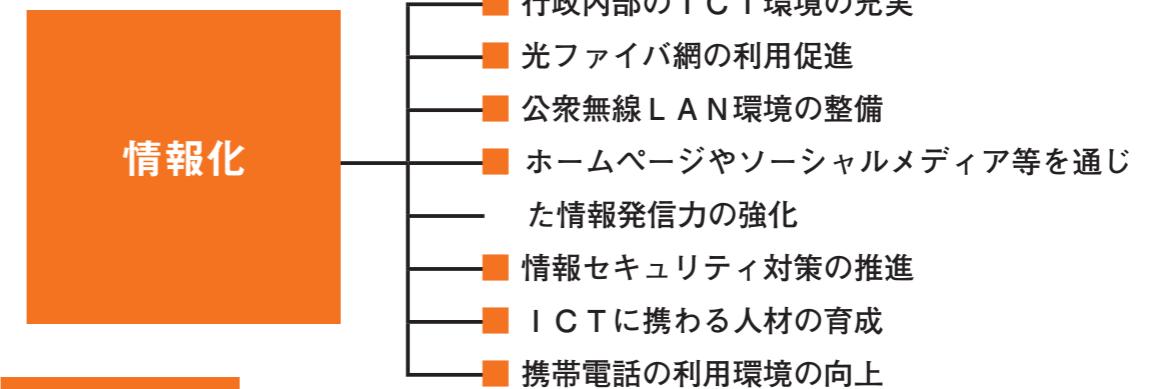
少子高齢化や医師不足、協働教育<sup>※14</sup>の実現、地域経済の活性化など、国及び地方が抱える様々な課題に対応するために、ICT<sup>※15</sup>の利活用は必要不可欠なものとなっています。

本村ではこれまで、電子自治体の構築に向けた各種システムの導入や更新を進めてきたほか、平成22年度には、地域情報通信基盤として、近隣6町村の連携により光ファイバ網を整備し、村全域の加入世帯・事業所において、超高速インターネット通信の利用が可能な環境を実現しました。

今後は、これまでの取り組みを生かした行政内部のICT環境の一層の充実をはじめ、ICT基盤の中でも災害に強く、地域活性化の手段としても有効な公衆無線LAN<sup>※16</sup>環境の整備、ホームページやソーシャルメディア<sup>※17</sup>を活用した情報発信力の強化、情報セキュリティ<sup>※18</sup>に関する知識の取得と意識レベルの向上、ICTに携わる人材の育成など、電子自治体の構築と村全体の情報化を総合的に進めていく必要があります。

また、携帯電話の利用環境については、平成18年度から令和元年度までに、通信事業者との連携のもと、21の基地局を整備し、携帯電話を利用できる世帯が全世帯の9割以上にのぼっている一方、いまだ通話できない地域もあります。携帯電話の基地局整備事業については、事業へ参画するキャリアがないため、今後どのような要望をしていくか対応が必要となっています。

### 施策の体系



### 主要施策

#### (1) 行政内部のICT環境の充実

電子自治体の構築に向け、既存の各種システムの維持管理及び更新、時代に即した新たなシステムの導入等を計画的に推進し、行政内部のICT環境の一層の充実を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・庁内情報端末維持管理	村	村	継続	一般
・行政アプリ事業の検討	村	村	新規	一般

#### (2) 光ファイバ網の利用促進

村民だれもが等しく情報サービスを利活用できるよう、通信事業者との連携のもと、広報・啓発活動等を行い、光ファイバ網の利用促進に努めるとともに、平成22年度に整備した設備の老朽化を見据えた維持活動が必要となってきます。また、民間移譲を見据えた検討に入ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・光ファイバ網維持管理	村	村	継続/検討	一般

#### (3) 公衆無線LAN環境の整備

地域における通信環境の向上はもとより、災害時の通信手段の確保、観光客の利便性の向上やテレワークへの対応策など、様々な分野で利活用が期待できる公衆無線LAN環境の整備を進めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・公衆無線LAN整備事業	村	村	新規	一般/その他

※14 家庭・地域・学校が協働して実践する教育活動  
 ※15 情報通信技術  
 ※16 無線通信システムを利用してインターネットへの接続を提供するサービス  
 ※17 社会的相互性を通じて広がるように設計された情報媒体  
 ※18 情報の安全・保護

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくり  
鮫川村の将来像  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
健康で安心な  
活力と交流に  
人と文化が輝く  
生活基盤が整っ  
ともにつくる  
計画の達成状況  
各種資料

#### (4) ホームページやソーシャルメディア等を通じた情報発信力の強化

行政サービスの利用の仕方や、村から知らせたい情報等をタイムリーに提供できるよう、ホームページやソーシャルメディア等による情報発信体制の充実及び職員の意識改革を行い、ホームページ等の定期的なリニューアルを行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ホームページ維持管理事業及びリニューアルの検討 ・庁内における更新の促進 ・SNSの積極的な更新の促進	村	村	拡大	一般

#### (5) 情報セキュリティ対策の推進

コンピュータウイルスや不正アクセス、情報の流出・漏えいなどを防止し、情報システムの信頼性・安全性を高めるため、情報提供や普及・啓発など、情報セキュリティ対策を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・情報セキュリティ対策の徹底 ・職員のセキュリティ意識の向上促進 ・適切な端末への定期的な更新 ・基幹システムの自治体クラウドの運用 ・マイナンバー制度への対応	村	村	継続	一般

#### (6) ICTに携わる人材の育成

ICTに携わる人材の育成のための講習等を実施する団体や組織等の設立を進め、ICTにより社会的課題の解決や新たなサービスの創出、利便性の向上に寄与できる人材の育成を支援します。

#### (7) 携帯電話の利用環境の向上

通信事業者との連携のもと、全世帯で携帯電話による通話ができる環境の整備について検討し、その推進に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・無線システム普及支援事業への要望	村	村	継続	一般/補助

#### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
ホームページ閲覧件数(年間)	件	552,384	600,000
公衆無線LANアクセスポイント	箇所	1	4
SNSアカウントフォロワー数(Twitter)	人	—	500
メール配信登録者数	人	230	300

#### 村民・事業者が出来ること

村民は、村政に関心を持って自発的に情報収集を行い、行政に対し提案をします。



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健康で安心な  
ふるさと鮫川  
鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整った  
ふるさと鮫川  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 第6章 ともにつくるふるさと鮫川

### 1 男女共同参画

#### 施策の目標

国際社会とともに男女共同参画推進し、男女が平等に政治・経済・社会とともに責任を担っている開かれた村。

#### 現状と課題

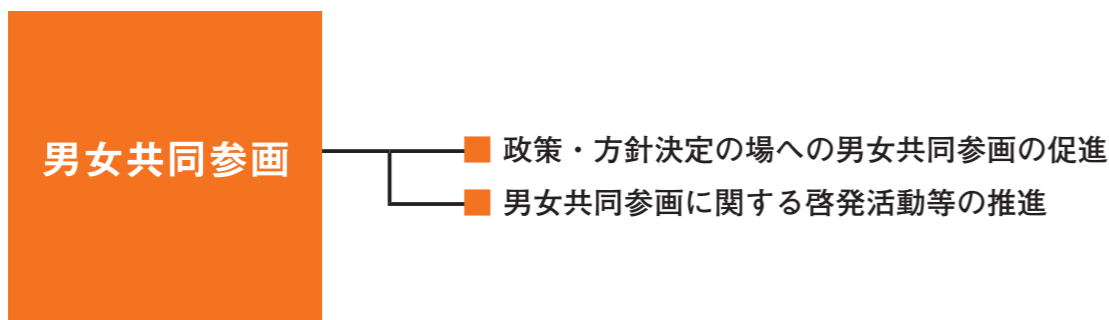
男女が社会のあらゆる分野に参画し、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が求められています。こうした社会の実現は、人口減少時代を迎えたわが国の最重要課題の一つに掲げられ、男女共同参画社会基本法等に基づいた取り組みが進められています。

本村では、審議会・委員会等への女性の積極的な登用等を行い、特に、公民館運営審議会における女性の割合は80%を超えているほか、各種団体やボランティア団体等においても女性が数多く在籍しており、女性の意見が反映される仕組みが整いつつあります。

しかし、依然として女性の能力・適性への偏見や、「男は仕事、女は家庭」、「男性は主要業務、女性は補助的業務」といった固定的な性別役割分担意識が根強く残っているほか、男女がともに社会参画するための条件整備も十分とはいえません。

このため、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画し、様々な利益を享受することができるよう、啓発活動の推進をはじめ、男女の社会参画を促進する施策を総合的・計画的に推進していく必要があります。

#### 施策の体系



#### 主要施策

#### (1) 政策・方針決定の場への男女共同参画の促進

- ①多様な分野における政策・方針決定の場への男女共同参画を進めるため、各種の審議会・委員会への女性の積極的な登用を図ります。
- ②女性の能力向上やリーダーの育成を進めるため、学習機会の提供や団体活動の支援に努めます。

#### (2) 男女共同参画に関する啓発活動等の推進

広報・啓発活動や学校教育、生涯学習など様々な場を通じ、固定的な性別役割分担意識の解消や男女平等意識の浸透、ワーク・ライフ・バランス<sup>\*19</sup>の実現等に向けた教育・啓発活動を推進します。

#### 村民・事業者が出来ること

**村民**は、性別に関わりなくお互いを認め合い、助け合い、豊かな人間関係を目指します。

**事業者**は、仕事と家庭が両立できる環境の整備を進めます。

### 2 コミュニティ

#### 施策の目標

スポーツ・文化・芸術・子育て等、様々な分野でコミュニティ活動やイベントが充実し、活動拠点の整備されている村。

#### 現状と課題

全国的に限界集落の増加や高齢者の孤独死の発生が社会問題となっているほか、多くの地域において住民同士の交流の減少や地域連帯意識の希薄化がみられ、コミュニティの弱体化や崩壊が課題となっています。

しかし、地域における自主的な防災活動や避難支援活動をはじめ、高齢者や子どもの見守りなどの必要性が高まる中で、地域で支え合い助け合いながら地域の課題を自ら解決していくことの

\*19 仕事と生活の調和

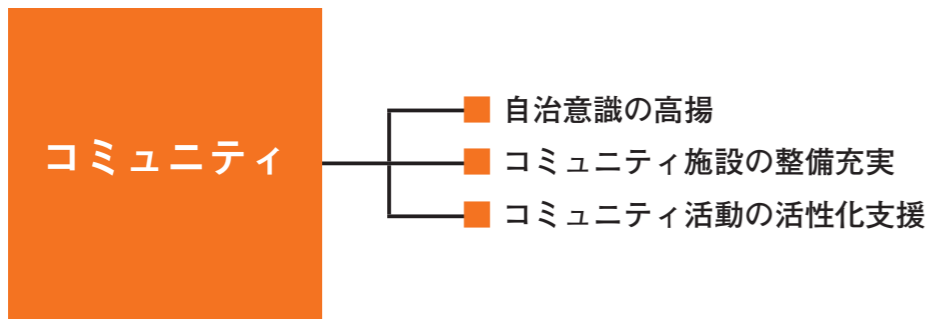
計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全なふるさと鮫川  
健やかで安心なふるさと鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

重要性が再認識されるようになってきており、コミュニティの活性化が強く求められています。

本村では、行政区や組を中心に自治活動が展開されています。特に、7つに分かれている行政区は、区長を中心に様々な活動を行っており、地域の活性化や独自の地域づくりに向けた取り組みが行われています。

今後とも、このようなコミュニティ活動を積極的に支援・促進し、自治機能の一層の向上を促し、地域の課題を地域自ら解決することができる住民自治の地域づくり、個性豊かな地域づくりを進めていく必要があります。

## 施策の体系



## 主要施策

### (1) 自治意識の高揚

コミュニティや住民自治の重要性、実際の活動状況等についての広報・啓発活動を行い、村民の自治意識の高揚に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・自治意識の高揚促進事業				
・住民による村づくりを推進する広報・啓発活動の実施	村	村	新規	一般
・行政組織運営助成	村	村	継続	一般

### (2) コミュニティ施設の整備充実

- ①コミュニティ活動の拠点・交流の場となる集落センターや集会所の整備充実を進めるとともに、地域住民による施設の自主管理・運営体制の充実を促進します。
- ②小さな拠点づくりにも目を向け、今後の地域活動に注視していくとともに、地域サロンの重要性につ

いて啓発していきます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・自治意識の高揚を参照	村	村	継続	一般
・地域サロンの促進	村	村	新規	一般

### (3) コミュニティ活動の活性化支援

自主的なコミュニティ活動の一層の活発化に向け、行政区及びその活動に対する支援を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・自治意識の高揚を参照	村	村	継続	一般

### 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
行政区の維持	行政区	7	7
地域づくり協議会設置数	—	—	3
住民主体の村づくり推進に係る広報・啓発活動の実施	回	0	4

### 村民・事業者が出来ること

村民は、行政区等に加入し、地域コミュニティ活動に積極的に参加します。

## 3 協働の村づくり

### 施策の目標

村民・地域・行政が一体となり協力・連携し、お互いに尊重しながら、故郷を守り続ける村づくりを行っている村。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の推移  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が豊か  
なふるさと鮫川  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

現状と課題

今後も厳しい財政状況が続くことが予想される中で、個性的で自立した村を創造し、将来にわたって持続的に経営していくためには、住民をはじめ、住民団体や民間企業等の多様な主体の参画と協働が必要不可欠です。

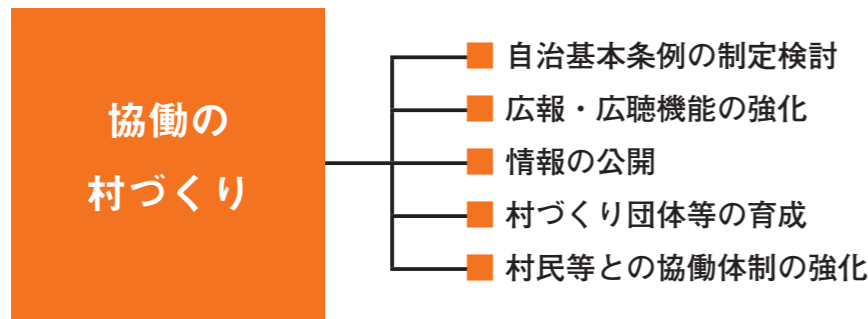
そのためには、住民等と行政とが情報・意識を共有できるよう、行政情報を積極的に提供・公開しながら、多様な住民参画・協働の仕組みづくりを進めていく必要があります。

本村では、村民の視点に立った村づくりを基本に、「広報さめがわ」や「さめがわ議会だより」、ホームページなどを通じて行政情報・地域情報を提供しているほか、行政区長との会議や行政区懇談会の開催、意見箱の設置などにより、村民の意見・要望の反映に努めています。

また、アンケート調査の実施や審議会・委員会の開催を通じて、村民参画のもとに行政計画の策定・推進に努めているほか、情報公開条例の制定のもと、情報の公開に努めています。

今後は、こうした取り組みをさらに充実させ、村民等と行政とが知恵と力を合わせた協働の村づくり、村民をはじめ多様な主体がともに公共を担う村づくりを進めていく必要があります。

施策の体系



主要施策

(1) 自治基本条例の制定検討

新たな時代の協働の村づくりを総合的・計画的に進めるため、その指針となる自治基本条例の制定について検討します。

(2) 広報・広聴機能の強化

①「広報さめがわ」や「さめがわ議会だより」の内容充実を図り、広報機能の強化を図ります。

②行政区長との会議や行政区懇談会の内容の充実、意見箱の周知を図り、広聴機能の強化に努めます。  
③ホームページの定期的な内容の見直し及び有効活用を図り、双方向性の広報・広聴活動を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ 広報・ほっと通信発行事業 ・ 行政情報の充実化及び迅速化 ・ 村民との対話の日 ・ 地域懇談会の開催 ・ 村政要覧の作成	村	村	継続	一般

(3) 情報の公開

村民への説明責任を果たし、開かれた村政を推進するため、情報公開条例に基づき、情報の公開を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ 村民のまめ暮らしガイドブック更新事業 ・ ホームページ更新の啓発	村	村	継続	一般

(4) 村づくり団体等の育成

新たな時代の協働の村づくりの担い手として、村づくり団体やNPO等の育成に努めます。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ 既存団体との懇談 ・ 地域人材育成の推進 ・ 地域づくり活動事業補助の見直しと活用促進	村	村/住民	継続	一般
	村	村/住民	新規	一般

(5) 村民等との協働体制の強化

①村の政策形成への村民等の参画・協働を促すため、各種行政計画の策定や見直しにあたり、必要に応じて、アンケート調査やパブリックコメント<sup>\*20</sup>、審議会や委員会の委員の一般公募を行います。  
②多様な主体がともに公共を担う村づくりを進めるため、公共施設の管理や公共サービスの提供等への村民団体やNPO、民間企業等の参画を促進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ 2. コミュニティ （1）自治意識の高揚を参照	—	—	—	—
・ 若者会議など、村づくりに提言できる組織づくり	村	村	新規	一般

\*20 ホームページ等を活用した住民の意見の募集とその対応結果の公表



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
鮫川  
健康で安心な  
鮫川  
活力と交流に  
満ちた鮫川  
人と文化が輝く  
鮫川  
生活基盤が豊か  
な鮫川  
鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
行政施策や課の取り組みを伝える特集の掲載数	回	2	4
NPO法人数	法人	0	1
ガイドブックアクセス数	件	0	2,000

### 村民・事業者が出来ること

村民は、行政に対し意見を伝えたり、提案をします。

## 4 自治体経営

### 施策の目標

健全で持続可能な安定した行財政運営を推進する村。

### 現状と課題

国や地方の財政状況の悪化、少子高齢化の進行、地方分権の進展をはじめ、社会・経済情勢が大きく変化する中で、これからの自治体には、住民とともに、自らの未来を自らが決め、自らの創意工夫や努力、責任によって持続可能な自治体経営を進めていくことが強く求められます。

本村ではこれまで、3次にわたる行政改革大綱や2次にわたる自立推進プランの策定のもと、事務事業の見直しや財政運営の効率化、行政組織・機構の見直しなどに取り組み、一定の成果を上げてきました。

しかし、今後、少子高齢化の一層の進行や安全・安心への意識の高まり、情報化の進展、価値観の多様化等に伴い、村行政に求められる役割は一層増大・多様化していくことが見込まれます。

また一方では、国・地方の財政状況が依然として厳しい中で、引き続き極めて厳しい財政運営を迫られることが予想されます。

2018 (H30) 年度決算においては、歳入の72.4%を地方交付税や国・県支出金、地方譲与税などの依存財源が占め、自主財源の比率は27.6%です。

地方交付税は合併による算定の特例期間が2020年度までとなり今後の収入減が予測されます。

村の借金である地方債残高については5年前に比べ6億円減の35億円、貯金である基金残高

では5年前に比べ4億円増の21億円となっています。

少子高齢化の進展による社会保障費のほか、公共施設やインフラの更新による経費の増加等により、年々財政運営が厳しくなることが予想されますが、限られた経営資源を有効に活用し、自主性・弾力性のある財政運営を推進するために村税を中心とした自主財源の確保による財政基盤の強化を図るとともに、必要性・緊急性等を踏まえ簡素で効率的な行財政運営が必要です。

このため、今後は、行財政全般について常に点検・評価し、事務事業の見直しや行政組織・機構の再編をはじめとする行財政改革を積極的に推進していくとともに、これと連動しながら、新たな広域連携のあり方についても研究していく必要があります。

主要財政指標	2016年度	2017年度	2018年度
経常収支比率	81.4	86.4	85.4
財政力指数	0.161	0.169	0.175
実質公債費比率	5.3	6.1	6.3
将来負担比率	-	-	-

**【経常収支比率】** 地方公共団体の財政構造の弾力性を表す指標で、毎年度常に支出しなければならない費用に使われている一般財源が自由に使える一般財源の総額に対してどの程度の割合を占めているかを表したものです。この比率が低いほうが自治体独自の施策に使える財源が大きいと言えます、80%を超えると財政の弾力性が失われつつあると言われる。

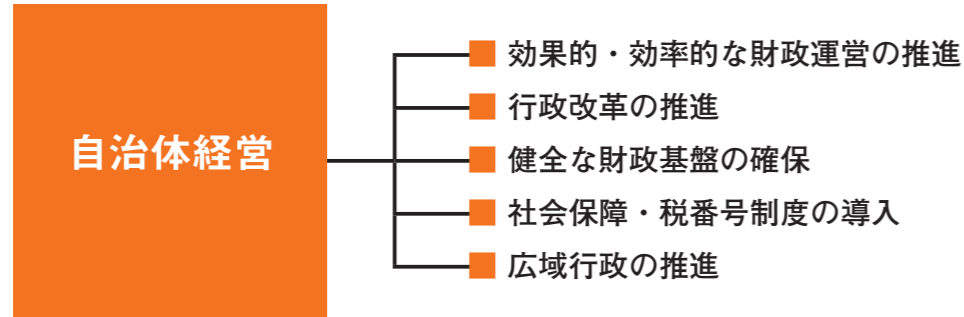
**【財政力指数】** 地方公共団体の財政力の強弱を表す指標で、この指数が1を超えると自前の収入で標準的な行政を行うことができるとみなされ、普通交付税の交付がなくなる。

**【実質公債費比率】** 健全化法に基づく4つの指標の一つで、一般会計などが負担する借入金（地方債）返済額（公営事業会計や一部事務組合などの分も含む）が標準財政規模に占める割合を示し、実質的な借入金返済額の負担の重さを表す指標。平成18年度に地方債が許可制度から協議制度に移行したことにより、起債制限のための指標として導入されていたが、健全化法の成立により4つの指標の一つとして組み込まれた。この指標が18%を超えると借入れの際に許可が必要となり、25%を超えると一部の地方債において起債することができなくなる。健全化法では、25%を超えると早期健全化基準団体となり財政健全化計画の策定が義務付けられ、外部監査が強制適用される。35%を超えると財政再生基準団体となり、財政再生計画の策定が義務付けられ、外部監査の強制適用ほか、地方債発行の際の総務大臣の関与が発生する。

**【将来負担比率】** 健全化法に基づく4つの指標の一つで、一般会計などが将来負担すべき債務（地方債償還金、退職手当など）が標準財政規模の何倍あるかを示す。この比率が高いと将来的に財政が圧迫される可能性が高くなり、350%を超えると早期健全化基準団体となる。本村では、財政健全化判断比率に算定されていません。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の目標と  
人口の目標と  
計画の体系  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な鮫川  
健やかで安心な鮫川  
活力と交流に満ちた鮫川  
人と文化が輝く鮫川  
生活基盤が整った鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 施策の体系



## 主要施策

### (1) 効果的・効率的な財政運営の推進

- ①事業実施計画書・評価により行政サービス、事業の在り方を検討し、効率的な執行を図ります。
- ②ふるさと納税制度の活用を促進するため、寄付金の使途、返礼品、手続きなどの検討を行い寄付金額の増加を図ります。
- ③地方債の計画的な借り入れと公債費負担の抑制するため、実質公債費比率、将来負担比率、地方債現在残高を勘案し、財源の状況を判断しながら地方債の発行を行います。
- ④財政状況の公表と財政運営の透明性の確保するため、広報紙やホームページなどを通じて予算、決算、事業計画等の情報をわかりやすく提供します。地方公会計による財務書類を作成します。
- ⑤公共施設等の総合管理計画に基づいて、施設の長寿命化や更新を計画的に実施し、予算の標準化と抑制を図るとともに、公共施設の老朽化により見込まれる修繕・更新・解体工事費用の確保及び財産の取得・処分等を総合的かつ計画的に進め、財政負担の軽減を図ります。
- ⑥財政健全化法に基づく財政指標を踏まえ、財政状況の分析・公表を行いながら、費用対効果や重要度、緊急度等を総合的に勘案して財源配分の重点化を図り、効果的・効率的な財政運営を推進します。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・ふるさと納税ポータルサイトの導入	村	村	新規	一般
・ふるさと納税返礼品の検討				
・庁舎等維持管理の計画的な執行	村	村	継続	一般

### (2) 行政改革の推進

- ①さらなる行政改革を推進し、少数精鋭による持続可能な自治体経営の推進に向け、事務事業の見直しや行政組織・機構の再編、定員の適正管理、職員研修の充実を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・村振興計画進捗管理事業	村	村	新規	一般
・職員研修事業の強化	村	村	新規	一般

### (3) 健全な財政基盤の確保

- ①限られた財源を効率的に活用するため、経費全般についての徹底的な見直しを行い、その節減・合理化を図ります。
- ②村税他徴収金の収納率の向上を図るため、課税対象の的確な把握や現年度分の収納率の向上に努め、滞納繰越額の減少に努め、住民税の特別徴収の徹底と円滑な実施を図ります。  
また、受益者負担の原則に基づく使用料・手数料の見直し等を図り、自主財源の確保を図るとともに、国・県の各種制度の有効活用を図ります。
- ③公共施設整備の中長期計画の樹立による財源確保・運営体制の確立に向けた検討を行います。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・村税等収納率の向上				
・公有施設整備基金及び教育施設整備基金への積立て促進	村	村	継続	一般
・公共施設等総合管理計画の更新				
・固定資産台帳等、財産台帳の整備事業				
・個別施設計画策定事業				

### (4) 社会保障・税番号制度の導入

社会保障・税番号制度の導入と活用の推進し、行政の効率化と人々の利便性の向上、公平・公正な社会の実現に向けて新たに導入される「社会保障・税番号制度<sup>\*21</sup>」について、庁内における必要な体制整備を進め、円滑な導入・定着化を図ります。

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
・戸籍住民基本台帳整備事業				
・戸籍事務へのマイナンバー導入事業	村	村	継続	一般
・国外転出者のマイナンバー対応事業				
・情報セキュリティ対策の推進参照				

### (5) 広域行政の推進

- ①しらかわ地域定住自立圏構想推進協議会では、県南9市町村による定住自立圏<sup>\*22</sup>の形成や連携事業のあり方などに関する調査・研究を進めています。中心市である白河市と連携・協力し、村の振興策に取り組みます。
- ②白河地方広域市町村圏整備組合における共同事業の効果的推進に努めます。

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくり  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
健康で安心な  
鮫川  
活力と交流に  
人と文化が輝く  
生活基盤が整う  
鮫川  
計画の達成状況  
各種資料

具体的事業	事業主体	運営主体	目標値等	予定財源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・しらかわ地域定住自立圏構想推進協議会との連携事業</li> <li>・白河地方広域市町村圏整備組合との共同事業の推進事業</li> <li>・基幹系システムの自治体クラウド化</li> </ul>	村	村／しらかわ地域定住自立圏構想推進協議会／白河地方広域市町村圏整備組合との共同事業	継続	一般

## 事業業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	令和元年度 (実績)	令和6年度 (目標)
経常収支比率	%	85.4	83.9

※過去10年分の経常収支比率の平均値となっています。

**村民・事業者が出来ること**

- 村民は、村民の視点に立って行政サービスを監視します。
- 村民は、村の現状を直視し、事業の選択を理解します。

\*21 国民一人ひとりに12桁のマイナンバー（個人番号）が通知され、平成28年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きで利用される

\*22 定住自立圏とは、圏域の中心市と連携市町村が相互に役割分担し、生活機能の確保や地域住民の利便性向上など、圏域全体の活性化を図ることを目的とした広域行政の新たな取り組みであり、本圏域では、平成26年8月に白河市が中心市宣言を行った

## 第7章 計画の達成状況の点検及び評価

### 1 点検及び評価の基本的な考え方

むらの将来像を実現するためには、計画に掲げる施策や事業を着実に実行するとともに成果を検証し、必要に応じて事業内容を見直していくことが必要です。

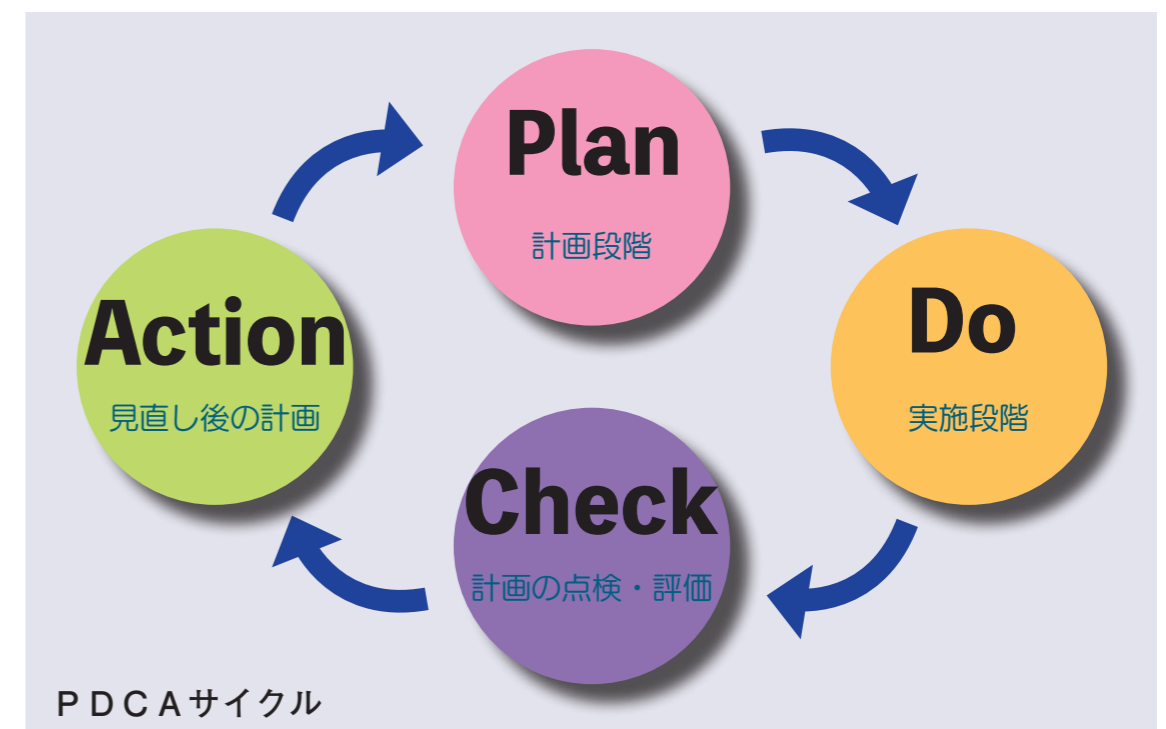
本計画についても、行財政計画の基礎となる振興計画と予算、行政評価が有機的に連携する政策評価、事務事業評価に加え、重要業績評価指標（KPI）を設定し、PDCAサイクルによる検証を行うことで実効性の高い計画とします。

本村は、これらの基本的な考え方にに基づき、計画の達成状況の点検及び評価を実施します。

### 2 点検及び評価体制

計画の点検・評価に当たっては、各課や各係での毎年度の事業実績や検証結果をもとに、ヒアリングを実施し村全体で点検及び評価を実施します。

#### 点検・評価のフロー





計画の概要	計画の概要
鯉川村の概況	鯉川村の概況
新たな村づくりに向けて	新たな村づくりに向けて
鯉川村の将来像	鯉川村の将来像
計画の体系	人口の目標と
施策の方針	施策の方針
重点構想	重点構想
きれいで安全なふるさと鯉川	きれいで安全なふるさと鯉川
健やかで安心なふるさと鯉川	健やかで安心なふるさと鯉川
活力と交流に満ちたふるさと鯉川	活力と交流に満ちたふるさと鯉川
人と文化が輝くふるさと鯉川	人と文化が輝くふるさと鯉川
生活基盤が整ったふるさと鯉川	生活基盤が整ったふるさと鯉川
ともしつるふるさと鯉川	ともしつるふるさと鯉川
計画の達成状況の点検と評価	計画の達成状況の点検と評価
各種資料	各種資料

## Plan 計画段階

### Plan：計画する

PDCAのP(Plan)とは、目標を設定し、業務計画を作成する段階のことです。解決したい問題を見つけて理解を深めます。そして、目標における情報を集め、解決策を考え、計画を立てていきます。

## Do 実施段階

### Do：実行する

PDCAのD(Do)とは、Pの段階で立てた計画を実際にやってみる段階のことです。問題を解決するための方法を見つけたら、少しずつ試してみます。実際に方法を試した際、その方法が有効だったか無効だったかの記録は、次の段階(Check)で使えます。

## Check 計画の点検・評価

### Check：点検する

PDCAのC(Check)とは、計画に沿って実行出来ていたのかを点検・評価する段階のことです。この段階で試してみた解決策の結果をPlan(計画)の時の予想と比較して分析し、解決策が有効かどうかを評価します。

## Action 見直し後の計画

### Action：見直しする

PDCAのA(Action)とは、実施結果を検討し、業務の改善を行う段階のことです。Pで計画し、Dでテストをした結果をCで点検し、最後のAで見直し、改善します。

PDCAはサイクルで、始まりも終わりもありません。最後のActionの段階が終了して改善した時点をもた新たにベースラインとして、より良い解決策を探し続けます。

# 巻末付録

# 各種資料

計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の体系  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な  
ふるさと鮫川  
健やかで安心な  
ふるさと鮫川  
活力と交流に  
満ちたふるさと  
ふるさと鮫川  
人と文化が輝く  
ふるさと鮫川  
生活基盤が整っ  
たふるさと鮫川  
ふるさと鮫川  
ともに  
ふるさと鮫川  
計画の達成状況  
の点検及び評価  
各種資料

## 持続可能な開発目標（SDGs）について

平成27年（2015年）に国連において、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として、世界全体の経済、社会及び環境の三側面を、不可分のものとして調和させる統合的取組として作成され、この中にSDGsとして17のゴール（目標）と169のターゲットが掲げられています。

### ■ 国における取組

国では、持続可能な開発目標（SDGs）推進本部を、平成28（2016）年に内閣に設置し、国家戦略として「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を平成28（2016）年12月に策定しています。また、指針に「地方自治体（民間企業や消費者等）に対し、各種計画や戦略、方針の策定や改定にあたり、SDGsの要素を最大限反映するとともに、SDGs達成に向けた取組を促進する」ことを求めています。

### ■ 本村におけるSDGsの推進に向けた基本的な考え方

SDGsの理念や国の動向等を踏まえながら、各施策・事務事業を実施するとともに、関連の深い分野別計画等との連携を図るため、振興計画と連動させ、SDGsの達成に寄与する取組を積極的に推進します。



出典：国際連合広報センター

## ■ 各施策の取組状況一覧

### 1. きれいで安全なふるさと鮫川（生活環境分野）

施策項目… ①環境・景観、エネルギー／②ごみ処理等環境衛生／③上・下水道／④公園・緑地、緑化／⑤消防・防災／⑥防犯・交通安全



### 2. 健やかで安心なふるさと鮫川（保健・医療・福祉分野）

施策項目… ①保健・医療／②子育て支援／③高齢者支援／④障がい者支援／⑤地域福祉／⑥社会保障



### 3. 活力と交流に満ちたふるさと鮫川（産業分野）

施策項目… ①農林業／②観光・交流／③商工業／④雇用対策／⑤消費者対策



### 4. 人と文化が輝くふるさと鮫川（教育・文化分野）

施策項目… ①生涯学習／②学校教育／③文化芸術・文化財／④スポーツ



### 5. 生活基盤が整ったふるさと鮫川（生活基盤分野）

施策項目… ①土地利用／②住宅施策、定住・移住／③道路・公共交通／④情報化



### 6. ともに作るふるさと鮫川（協働・行財政分野）

施策項目… ①男女共同参画／②コミュニティ／③協働の村づくり／④自治体経営



## 策定の経緯

### (1) 鮫川村振興計画審議会の委員名簿

部門別	所属	職名	氏名	摘要
村議会議員	村議会	議長	星 一彌	
		副議長	宗田 雅之	
		総務文教常任委員長	前田 武久	
		総務文教常任副委員長	森 隆之	
		産業厚生常任委員長	北條 利雄	
住民	行政区	産業厚生常任副委員長	堀川 照夫	
		赤坂西野区長	増谷 隆夫	
		西山区長	根本 一美	
		赤坂中野区長	矢吹 秋男	
		赤坂東野石井草区長	佐藤 博	
		富田区長	青戸 義之	
		渡瀬区長	芳賀 亨	
関係団体の職員	農協	青生野区長	岡部 忠市	
		鮫川支店長	井戸沼 謙一	
		会長	藤田 浩之	
	農業委員会	会長	前田 勝之	
		会長	石井 洋平	
		会長		
学識経験者	教育委員会	村PTA		
		教育長職務代理者	阿久津 光市	
	民生委員	会長	宗田 豊	

### (2) 鮫川村振興計画審議会の経過

開催年月日		主な内容
第1回	令和2年11月9日(月)	鮫川村第4次振興計画後期基本計画(案)について
第2回	令和2年11月25日(水)	審議
第3回	令和2年12月16日(水)	審議・答申内容の検討
—	令和2年12月21日(月)	答申

### (3) 地域懇談会の実施

第4次振興計画(平成27年度～令和6年度)の中間点で、これまでの施策や事業を報告し、村民の意見や要望を聴き、後期基本計画策定に反映させるため、行政区ごとに地域懇談会を実施しました。

	実施日	行政区	会場	出席人数
1	10月23日(水)	渡瀬区	渡瀬区集落センター	18人
2	10月27日(日)	赤坂中野区	村公民館	15人
3	10月28日(月)	富田区	富田区集落センター	21人
4	10月30日(水)	青生野区	青生野集落センター	23人
5	10月31日(木)	西山区	西山区集落センター	24人
6	11月1日(金)	赤坂西野区	赤坂西野区民センター	37人
7	11月3日(日)	赤坂東野石井草区	村公民館	30人

### (4) 村民アンケート調査

第4次振興計画(平成27年度～令和6年度)の進捗状況の把握や、現在抱える問題及び課題を洗いだし、今後の取り組みを検討するための基礎資料として住民アンケートを実施しました。

区分	村民アンケート	中学生アンケート
調査対象	18歳以上の鮫川村民	鮫川中学校生徒全員
配布数	1,500	87
抽出法	無作為抽出	—
調査時期	令和元年12月	令和元年12月
調査地域	村内全域	村内全域
有効回収数	913	51
有効回収率	60.9%	58.6%

### (5) 村づくり委員会による検討経過等

#### ①村づくり委員会委員名簿

氏名	住所
藤元 良子	大字赤坂西野
白坂 忠幸	大字赤坂西野
関根 浩治	大字西山
阿久津 好貴	大字西山
根本 良子	大字西山
阿久津 光市	大字西山
矢吹 靖弘	大字赤坂西野
窪木 浩一	大字赤坂東野
渡邊 浩佳	大字赤坂東野
松本 淳子	大字富田



計画の概要  
鮫川村の概況  
新たな村づくりに向けて  
鮫川村の将来像  
計画の将来  
人口の目標と  
施策の方針  
重点構想  
きれいで安全な鮫川  
健やかで安心な鮫川  
活力と交流に満ちたふるさと鮫川  
人と文化が輝くふるさと鮫川  
生活基盤が整ったふるさと鮫川  
ともに生きるふるさと鮫川  
計画の達成状況の点検及び評価  
各種資料

## ②検討経過

開催年月日		主な内容
第1回	令和2年7月1日(水)	・第4次鮫川村振興計画総論・基本構想について ・専門部会の設置について ・村づくりアンケート結果について
第2回	令和2年7月14日(火)	・委員の意見交換について ・各分野の将来像について ・各分野の意見について
第3回	令和2年7月29日(水)	・委員の意見交換について ・各分野の将来像について ・各分野の意見について
	令和2年8月11日(火)	・提言書の提出

## (6) 庁内策定組織による検討経過等

### ①策定委員会委員名簿

生活環境分野 & 生活基盤分野専門部会		所 属	
部会長	坂本 雄希	地域整備課 環境係	主任主事
副部会長	平田 太良	農林商工課 農政係	主任技師
	関根 夏希	地域整備課 建設係	主 事
	芳賀 峻	住民福祉課 健康係	主 事
	村越 太一	総務課 総務係	主 事
	根本 潔	地域整備課 建設係	主 査
委員長	水野 亮達	農林商工課 農政係	主 査
	阿久津 翔	総務課 企画情報係	主 事

保健・医療・福祉分野 & 教育・文化分野専門部会		所 属	
部会長	水野 克哉	こどもセンター	主 査
副部会長	岡部 和彦	こどもセンター	主任保育教諭
	西野 瑞宣	総務課 財政係	主任主事
	五十嵐静香	こどもセンター	主任保育教諭
	松坂 孝太	農林商工課 商工観光係	主 事
	須藤 尚紀	住民福祉課 福祉係	主 査
	高坂 正紀	教育課 生涯学習係	主 査
	西橋 耕平	総務課 企画情報係	主任主事

産業分野 & 協働・行財政分野専門部会		所 属	
部会長	宇佐見 純平	農林商工課 農政係	主任主事
副部会長	塩田 寿弥	農業委員会	主任主事
	原 聡志	総務課 税務係	主任主事
	佐藤 克哉	住民福祉課 住民係	主任主事
	藤田 冬華	農林商工課 商工観光係	主 事
副委員長	緑川 正和	農林商工課 商工観光係	主 査
	本郷 睦	総務課 税務係	主 査
	小池 颯都	総務課 企画情報係	主 事

## ②検討経過

開催年月日		主な内容
第1回	令和2年5月20日	・鮫川村第4次振興計画後期基本計画策定について ・第4次鮫川村振興計画総論・基本構想について ・専門部会の設置について ・村づくりアンケート結果について ・各部会の編成について
第2回	令和2年6月2日	・鮫川村の将来像について
第3回	令和2年6月16・17日	・現状把握シートの作成
第4回	令和2年6月24・25日	・現状把握シートの作成
第5回	令和2年7月3・8日	・現状把握シートの作成
第6回	令和2年7月9・10・13日	・委員会報告書の作成
第7回	令和2年7月15日 令和2年7月22日	・委員会報告書の作成 ・委員会報告書の提出
第8回	令和2年10月29日	・鮫川村第4次振興計画後期基本計画(案)について ・PDCAサイクルの実施方法について

## 第4次鮫川村振興計画(改訂)

令和2年12月

発行 鮫川村  
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39番地5  
TEL 0247-49-3111(代) FAX 0247-49-2651(代)  
URL <https://www.vill.samegawa.fukushima.jp/>  
E-mail [soumu@vill.samegawa.fukushima.jp](mailto:soumu@vill.samegawa.fukushima.jp)  
編集 鮫川村総務課



鮫川村